



TITLE:

大学教育の改善に関する京大教官
の意識(<第2部>自由記述部分への
回答)

AUTHOR(S):

CITATION:

大学教育の改善に関する京大教官の意識(<第2部>自由記述部分への回
答). 京都大学高等教育叢書 1999, 5: 41-112

ISSUE DATE:

1999-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/53932>

RIGHT:

第2部 自由記述部分への回答

① センターはどのような活動をすべきか

〈教育〉

全般

- ・ 各学部の教員は、それぞれの1・2回生の学生の状況について認識が極めて不足していると思う。一般論としてのFD研究も重要かもしれないが、現在の学生の意識状況と、学部教員の期待との大幅なズレを、どのように埋めていくのかを念頭に置いた、より具体的な取り組みを望みたい。
- ・ 私のように教授方法について全く無知なものもありますので、是非啓蒙の程をお願い申し上げます。大学の社会は使命、組織、カリキュラムの全面的な変動を迎え、授業のあり方も根本的に見直す時期が来ていると存じます。様々な面から検討していただきたく存じます。
- ・ 1クラスの人数が多く、コマ数が多く、その上に学内の会議・雑用が異常に多いという現在の環境の中で疲れ切っています。制度的に問題があるのでは、という気がします。(これは貴センターの活動の範囲外でしょうけれど…。)
- ・ 問題は「やる気」とか「能力」ではなくて、いくら上手に教えた処、何のメリットも無い。(研究のみが昇進につながる。)
- ・ 京大の全学的教育改革を(特に全学共通科目等)積極的にリードすべきである。また教育上既に問題である教室施設の改善を強く提言・リードすべきである。
- ・ 研究と教育の関わり合いを研究すべき。教育をする側と受ける側、双方の意識改革(?)を進めるようなことが必要ではないか。
- ・ 国立大学における教育の重要性、社会的意義の解明
- ・ 少人数カリキュラムへのとりくみ
- ・ 高等教育機関としての大学がどうあるべきなのか根本にたちかえって考えてほしい。単なる知識の伝達のための教授法システムの開発であれば(いわゆる「知の技法」的な学問の切り売り授業)意味がない。こんなアンケートで教育の改善ができるのだろうか。あまりにeasy goingではないか。
- ・ 大学における研究と教育のあり方は“永遠の”課題かと思いますが今日の京大の立場としてこのテーマに取り組んで頂ければと思います。
- ・ 制度として重点化や独立研究科等、学部教育を切り捨てるような方向に動きつつあることの問題を抜きにして、授業の充実を検討することにどれほどの意味があるのか。
- ・ 1回生、2回生の教育を真剣に考えてほしい。
- ・ 現在全学で取り組むべき最大の問題であると思っています。
- ・ 個人的な努力では実現できない。各学部間、研究科間にまたがった問題に取り組んでもらいたい。
- ・ 管理しすぎない教育ということが重要であり、本当に学びたいものと伝えたいものとがハーモニーすることが大切。つまり、エリート教育が必要である。大衆教育とエリート教育のバランスは、果たして可能なのか(少なくとも一大学内に於いて)。センターは、教官を子供扱いしている、ということはないでしょうか。
- ・ 京都大学として独自のカリキュラム、教育システムを改善していくことにかかわる。
- ・ 教育は方法やシステムで、効率は良くなりますが、大学レベルの学生、特に京大などでは、いかに自立した学問ができるかを自分で修得することが大切ではないでしょうか?そのような教育システムの確立をめざすのはいかがでしょうか?
- ・ 学部ごとに事情が異なり、画一的に考えていくのはギモンである。
- ・ 画一的な「良い教育法」などというフィクションを捨てるべく活動されたい。

- ・ いわゆる“新しい教育学／教育方法”と呼ばれるものは、京都大学になじまないものである。
- ・ 高等教育教授システムなるものがあるのかどうかが良くわからない。ましてそれを開発するとはどういうことなのか理解できない。各学部、学科独自のシステムが必要であり、一般的な方法論のようなものがあるとは思えない。
- ・ 1) 何も期待しない。
- ・ 2) 大学は授業は不要と思う。研究のみでよい。学生は研究の授業だけでよい。学生は自学自習を中心とすべきである。
- ・ 学問レベルのきめの細かさが必要
- ・ 大学全体として捉える問題提議よりは、学部（又は専門領域）固有の事情を配慮した上での提言や討論も活動の中に加えるべきである
- ・ 現在の社会では、中・高校生が大学入試合格をゴールと考えている。また欧米に比べて、日本の大学生の勉強の仕方が劣っている。それでも、教授は就職の内定している学生に甘くなっている。閉ざされた日本の社会システムと欧米の社会システムとで、どこが違うかをお教え頂ければ有り難い。とくに欧米のまねをする必要はないが、21世紀にはグローバル（グローバルといっても、既に地球は小さくなっているが）な社会システムに合って行かないと日本は立ち遅れる。「教授システム」だけでなく、社会と大学との関係等について、大学でできることで、社会に影響を与えることは何か。このようなことについてお教え頂きたい。
- ・ 大学全体のカリキュラムの調整
- ・ 必要な専門科目、不要な科目の選択、提案
- ・ 講義の人数（1クラスの人数）の調整
- ・ 理工系の立場からですが、授業法よりはカリキュラムが重要と思っています。ある部分に関心を持っている学生に対し、このような科目を選択して勉強しなさいと指導できるようにすることができればよいと思います。（これは1～2科目の選択ではなく、学生の1週間の科目全体を体系的に考え、学部の壁にとらわれることなくやれるとよい。
- ・ 現在多方面からなされている大学教育に対する批判や諸外国との比較を客観的に整理し、21世紀の社会からの要請に十分応えることのできる本学独自の教育システムを早急に立てるための基礎資料を提供していただきたい。
- ・ ずっと言われ続けているように「受験戦争」の弊害が大きいと思われるので、受験制度の改善に取り組まなければ、大学教育の改善は見込めない。すなわち、大学は本当に学問したい人が年令を問わず入学すべきものであり、今のうちに職業安定所になってしまつては、大学教育の復活を叫んでも空しい。
- ・ 授業のテクニック等ではなく、授業・教育の重要性を教官に広め、啓蒙してゆく事。（多種多様な学問・学科を、考え方もキャラクターも異なる教官が教える立場に、普遍的に適用できる「教授法」は存在し得ない。授業・教育が大切だと考える個々の教官が、自分にあった教え方を模索することが、教育改善の第一歩と考える。）
- ・ 将来、学部学生がほぼ7割あるいは半減したと仮定すると、学生のレベル（値）はどのように変化すると予想されるでしょうか。そのような場合でも、学部教育の教授法等方策は変わらないのでしょうか。京大の学部教育に対する役割についてセンターの意見はありますか。例えば、「設問8、10、13」もこのことと関係しています。
- ・ 改組前に戻るような運動をしてほしい。
- ・ 改組によって教官と学生の負担は急増している。一方、教育効果は疑問である。
- ・ 改組によって speciality の育成ができずに、すべての学生が平均化し、産業界が望む人材の育成が困難である。大学が義務教育化している。このような状況であれば、大学の学部は無くして、高校を6年にした方がよい。

- ・ 学部別の高等教育のあり方の研究
- ・ 国際人（専門別）養成の教育のあり方
- ・ 旧教養が廃止され、学部による学生の囲い込みが進んでいるように思うが、個人的には反対である。このような動きにとらわれることなく、次の世代の大学教育の道すじを明らかにしてほしい。
- ・ 小員の回答と相反するが、現在のように「教育」を全く評価しないシステムである限り、研究には注力しても教育に熱心な教官は益々減少する。センターがどのようなシステムを開発しても無駄である。
- ・ 下記のことを考慮の上活動を進めて行っていただきたい。
 - ①自然科学系、実験系の教育では、原理、定理、哲学、方法論などは必ず実験や実習および野外観察、観測と対になっていて、両者は絶えず行きつもどりつ対応されなければならないと思う。
 - ②社会科学系、人文科学系の教育でも、人間活動と密接な関係にある分野は上記と同様であることが望まれる。
- ・ 以上の設問は学部2～3回生以下に対する一般教育の問題と、学部4回生以降大学院生への教育の問題が区別されていない。このことは大変問題である。教育実績についても前者に対しては、理解度、教授の親切さなどが重要であろう。また扱ったコマ数なども業績になろう。しかし大学院生に対しては教育実績と研究実績とが密接に関連している。
- ・ 学生・教官・社会の要望のすり合せを行い、より良い教育の実践と、人格・能力ともに優れた人材を輩出できるように御努力いただきたい。
- ・ 教官への教育のとらえかたに問題点があると思います。京大など研究と大学院生の研究（教育）の区別が難しい。研究者の養成のプロセス（大学院）の教育の問題が重要となっている。
- ・ 技術的な側面も大切だが、学生の卒業のため
 - の単位数を大巾に減らし、また教官の講義、セミナーのコマ数を減らし、受講した講義、担当した講義の密度を高めることが大切と考える。私は外国の大学で学んだが、日本の大学の講義の履修は画一的で多すぎる。ただし、少なくすることで学生、教官双方への評価はきびしくする必要がある。
 - ・ おかどちがいかもしれませんが、学生からの批判的になるだろうが、4年間のカリキュラムを通じて、まちがいなく大学教育がたたきこまれるように、必修科目をふやし、単位のとりやすい課目のみを選択することができないようなシステムを提案してほしい。
 - ・ センターに限らないが、アメリカのまねばかりしている日本の教育に未来はないだろう。
 - ・ 画一的な教育形態を導くようなことは避けつつ、系統的な教育システムを形成するための方策を検討すること。
 - ・ 大学・大学院における教育の重要性をさらに広く訴えること。教育の中でも講義については一定のやり方よりレベルの確保を全学的なものにすること。講義以外の形態の教育活動を提案すること。以上、三点です。
 - ・ これからますます「教育する」ことの重要性が増すと考えられる。混とんとした社会での先導的な教育法を開発・模索していただきたい。
 - ・ 本当のことを言えば大学とはいえないような大学が今の大部分の大学である。したがって今の大部分の大学における教育のあり方が大部分の納税者にとっては重要であろうから、本当の「高等教育」といえるのかどうかギモンであるが、その研究開発が（またFDが）一つ重要な柱であろう。もう一つは本当の大学の教育であるが、これはセンターで開発できるものかどうか良くわからない。ただし研究対象にはなるし、日本の本当の大学のレベルアップのためには研究は必要なことである。
 - ・ 京大独自の学問を育てるような方向で、開発

に向かってほしい。

- ・ 少人数制は可能かの議論。教官の負担を増加させないで。
- ・ 学生と教官の接点
- ・ 現在のカリキュラムでは基礎教育より始めて専門高等教育まで終えるにはあまりにも時間数不足すぎる。センターには現況単位制度（教育制度）にまで踏み込んだ活動を期待したい。
- ・ トコロテン式実態をいかに変革するか
- ・ 教養部解体、大学院重点化などの一連の大学改革の結果、学内外の教官の意識の変化と、教育、研究体制が、どの方向に行こうとしているのか、などの評価を希望します。
- ・ 大学の教育は、非常に重要だと考える。講義、セミナー、講義以外の勉学と。
- ・ 大学の授業が高校のような画一的なものにならないようにすることが大切だと思う。そのためには、授業のやりかたの工夫が必要だが、そのための技術だけをつけても、内容や熱意が伝わらなくては意味がない。あまり教える技術的なものだけに走らないでほしい。
- ・ 「学び」「教える」ということが単なる技術論だけでは克服できない 人間同士の関係の問題をはらんでいることを、ふまえて活動をおこなっていただきたい。

教育方法に関して

- ・ センターの研究成果が教育方法の具体的改善に取り入れられるための方法・プロセスをより明確な形で提示・提言して頂きたい。
- ・ よい授業をする為の情報を積極的に教官に流す。
- ・ 教授システムの国際比較研究とその普及
- ・ メディアセンターと協力し、SCSやインターネットを利用した遠隔授業の新しい方法を開発していただきたい。もう一つは語学教育における外部試験（英検、TOEIC等）の活用法の研究。

- ・ 大学院生の研究を指導するための教育法についての研究開発を期待したい。
- ・ 大学院学生の研究科目交流を深めるようにセミナー等をorganizeしてほしい。
- ・ やはり授業のあり方、その方法などを専門的に研究され、それを広く本学教官のものとしていくことが必要と思います。
- ・ 理想的な講義室と講義（授業）形態の研究—Oxford, Cambridge, Harvard, etcの視察を文部省と一緒にやることも必要か？
- ・ 名誉教授を招いてhistoricalな学問の流れを学ばせるlectureなどを企画する。基礎的な実験や入門的講義を名誉教授etcにまかせられないか？
- ・ 教官それぞれにいろいろな方法があり、そこで教育方法の多様性とその意味の研究が重要と思われる。（但しtechnologyについての情報収集と広報は大切ですが）
- ・ さまざまな授業や教育の可能性を探り、originalityのある教育法を開発してほしい。
- ・ 講義法のコツなどのbrochureを全教官に配布。
- ・ 教授法の開発、評価。
- ・ 従来よりの講義という形式にとらわれず、グループディスカッション、視聴覚器財を使った授業、宿題を与えて前で発表させる等の形式の開発、モデル授業等を行ってほしい。
- ・ 授業法セミナーを部局別に企画してほしい。
- ・ 教授法の開発
- ・ 演習に助手も参加させること
- ・ コメントできません。私自身は、アメリカの大学院を修了しており、アメリカ型の授業法を経験していますが、一長一短があります。京大生の知的レベルの高さに合わせて教育方法の改善が必要と思います。
- ・ 大学院の教授法 研究者を育てるための教授法
- ・ 大学と大学院の教授法の明確な分離。
高効率な講義でよい場合（教科書の選定等を工

夫すれば「高校型」授業がよい場合」と低効率な講義が必要とされる場合（「研究型」授業が必要とされる場合）を明確にしてほしい。

- ・ 「よい授業をするために」というような how-to ものでよいからテクニックに関するビデオなどを作成して、教官が閲覧できるようにするのでもいいかもしれません。
- ・ 教官に対する教授法の手ほどき、指導
- ・ 教授法の開発と普及、学生評価の導入などに向け努力してほしい。
- ・ 教授法の研修をしてくれるとありがたい。
- ・ とくに理系に対する教授法等についても大いに検討して頂きたい。
- ・ 学生に授業内容を理解してもらうためには、そのための別のプレゼンテーション技術（例えば、NHKのTV番組などにあるような）があると思います。今のところ、そのような技術については、自己経験的に学び、蓄積していくしかないのです。そのようなノウハウをパンフレットのようなもので、配布していただけるとありがたいです。

教育内容に関して

- ・ 教育レベルの引き上げは「教授法」といったテクニカルなものに余りこだわらないことにより得られる（授業の「内容」自体の問題）だと思います。
- ・ 社会が「必要としている内容の講義」をしているつもりなのだが、実際の社会（特に企業）のニーズは、あまり勉強せず、たとえば体育会に入って礼儀作法などを学んだ学生しか求めていないような気がする。したがって、社会に対して、大学がどのようなことを提供しうるかについて、研究し、広報してもらいたい。
- ・ 教育は“技術”によってカバーできる部分は少ない。問題は内容であって、それは各教官の学術の重みによって決定されると思う。様々な教育システムの改善は必要だと思うが、それだ

けで解決する問題とは思えない。

評価に関して

- ・ 教育面での業績、貢献を評価する方法や基準を考えてほしい。（審査した論文の数などだけではなく、授業特に一般教育などの基礎的な授業をも教育上の貢献として評価する方法が必要と思われる。）
- ・ 専門研究だけでなく、広い意味での教育、啓蒙活動（概説書の執筆など）を評価する方法を考えてほしい。
- ・ 学生による教授評価の公表
- ・ 授業の学生側からの評価の集積
- ・ 設問18に採りあげられていることであるが、「教育上の実績」を教官の評価に取り入れるシステム作りを推進してほしい。教官の教育に対する意欲を向上させるには、このことが不可欠と思われるからである。
- ・ 優れた教育を行っている教官の評価法を確立して研究業績と並べて客観的に昇進、採用に役立てる方法を開発し、教授会などに広めていく（医学部臨床系教官ではこれに加え診療に対する評価も必要）
- ・ 各教科の①受講者数②受験者数③平均点④単位取得者数を調べて公表すること。試験ができないのに単位を出す教官がいることが、学生に安易な道を選ばせ教育を破壊している。
- ・ 学生による授業評価のとりまとめ等
- ・ 高等教授（教育）の評価法の開発
例 理系では指導して公表された論文数 etc. で教官にポイントするとか
理系では一緒に（実験）結果を討論し論文作成するプロセスが高等教育でもある。講義は学生が将来の指導教官を見つける‘出会い’の場である。
- ・ 教育法、授業内容など、外部からの客観的評価が行われなければ、大学の向上はありません。社会全体での位置づけからしても、もっと厳し

く評価する仕組みを作ってください。

- ・ 教授法の開発と普及、学生評価の導入などに向け努力してほしい。
- ・ 学内で実際に行われている授業の点検・評価をしていただき、助言・教示を与えていただければ良いのではないかと考えます。拒否する先生も多いかと思いますが、それによって自分の講義が魅力的になるのであれば受け入れる先生も結構出てくるものと思われます。
- ・ 学生の意見も反映した教官個人への教育に対する評価法の策定
- ・ 生協が各講義の学生による評価をホームページ上にのせている。学生によるより systematic な評点とその公開をしてもらってはどうか。
- ・ 授業に対する学生の評価、意見を取りまとめるための支援活動を行ってほしい。
- ・ 大学教官は助手からの昇任も多く、終身雇用となっていることが問題。米国のように助手 (Assistant prof.) は任期付きにして、適性のともなわない助手には辞職勧告をすべし。評価システムを米国寄りにし、年功序列を廃止すべし。競争原理を取り入れる様にすべし。以上のような勧告を文部省、総長に上申すべし。
- ・ 各授業に対する学生の評価や感想などを一定の方式で調査し、その結果を各教官に知らせること。

全学共通科目に関して

- ・ 全学共通科目の改善に向けて、総合人間学部の提供する教育のあり方に対して、積極的な助言をしていただきたい。
- ・ 1、基ソ教育（語学・数学など）の充実について他大学、外国大学の事例を紹介して、京大の適当なシステムについて案を出してほしい。
- ・ 特に期待しないが、もし改善に対して少しでも実行する気があるなら、次のことを要望する。
教養部の廃止、工学部の大学科化により、工学部の教官の授業に対する負担（特に1、

2回生に対して）は非常に重くなった。昇進が研究業績を中心に評価されること（これを否定するものではない）を思えば、誰だってもこのような負担増は望まない。教官の中には基礎教育をできない者もいるため、どうしてもこのような負担は一部の教官に集中する。せめて給与面でこのような負担でカバーできないものか検討してほしい。

- ・ 教養部が無くなり、教養教育に責任を持つ体制がなくなった。教官全体への負担増になっている。海外で行われている教授法などの真似や普及などを考えるよりも、上述のようなことも対象にして取り組むべきである。
- ・ 学部一貫教育と全学共通科目との関係の整理（理論的）
- ・ (イ) 教養の講座は若いうちに（1－2回生）
基礎的なものの考え方が身につく指導を主体にすること
- ・ (ロ) 英語での一般科目に学生がもっと出席する様早目に指導すること（KUINEP）（英語のやりとりは小論文作成を含め、普通に出来ることが現状の標準である）
- ・ (ハ) 使える語学の指導法を工夫すべきこと
- ・ (ニ) 専門科目はもっと深く、各教官は学生に frontier への関心を深めるべし。

〈教官〉

- ・ 現行の教育の問題点を定期的にチェックし、それらを教官側に情報として流すことにより、教官の教育に対する意識を高めるよう活動する。
- ・ 大学の授業等において教官の知っているべき必要なこと、know how 等まとめてほしい。
- ・ 現代の教育に関しての考え方や方法などのご提言ないし、案があれば、教官に周知するようにしていただければ幸いです。
- ・ 京大教官としてのあらゆる観点から検討された講義のノウハウを集めた書物の編さんなど。
- ・ 教官内の縦および横の情報交換・情報公開シ

システムが確立しておらず、このことが授業体系にも悪影響を及ぼしている。

- ・ 全く無駄な事務処理や雑用から教官を自由にし、研究・教育に専念できる活動を行ってください。それが、教育の質を高める近道だと思います。
- ・ 現今の一般社会的教育現場の荒廃は、教育者あるいは教育に携わる者の自覚の貧困に起因している。大学にあっては教育をおろそかにし、研究業績第一主義に陥り、文部省行政当局も是認している。京大は、実利万能主義の研究、教育を排すべきである。つまり人格、人間性、倫理観のある教育を真の教育者として評価する方向を模索すべきである。「役立たず」の学者があるからこそ京都大学は京都大学のアイデンティティである・・とすべきである。いまのままでは近い将来必ず京大は凋落の一途を辿るであろう。
- ・ 不適当な教官を除く方策を考える。研究しない、教育しない者もクビにならない。できない現状では、改善に限界がある。
- ・ 声を大きく、字を大きく、簡潔に、教官自身が興味を持ち、基礎から講義すれば、大方の学生はついて来ますけど。
- ・ 教官の多忙さの定量的分析と提言
- ・ 研究のプロフェッショナルは居るが教育のプロフェッショナルは居ないのが現状かと思えます。(特に自然科学系においては) 従って抽象的ですが教育のプロフェッショナルを育成するためにどの様にすればよいかということを実体的に示し、研究教育者に示すことでしょうか？
- ・ 教官に対する定期的なアプローチ「啓蒙活動」をしてほしい。日常に流される部分が多く、又、講義も毎日、毎週ある訳ではないことから、このアプローチにより意識が高められる効果が期待できると思う。新学期(前期、後期)が始まる直前などが効果的と思う。
- ・ 大学教官は助手からの昇任も多く、終身雇用

となっていることが問題。米国のように助手(Assistant prof.)は任期付きにして、適正のものならない助手には辞職勧告をすべし。評価システムを米国寄りにし、年功序列を廃止すべし。競争原理を取り入れる様にすべし。以上のような勧告を文部省、総長に上申すべし。

(※この記述は47頁にもありますが、分類上、2箇所収録しています。以下、同様にしています。)

- ・ 学生諸君の勉強意欲を昂めるような活動をする日本の大学教官の余裕の無さを改善するよう活動



とにかく雑用が多すぎる

- ・ 教官の教育
- ・ 個々の教官の自責をうながし努力を求めることも重要であるが、やはり研究・教育以外の業務をどのように軽減するするかを考えるべきではないか
- ・ 教官の負担の軽減と研究費の増加

<学生>

- ・ 学生の学習、研究・・上の現状を常に把握し、それをアナウンスしてほしい。
- ・ 学生の学習意欲を増大させる方法の具体的な方策を提案してほしい。
- ・ 学生の学習状況・レディネス等に関する研究
- ・ 学生の追跡調査を実施し、入試の成績、学内成績、卒業時の成績 etc との間で統計的な評価をしてほしい。
- ・ 問題は教官側にだけあるのではなく、学生の勉強意欲の乏しさ、進級試験のイージーさなどシステムそのものに大きな問題があり、この改善に取り組んでほしい。
- ・ 教授方法以前の学生の進路決定に問題がある。点数のみで入学してくる学生への対応という根本を問わずして問題解決の道はない。その点まで掘り下げて活動してほしい。
- ・ 学生の自主休講をやめさせる工夫はありません

んか。

- ・ 学生の出席義務について考えて欲しい
- ・ 大学における教育を学生がどう考えているのかの本音を調べて頂きたい。文科系、理科系、将来教育者・研究者を志望する、しないにより異なると思われるが、本当にわかりやすい、視覚的な講義が将来役に立つと思っているのだろうか。順番に積み上げ式でなければならないものもあるはずである。どうもこれは26、29の回答のようになってしまいました。
- ・ 学生にエリート意識を持たせるための有効な手法を研究していただいて、真の国際人として日本を背負いうる人材育成プログラムをお示しいただきたい。
- ・ 本学の学問レベルを向上させる為に、学部学生数半減計画をたて、その実行に努力する。これが大学教育改善の最善策と信じる。大学院重点化がほぼ完了した現在京大の目指すべきは日本全体の学生数減にあわせた学部定員減であるべきであろう。
- ・ 受験生に専攻に合う適格な科目を受験するよう授業する。
- ・ 学生の意見を聞くことに積極的であってほしい。
- ・ 留学生教育の問題への取り組み

〈個別的・具体的提案等〉

- ・ 出張公開授業 つまり出前、宅配のような・・・
- ・ 医学部の多忙な実態を見てほしい。
- ・ 1、通信手段のインフラの整備
2、入学時からパソコンを持たせることを必須とする
3、とにかく Computer Network への学生への教育的整備が遅れている。慶応に追いつけ！
- ・ 学内で開講されている講義ごとの演習等の出席率、単位認定、学生の満足度等、統計的調査とその結果の教官へのフィードバック

- ・ 高校の科学、語学教育担当教員と大学教官との共同実験、オープンラボ等の企画、実施
- ・ 教育活動の充実には、ソフト（教育法、授業法）に加えて、ハードの整備も重要と思われる。すなわち、学生諸君が学内で生活の一部として、授業、研究を実施し、サークル活動を実施していけるような施設の充実にも力を入れていった方がよいと思われる。
- ・ いつでも自由にみれるビデオ作成、貸し出しを希望します。基礎的なこと等から順次 advanced なこと（もし可能なら）。
- ・ 公開実験授業を毎週同じ特定の月曜日でなく、他の曜日も考えて欲しい。
- ・ 「研究・教育以外の業務の削減」への努力を望む。たとえば多種多様な入学試験業務の削減など。
- ・ 教育懇談会などを作ってくださいセンターの経験や参加者の努力経験などを交流できるとよいと思います
- ・ 自然科学系の授業改善に対するとりくみ（講義、実習実験等多人数教育で十分な指導等ができない。学生の表情がつかめない etc.）
- ・ 自分自身の「授業スタイル」を作り出す参考にしたい。
- ・ 専攻内カリキュラム小委員会（仮称）を教授会内に作り、講義の体系化、内容の検討などするよう提案しているが年寄りの反対あるいは怠け心があるため実現しない。
- ・ 教育施設の整備促進
- ・ 例えば学生（大学院生）に対して、プレゼンテーション法などを教える授業をやっていく。
- ・ 高校における教育のあり方を変えていくための努力
- ・ 教授法を教官に教育するのではなく、まず講義を担当している多くの教授の意見を求めるようにしては如何であろう。例えば年度末には授業講義報告を全ての教官から出してもらい、様々な意見を集め改良すべき点を抽出するのが

よいと考える。

- ・ 学生側の意見、教官側の意見をまとめて、整理した形で知らせてほしい。
- ・ 他大学との比較検討を行ってほしい。
- ・ 公開実験授業や授業研究会のビデオを知りたい教官に貸し出す。
- ・ 大学教育を行なうにあたり、その人々にあたる一、二回生での教育が大切だと思う。意欲を持って入ってきて、それが、受け止められないところがあるのではないか。センターの活動はこうした流れに歯止めをかけ、改善のための原動力をもたらすものと期待している。大学の建物の汚さ、一部の学生運動風の無頼な行動がつくる環境にどう対処していくかも現実の教育を考えていく上で見逃せないと思う。
- ・ 教官が使いたいと思うビデオや画像の編集作業
- ・ 個々の学生の勉学の指導の窓口となる。学生のしたい自主セミナーのオブザーバーとして協力することをある程度義務づける

〈センター〉

センター自身に関して

*全般

- ・ 今後も啓発していただきたい。
- ・ 現在のさまざまな取り組みに敬意を表します。人員その他が不足でご苦労が多いと存じますが、これからいろいろな企画を出していただきたいと存じます。期待しております。
- ・ それはセンター自身で考えるべきことである。
- ・ 「京都大学の教育と学生生活」は、大変興味深く読ませていただきました。今後も、このような活動を続けられることを期待しています。
- ・ アンケート調査以上の活動をしてほしい。医学部ではその存在意義が不明。
- ・ このようなアンケート取りだけに終わらずに実質的に質的向上への具体案が欲しい。
- ・ アンケートばかりとるのではなく、予算を

有用につかって進めるべき。アンケートは marginal であり、多数の意見にしたがえばいいというものではない。

- ・ センターの活動そのものをよく知らないが、活動・存在そのものは重要だと思います。特に、種々の生データ（学生側の反応など）の収集、蓄積、分析は今後も協力に進めて頂きたい。さらに欲を言えば、「理想的な教育像」などを目指さず、教育におけるヒント、アイディアを集積して欲しい。どうでもいいことかもしれないが、名称が長すぎてよくない。
- ・ 目に見える活動効果のない場合は、自ら使命を中止すべきである。その見極めが大切である。
- ・ 現状の方向でよいと考える
- ・ 期待しています。
- ・ もう少しまともな質問を。現状認識を示すべき。
- ・ 設問が、貴センターからの一方的な視点に、当然ながら、立っているので、逆の都合からいえば、『「・・・」といった内容のビデオ、あるいはビジュアルの資料を作成してほしい』といった依頼に応えられるようなセンターがあるとよいと思いますが。
- ・ 無用なものを作ったと思うので、その成果について数年後にしっかり外部評価を受けられたし。できれば、学生自身の評価も含めて。
- ・ 見事な授業のデモンストレーションは有効かも（ビデオで十分）

*情報発信

- ・ いろいろ情報を流してほしい
- ・ 情報をもっと広くアピールしてゆくべき
- ・ 正しい現状認識を発信して欲しい。
- ・ このままの活動を続けてほしいと思います。そして、教育への啓蒙情報を出して頂くことを期待します。教育の環境整備には、大学は非常に無頓着であると思う。この分野の関係者はアメリカ、イギリスの設備を一度見に来てくれ

ば良いのではないのでしょうか。今後はパソコンからの情報が非常に重要になると思う。これを取り入れるようにセンターは助言してやってほしい。

- ・ 厚い報告書を書くのではなく、実際に役立つ know-how を実例を挙げて数ページ程度の読み易い形で1ヵ月に1回程度全教官に知らせるようにして欲しい。
- ・ 現在の活動内容をよく知らないので一般論になるが、教授法を開拓するといった方向ではなく、授業、教育の現状に対する情報を発信し、個々の授業担当者が自分の教育法の改善の方策を見い出すといった役割を担うのが良いと考える。
- ・ 受け手側に問題のある場合が多くてもくじけずに情報発信していただきたい
- ・ センターの活動内容を示すわかりやすいパンフレット、「・・・通信」の類を全教官に配るべきである。また、インターネットでセンターの情報をえられるようにしてほしい。

*広報活動の必要性

- ・ 現在やっている活動をもっと広く知らしむるべきである。
- ・ これまでの活動についての知識がないので、「今後」についてはさらに判断できない。
- ・ センターの内容をほとんど知りません。まず、広報活動からお願いいたします。
- ・ 教官に対しても、広報活動を実施する。もしくは、ホームページ等を通して情報を公開してはと思います。
- ・ センターの活動の内容を特に若手の教官に広く宣伝すること
- ・ センターがあることすら知りませんでした。どのような活動をしているのかももっと広く、知ってもらうことがまず必要だと思います。
- ・ 私自身の無知のせいかと思いますが、センターでどのような活動がなされ成果があげられ

ているのか全く知りません。大学での教育は何を（何のために）教えるべきか、学生が意欲を持つ助けになるにはどうしたらよいか、等々について私は関心を持っております。参考になるような具体的な議論、授業例、・・・等についての広報活動を希望します。

- ・ 何をするセンターなのか良く知りません。
- ・ 申し訳ありませんが、活動内容を存じませんので何とも申せません。
- ・ センターの詳細な活動が余り理解されていないので、このアンケートを通してでも、まず、主なる活動を各教官に認知させるよう努力してほしい。
- ・ 申し訳ありませんが、センターの存在も知りませんし、その意義も全く理解しておりません。
- ・ センター設立時の活動方針と現在の活動を良く知らないで答えられません
- ・ 現時点でまだセンターそのものについて情報が不十分（着任して間がない）なのでコメントが難しい。
- ・ センターの内容、目的を知らないなので、何を希望すべきか分からない。
- ・ 活動内容に関する広報
- ・ 不勉強で当センターの目的、設立経緯などを承知しないのでコメントのしようがない。
- ・ 存在や活動内容を広く知らしめて欲しい。
- ・ 広報活動
- ・ センターの主旨が不明なのでなんにも言えない。
- ・ 残念ながら、現在までのところセンターの内容を理解しておりませんでした。
- ・ センターの内容をよく知らないのでよくわかりません。
- ・ センターの意義を知らないので書けません
- ・ 講習会があれば知らせて欲しい
- ・ 教官に対するセンターの重要性のPR
- ・ 活動内容を広く知らしめる。
- ・ このようなセンターがあることを認識していませんでした。申し訳ありませんが、その活動

内容についてもよく知りませんので、答えが書けません。

- ・ 済みません。センターの活動についてよく知りませんでした。今後注意して勉強いたします。

***センターの調査活動について**

- ・ まず、学生・教員の現状を把握し、それを学生・教員に理解させるべきであろう。各学部毎にその現状は異なるはずなので、かなり細かな調査が必要であろう。その上で、活動の方針を定める必要がある。
- ・ 調査では他の大学との比較などもしていただくとういことだと思います。
- ・ 意識調査などの際に薬学部も対象に入れていただきたい。レビュー委員会の——4回生の意見——では薬学部学生のアンケート結果は大変参考になった。
- ・ センターの実施された「京都大学卒業生の意識調査」と「京都大学の教育と学生生活」を読ませていただき、非常によい参考になりました。学生の授業に大変役に立つと思います。できれば5～6年に1回、同様の調査をされ、その結果を今回のように知らせて頂けたら、まことにありがたいと存じます。御担当の先生方にはご負担も多いことでしょうが。
- ・ 学生の目的意識のレベル、大学に何を求めているか、などを中心とした学生に対する意識調査は大変参考になります。
- ・ 京都大学に限らない、一般的調査研究を行ってほしい
- ・ このようなアンケート調査をするだけでも教育に対する意識改革の一助にはなると思います
理科系と文科系（学生生活実態調査で数年前、大学にいる時間に大きな差が出た）の問題の検討なども重要かと存じます。
- ・ アンケートによる意識調査の結果を、そのBack groundとなる社会的・分野的な事情を考慮せず、考察することをやめてほしい。工学部

の持つ多様性による学生の意識は、他の単一学問の分野の学生の意識とおのずから異なるものである。社会、特に会社の人々における調査を検討されてはどうか？

- ・ 各講義に対する学生の意識調査
- ・ 調査ばかりしていても仕方ないでしょう。
- ・ アンケートはhomepageとe-mailで大抵はことりたりる。（はず）今後多数回アンケートをとるなら電子媒体を活用するとよいのでは。
- ・ 学生の意識調査が重要。結果を教官に周知させる。

***センターの活動に対する否定的見解**

- ・ 何もしなくてよい。
- ・ このような「意識調査」がなんの役に立つのか不明である。しばしば、このような組織が何らかの実績作りのためにアンケートをするが予算のムダ使いの場合が多い。そうでないと思うなら、それを証明するべきであろう。それができなければ早期に解体せよ。
- ・ 何も期待していない。センターよりも、教育・研究の現場の充実が先決である。
- ・ 何も期待していない
- ・ 調査費を、教官の雑用軽減に使っていただけたら、どれだけ助かるか。とくに教授クラスの先生方の多忙さを見ていると、高等教育がどうなど言っていられない現実があることを理解してください。
- ・ 失礼ながら、不要になることを望みます。

<その他>

- ・ とにかく何も知らされていないのが大いに不満
- ・ 各部局に依って全く異なる日常を送っていると思う。そのことを念頭に置いた設問が望ましい。
- ・ 勉強不足でコメントするための知識がない。今後もう少し関心をもって貴センターの活動を見てみたい。

② 「学生から教官への要望」について

各教官に、「Ⅰ. もっと教育者としての自覚を持ってほしい、Ⅱ. もう少し工夫して講義等をしてほしい、Ⅲ. 学生を見下すような態度はやめてほしい、Ⅳ. 日常的な態度を反省してほしい、Ⅴ. 学生ともっと親密につきあってほしい」という、梶田教授がこれまで本学、及び他大学で実施された学生に対するアンケート調査に寄せられた学生の要望について、意見を求めた。まず、ⅠからⅤの各要望に関してお答えいただいたものと、全体に対してお答えいただいたものに分類し、次いで、それぞれ、学生の要望に対して肯定的なもの、否定的なもの、自分には当てはまらないとするもの、その他に分けた。肯定的と言っても、肯定しつつ要望に応えるのは難しいとするもの、肯定して今後応えていきたいとするもの等が混在している。今後のこのデータを使った面接調査によって詳細に分析したい。

質問の仕方が不十分であった（特にⅣ）ところもあったが、具体的な要望に対しての意見を求めたため、かなり詳細なものが寄せられた。大きく分ければ、京大の現状＝研究を中心として、教育に重点が置かれない体制、に対する肯定的なものと否定的なもの、学生の現状を批判するもの、むしろ教員の批判に向かうものに分けられるようである。

「Ⅰ. もっと教育者としての自覚を持ってほしい」について

〈肯定的な意見〉

- ・ 教員の講義に対する無関心の程度と学生の甘えの程度による。ただ、教職（高校、各種学校等）経験のない先生が、いきなり大教室の講義を担当すれば学生の不満が大きいのでは当然であろう。学生の態度の悪い大教室では教育を放棄して工夫する気もなくなる場合もある。
- ・ ごもっとも。
- ・ 尤もなことと思うが教員の現状を知った上での発言なのかどうか？
- ・ ごもっともです。なるべくそうしています。
- ・ 教官は努力すべきである
- ・ 批判が本当にあたっているのであれば大学として真剣に反省すべきである。ただし、学生に対して同様のことを言いたい。学生としての自覚をもって勉学に工夫をしてほしい。
- ・ このような要望が出ることは非常に問題があると思う。
- ・ もっともな意見である。次回の参考にしたい。
- ・ 思い当たるふしあり自省しています。
- ・ もっともだと思う
- ・ 当然だと思う
- ・ 個々の教官の自覚を待つよりしかたがない。
- ・ 教育者としての自覚とは何を指すのか明確ではないが、人生の一步先輩ということなら自覚するほうがよい。
- ・ 教官の教育に対する意識向上も必要であるが、学生にも大学に高校までとは違って自ら学びとるという姿勢をつけさせることが必要、興味のある人は教官に積極的に働きかければいい。
- ・ 当然
- ・ 教官採用にあたって教育者としての自覚は全く問われないので、当然の状態。学部ないしは学科がどの程度のレベルに達した、どのような学生を卒業させるのか、目標がないことが問題。
- ・ そのとおりだろう。
- ・ 考えていく必要は大いにあると思う。
- ・ もっともな意見で、自覚して努力したい。
- ・ 正当な意見であり、個人的には工夫しているつもりです。
- ・ わかりました。
- ・ その通りだと思う
- ・ 当然のことと思う
- ・ このような批判を受ける教官が存在すること

は極めて残念である。学生としても、「学ぶ」態度をもって授業に出席して欲しい（もちろんそういう学生がたくさんいることは承知している。そうでない人もいるので）

- ・ 要望は当然
- ・ 当然である。
- ・ 教育者の自覚；今の京大の現状は、業績主義万能、教育をおろそかにして、自己利益誘導的に行動するものが勝利者となり評価されるシステムになっている。自己宣伝に長け、いわゆる業績を挙げるのに汲汲としている実態がある。悲しむべき現実である。これまで、講座制の教授独占権力主義が、この弊害をもたらしたとも言えるが、人事において、教育者適格基準を何らかの形で導入すべきであろう。
- ・ 当然です
- ・ もっともであると想像できる
- ・ 当然やるべきこと。
- ・ 学生の主張は理解できる。学生の目線に立った講義が必要であり、一方通行の教示が多いと思う。
- ・ 妥当
- ・ もっと頑張らないといけないと思っている。京都大学の教官は私見ですが、教育にもっと力を入れるべきと考える。
- ・ その通り
- ・ ふむふむ
- ・ もっともである。
- ・ 努力するつもりです。
- ・ 真面目な指摘であるなら調査対象としてもよさそうに思う。
- ・ あたりまえ
- ・ 正しい要求である。
- ・ 当然である。
- ・ 反省すべき点として理解できる。ただし現状は隔年講義で受講者も20数名から数名と不定で、それに応じて内容を変える工夫をしているので系統立てた講義となっておらず学生には不満か

もしれない。より、一般的、基礎から応用までと工夫したものを次回は試みたいと思っている。

- ・ もっともだと考えます。小生も講義終了時（試験時）には自分の講義に対する学生の意見を求め、自己反省の材料にしておりますが、なかなか学生に満足してもらえません。
- ・ そのとおり
- ・ 当然の要求であり、それに答える義務がある。
- ・ 経験不足もあるかもしれません。
- ・ 努力していきたい
- ・ 確かに必要でしょう。（一流研究者が必ずしもよい教育者とは限らないから、教育の自覚は必要でしょう）
- ・ 人によってはそう思うことがあります。
- ・ 同感です。しかし、一方で研究業績をあげないと資金が導入できない、小山のような雑務に追われる毎日とは明らかに矛盾します。
- ・ これは納得する。反省の必要を認める（個人的には一般論としても）
- ・ I. Ⅲ. IV. は共通していると思われる。教育者としてのモラルが一般に低くなっているように思われる。教官倫理規程が生まれるようでは論外である。
- ・ 賛成
- ・ 当然、努力すべき。
- ・ そのとおりと思う。やはり教育面も重視すべきである。
- ・ その通りです。教官は一般には研究がしたくて、大学に残ったのであり、教育がしたくて残る人は少ないと思います。

〈否定的な意見〉

- ・ 十分持っている。
- ・ もっと京都大学生としての自覚を持ってほしい。
- ・ 教育者として期待してほしくない。
- ・ 理解しがたく思われる。
- ・ 研究を通した教育の効果にも学生は眼をむけ

るべきである。自らが研究成果をあげていない
教官の教育は、所詮、切り取られた過去の知識
の寄せ集めにすぎなくなってしまう。いくら、
授業の段取りやテクニックがよくても、学問は
学生に伝わらないと思う。

- ・ 少なくとも本学のようなところでは、優れた
研究者であることが、教育者としての価値であ
り、逆はない。ついて来る学生を選別すべきで、
もっと、学業不良のものは落第をさせるべきで
ある。
- ・ 意味がよく判らない。学生は詳細なシラバス
を求める傾向があるが、講義を聞いて要点筆記
をすることも教育を受けることの一部と考える。
他大学は別として、京大生なら、簡単なシラバ
スで、板書なしでも十分に講義を理解できるの
ではないか？
- ・ 学生としての学ぶ態度をみがくこと。
- ・ 大学教官は自分の学問分野に優秀な学生が来
てくれることを願っているので、宣伝のために
講義をするのだと思っている。一般教養として
教えるのではない。したがって、かならずしも
万人にわかりやすい講義をめざしてはいなくて
も、しかたないと思う。
- ・ 学生が何か誤解しているとしか思えません。
- ・ 自分では教育者の器ではないと思っている。
- ・ 言いたいことはわかりますが、与えられるの
を待っているだけのような人もいます。要望は
謙虚に受け止めますが、もっと積極性を持って
欲しいという気持ちがあります。
- ・ 学生の自覚を持って欲しい。
- ・ もっと学生としての自覚を持ってほしい。い
ずれにせよ、教官側も学生側も、理想を追いつ
ぎ、無いものねだりしていると思う。
- ・ 学生は教官に頼らないことが必要
- ・ 本学学生としての自覚を持ってほしい。
- ・ 殆どの教官は自覚を持っている。
- ・ 何もかも教えるのが教育者だと学生が思っ
ているのならスジ違いでしょう。人格を問うてい

るのなら、その通りかもしれません。

- ・ 我々は教育者なのか？
- ・ 教育者としての自覚とは何を意味するのか理
解できない。高校迄の教育における理想的教育
者をイメージしているのなら、それは当たらな
い。それは大学の教育者は研究者でもあり、教
育の目的や視点が高校迄とは違う。
- ・ 学生の云うことではない
- ・ 学生自体の自覚が必要
- ・ 何を持ってこう言うのか、高校の教師ではな
く、研究者としての立場もある。
- ・ 真の学生としての自覚を持て。
- ・ 同意できません。
- ・ もっと学生としての自覚を持ってほしい ・
授業で寝るなら家で寝ろ→私は出席をとって
いないにも拘わらず ・ものを食うな ・しゃべ
るな
- ・ 学生は自分は学ぶために存在しているという
ことを自認するべきだ。人を非難できる立場
か？と私は言いたい。
- ・ 多くの教官は研究がしたくて大学にいる。授
業はその他の仕事でしかない。たしかに教育者
としての自覚をもつ必要はある。その一方で、
小・中・高の先生のように「全人格的な教育」
を大学の先生全てに期待するべきではない。ま
た、与えられるのを待っている態度では困る。
Ⅲ.に通じるが、対等な大人としての学問的な
つきあいを望むならば、学生側も十分に学問に
時間を割き、苦しむべきであろう。
- ・ もっと学生としての自覚を持ってほしい
- ・ もっと学生としての自覚を持つべし。
- ・ かなり特定のケースを念頭に置いているよう
に思う。

＜自分にはあてはまらない＞

- ・ 自身については特に反省すべき点があるよう
には感じておりません。
- ・ 自覚しているつもり。

- ・ 自分としては工夫して講義を面白いものにしていていると思う。
- ・ 私に関する限りこれは思われてないと思います。
- ・ 持っているつもり
- ・ 常に自覚しているが、臨床医学科の医師としての専門活動もしているので、充分でないかもしれない。
- ・ ある程度自覚をもっているつもりだが、この要望はどういう点を問題にしているのかはつきりしないので、これ以上コメントできない。
- ・ 自覚は持っている。
- ・ している
- ・ それほど自分自身に問題があるとは思わない
- ・ している
- ・ 持っている！
- ・ 努力しています
- ・ 私は研究所に属しておりますので、日常、学生と主に研究を通して接しております。研究指導≒教育のひとつと考えておりますので、Ⅰ、Ⅱ. については学生に期待される以前に自分なりに考えております。

〈その他〉

- ・ 具体的な事例が上げられてないので、学生の言わんとする所が分からない。
- ・ 何を言っているのか理解に苦しむ。
- ・ 理解できない。
- ・ 何のことか？
- ・ 意味不明
- ・ ある種のカリスマ性を求められているとすれば失格
- ・ 個別教官について云っているのか具体的内容に乏しい。

「Ⅱ. もう少し工夫して講義等をしてほしい」について

〈肯定的な意見〉

- ・ 教員の講義に対する無関心の程度と学生の甘えの程度による。ただ、教職（高校、各種学校等）経験のない先生が、いきなり大教室の講義を担当すれば学生の不満が大きいのは当然であろう。学生の態度の悪い大教室では教育を放棄して工夫する気もなくなる場合もある。
- ・ ごもっとも。
- ・ 尤もなことと思うが教員の現状を知った上での発言なのかどうか？
- ・ よくわかるが、
- ・ ごもっともです。なるべくそうしています。
- ・ 教官は努力すべきである
- ・ 重要
- ・ 本当にあたっているのであれば大学として真剣に反省すべきである。ただし、Ⅰ、Ⅱ. に関しては学生に対して同様のことを言いたい。学生としての自覚をもって勉学に工夫をしてほしい。
- ・ もっともな意見である。自戒の参考にしたい。
- ・ もっともな意見で反省しなければと思いますが、
- ・ もっともだと思う
- ・ 当然だと思う
- ・ 今後真剣に自省して工夫する努力をしたい。
- ・ 当然の要求といえるような講義もあるようだ。
- ・ その通りです。
- ・ なるべくそのように努めたいと思います。
- ・ 当然
- ・ 同じ講義を4年以上担当してはいけない、などの決まりを作っては？
- ・ カリキュラムの規制を緩めるべきであろう。
- ・ 講義のやり方をもっと工夫する必要はあると思う。
- ・ 考えていく必要は大いにあると思う。
- ・ もっともな意見で、自覚して努力したい。

- ・ 正当な意見であり、個人的には工夫しているつもりです。
- ・ もっともだと思います。
- ・ わかりました。
- ・ できるだけ努力する。
- ・ その通りだと思う
- ・ [大教室（大人数）の講義を少なくする]
- ・ 時間と支援してくれる人手が必要。
- ・ よくわかる。高度の講義を目ざしてガンバッテも自己満足におわることが多い。
- ・ ある程度工夫はしているつもりだが、不十分な点もあるだろう。案はいろいろとあるのだが、委員等の仕事に多くの時間をとられるので、実行に移す時間的余裕がない。
- ・ このような批判を受ける教官が存在することは極めて残念である。学生としても、「学ぶ」態度をもって授業に出席して欲しい（もちろんそういう学生がたくさんいることは承知している。そうでない人もいるので）
- ・ 要望は当然
- ・ 努力はしているが。
- ・ その通りだと思うが、教官が時間的余裕がないのも事実である。
- ・ 当然です
- ・ もっともであると想像できる
- ・ その通りです
- ・ すべきだと思う
- ・ 当然やるべきこと。
- ・ 学生の主張は理解できる。学生の目線に立った講義が必要であり、一方通行の教示が多いと思う。
- ・ どういう「工夫」をしてほしいかが不明瞭だが、希望に沿えるようには考えたい。
- ・ 妥当
- ・ もっと頑張らないといけないと思っている。京都大学の教官は私見ですが、教育にもっと力を入れるべきと考える。
- ・ 理解する。
- ・ その通り
- ・ もっともである。
- ・ 努力するつもりです。
- ・ 自身、反省すべきふしもあるので、今後のイマシメとしたい。
- ・ 必要
- ・ 正しい要求である。
- ・ 賛成
- ・ 当然である。
- ・ 反省すべき点として理解できる。ただし現状は隔年講義で受講者も20数名から数名と不定で、それに応じて内容を変える工夫をしているので系統立てた講義となっておらず学生には不満かもしれない。より、一般的、基礎から応用までと工夫したものを次回は試みたいと思っている。
- ・ 特にⅡ.の指摘は重要である。
- ・ 要望を直接先生に提示できる形を整備する。
- ・ もっともだと考えます。小生も講義終了時（試験時）には自分の講義に対する学生の意見を求め、自己反省の材料にしておりますが、なかなか学生に満足してもらえません。
- ・ そのとおり
- ・ 当然の要求であり、それに答える義務がある。
- ・ 経験不足もあるかもしれません。
- ・ 努力していきたい
- ・ 確かに必要でしょう。（一流研究者が必ずしもよい教育者とは限らないから、教育の自覚は必要でしょう）
- ・ 学生の全員にわかる形は無理としても、努力はしたいと思っております。
- ・ 同感です。しかし、一方で研究業績をあげないと資金が導入できない、小山のような雑務に追われる毎日とは明らかに矛盾します。
- ・ これは納得する。反省の必要を認める（個人的には一般論としても）
- ・ コウギ数や雑用を減らすなど、ゆとりをもった時間がほしい。学生のほうも、もっと、「おとな」になってほしいと思う。高校の先生のよ

うな教え方でなければ教えてもらったことと感
じないようでは困る。

- ・ 講義の工夫は常に必要で、OHP やビデオを
使うのが進んだ講義だと思っている教官もいる
が、常用する設備ではない。
- ・ 賛成
- ・ 何を求めているか知る必要がある。
- ・ 当然、努力すべき。
- ・ 或程度一般に云えること。
- ・ どんな工夫かを聞きたい。

〈否定的な意見〉

- ・ 私語をやめ、まじめに出席してほしい。
- ・ 研究の一端を分かりやすく話すこと以外に工
夫すべきことはない。
- ・ 少なくとも、京大は「学問の府」であってほ
しい。学生はそれについてくるべき。その余地
はある。
- ・ 大学教官は自分の学問分野に優秀な学生が来
てくれることを願っているので、宣伝のために
講義をするのだと思っている。一般教養として
教えるのではない。したがって、かならずしも
万人にわかりやすい講義をめざしてはいなくて
も、しかたないと思う。
- ・ 言いたいことはわかりますが、与えられるの
を待っているだけのような人もいます。要望は
謙虚に受け止めますが、もっと積極性を持って
欲しいという気持ちが逆にあります。
- ・ 私語を慎むこと
- ・ もう少し工夫して講義などにのぞんでほしい。
いずれにせよ、教官側も学生側も、理想を追
いすぎて、無いものねだりしていると思う。
- ・ 学生は教官に頼らないことが必要
- ・ もう少し積極的に講義に参加してほしい。
- ・ 積極的な授業への参加をする
- ・ 自分で努力せよ
- ・ 私は学生の学習意欲が先だと思います。講義
というのは話し手のその学問領域に対する意見、

考え方を学ぶものであって、知識を須くこれ
で得ようとするようなものではないと思います。

とうの私自身、学生におもねって、何とか興味
と関心をひこう、と思っていたと自戒していま
す。

- ・ 最初ぐらいは興味をもって聴講してほしい
- ・ 講義の意義を知るよう努力すべし。
- ・ 講義はするからには工夫する必要があるで
しょうが、大学の講義はそもそもは知識の伝授
ではなく、学問に対する姿勢の伝授であるので
はないか（かなり古い考え方？）と思います。

〈自分にはあてはまらない〉

- ・ 毎年講義は研究成果を新しく盛り込み、工夫
している。
- ・ 日々努力しているつもりです。
- ・ 私に関する限りこれは思われてないと思いま
す。
- ・ 努力している。
- ・ 自分としては工夫して講義を面白いものに
していると思う。
- ・ 自分なりに、得られた講義の工夫はしている
つもりだが、学生たちの要求に合うものかどう
かは話し合ってみなければ分からない。
- ・ 常々学生には講義について批判するように云
っている。しかしあまり批判がないのは親密さ
にける為、学生が遠慮しているのであろうと
思う。
- ・ 工夫しているつもり
- ・ 学生の意見を反映したいと考えている。もっ
と出席して意見を云って欲しい。
- ・ 実社会で役立つことも含め理解を助ける方法
を工夫して講義をしているつもりである
- ・ 工夫している。
- ・ している
- ・ これは受け取る側の問題。議論の講義におい
ても Back ground を説明している。
- ・それほど自分自身に問題があるとは思わない

- ・ 昨年、議論に演習や実習を取り入れると難しい理論の講義にも関心が高まったように思われた。工夫は必要と思う。
- ・ 工夫してますよ。
- ・ 工夫しているつもり。
- ・ 毎年、少しずつ改善している（前年度講義終了時のアンケートを基にして）
- ・ 努力しています
- ・ 話し放しにならないよう気をつけている
- ・ 私は研究所に属しておりますので、日常、学生と主に研究を通して接しております。研究指導⇨教育のひとつと考えておりますのでⅠ、Ⅱについては学生に期待される以前に自分なりに考えております。

〈その他〉

- ・ 具体的に挙げてもらわぬと分からない。
- ・ 各教官の倫理感とか意識の問題

「Ⅲ. 学生を見下すような態度はやめてほしい」について

〈肯定的な意見〉

- ・ ごもっとも。
- ・ やめるべきだと思う。
- ・ この批判が本当にあたっているのであれば大学として真剣に反省すべきである。
- ・ このような要望が出ることは非常に問題があると思う。
- ・ もっともな意見である。自戒の参考にしたい。
- ・ 当然のこと。
- ・ これはいけません
- ・ 当然
- ・ 了解。
- ・ 賛成
- ・ そのとおりだろう。
- ・ 教官はこれだけは止めるべきです。常にいい言葉を使うことが大切と感じております。
- ・ 正当な意見であり、個人的には工夫している

つもりです。

- ・ もっともだと思います。
- ・ わかりました。
- ・ その通りだと思う
- ・ 人間としては対等である。
- ・ このような批判を受ける教官が存在することは極めて残念である。学生としても、「学ぶ」態度をもって授業に出席して欲しい（もちろんそういう学生がたくさんいることは承知している。そうでない人もいます）
- ・ 要望は当然
- ・ こんなことがあるとしたら教官としての資格がない。
- ・ もっともであると想像できる
- ・ 大変重要な指摘
- ・ 同感ですな。
- ・ もっともである。
- ・ 同僚の中にそのような人物が複数存在するように思う（自分自身も、そうならないように自戒します）。
- ・ 真面目な指摘であるなら調査対象としてもよさそうに思う。
- ・ 当然である。
- ・ そのような教官は公表すべき
- ・ 論外である。対等な人格として接すべき。
- ・ コウギ数や雑用を減らすなど、ゆとりをもった時間がほしい。学生のほうも、もっと、「おとな」になってほしいと思う。高校の先生のような教え方でなければ教えてもらったことと感ぜないようでは困る。
- ・ Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、は共通していると思われる。教育者としてのモラルが一般に低くなっているように思われる。教官倫理規程が生まれるようでは論外である。
- ・ 賛成
- ・ 人間として論外である。
- ・ 当然。（但し、学生の方に社会的常識やエチケットがあつての話）

〈否定的な意見〉

- ・ 主観的な問題では？
- ・ むしろ、こちらが「もっと礼儀正しくしてほしい」といいたい。
- ・ 全く逆のことが言える。つまり教官を見下す学生が若干いる。
- ・ 総合人間学部の教官を見下すような態度はやめてほしい。
- ・ 理解しがたく思われる。
- ・ 学生と教官の間に一定の距離感があることは必要である。
- ・ 学生の甘えである。大学がサービス産業化することには反対である。
- ・ これはお互いの日常の積み重ねの結果だろうと思われまふ。私は異動してきた（東大から）ため、京大の特徴がよくわかりますが、学生はとても大切にされており、このような感想が出るのは、むしろ学生の側の思い上がりによるものだろうと推測します。
- ・ 学生が何か誤解しているとしか思えません。
- ・ ごく一部の教官の態度であろう。
- ・ あまり見たことがない。
- ・ 教官を見下すような態度はやめてほしい。いずれにせよ、教官側も学生側も、理想を追いすぎて、無いものねだりしていると思う。
- ・ 本学学生として節度ある態度をとってほしい。
- ・ そのような教官を余り知らない。
- ・ 見下さざるを得ない様な学生が多い。社会的マナーに関してあまりにも子供でしかない。家庭や学校（高校までの）での教育のあり方に問題がある。教官の側もきちんとした、学生らしい学生に対しては同じ高さの視点でつきあっている。
- ・ 見下される理由があるのでは？
- ・ 学生側の態度の方が問題。大学で、基本的な礼儀作法を教える必要のある学生が多い。
- ・ 一人前として認めてほしければそれくらいの常識を身につけてから言ってこい。

- ・ 教官を見下すような態度はやめてほしい
- ・ 個人のキャラクターや教官としての歴史、背景などさまざまであることから、この点の規制をする必要はないと考える。
- ・ 学生が一番ラクでエライと思うな。
- ・ かなり特定のケースを念頭に置いているように思う。

〈自分にはあてはまらない〉

- ・ そのような態度をとったことはない。軽音で研究妨害している学生は別。
- ・ もしそんなアホな教官がいれば、ほっとけばいい
- ・ 自身については特に反省すべき点があるようには感じておりません。
- ・ そのような態度はしていないつもりです。
- ・ 私に関する限りこれは思われてないと思います。
- ・ 自分には心当たりがない
- ・ 自分は問題ないと思う。
- ・ そのようなことはしていない。学生の自意識過剰の結果ではないだろうか
- ・ 自分はやっていないつもりだ。
- ・ していない。
- ・ 自分はそのような態度、考え方はしていないつもりなのだが、学生の反応はわからない。
- ・ していない
- ・ 研究室あるいは院生とのつき合いを持つ我々としてはよく分からない。教官と学生との人数の比率の問題もあると思われる。
- ・ それほど自分自身に問題があるとは思わない
- ・ 私に関してはこのようなことはない
- ・ していない
- ・ していない
- ・ そのようにしていない。
- ・ すべき事をやっている学生には、同じ研究者仲間としてつきあっている。
- ・ 努力しています

- ・ 学生の人格は常に尊重している
- ・ 少しもそんな気持ちなし
- ・ 特にその様な意識を持っておりません。
- ・ これは自分でも意識的にやめているつもりです。

〈その他〉

- ・ どういうことかはっきりしない。理解できない。
- ・ 意味不明
- ・ 趣旨が不明
- ・ 問題外
- ・ 具体的に想像がつかない。身のまわりにそのような教官は見当たらない。
- ・ これは教官の人格の問題だから、むづかしい。
- ・ 各教官の倫理感とか意識の問題
- ・ お互いに尊重するためには学生もそれなりの自覚を持つことが前提となる。
- ・ 一部の意見ではないか
- ・ 学生に対する失望感の現われ？
- ・ 多分教官のある種の劣等感の現れだろう。
- ・ 分からない。
- ・ わかりません。
- ・ 人によるのでは
- ・ ？
- ・ Ⅲ．Ⅴ．共通している意見の可能性はある。特に教授に対する要求のように思うが、何らかの方法でもう少し詳しくデータを探って考えるべき指摘のように思われる。
- ・ 意味が良くわかりません。
- ・ 論外
- ・ 質問内容が理解できない

「Ⅳ．日常的な態度を反省してほしい」について 〈肯定的な意見〉

- ・ ごもつとも。
- ・ 授業その他でのセクハラ発言など大いに反省すべきである。

- ・ 学生も
- ・ わかりました。
- ・ 人間としては対等である。
- ・ この様な批判を受ける教官が存在することは極めて残念である。学生としても、「学ぶ」態度をもって授業に出席して欲しい（もちろんそういう学生がたくさんいることは承知している。そうでない人もいるので）
- ・ もっともであると想像できる
- ・ 反省したい
- ・ もっと頑張らないといけないと思っている。京都大学の教官は私見ですが、教育にもっと力を入れるべきと考える。
- ・ もっともである。
- ・ 同僚の中にそのような人物が複数存在するように思う（自分自身も、そうならないように自戒します）。
- ・ 自身、反省すべきふしもあるので、今後のイマシメとしたい。
- ・ 当然である。
- ・ コウギ数や雑用を減らすなど、ゆとりをもった時間がほしい。学生のほうも、もっと、「おとな」になってほしいと思う。高校の先生のような教え方でなければ教えてもらったことと感ぜないようでは困る。
- ・ Ⅰ．Ⅲ．Ⅳ．は共通していると思われる。教育者としてのモラルが一般に低くなっているように思われる。教官倫理規程が生まれるようでは論外である。

〈否定的な意見〉

- ・ 主観的な問題では？
- ・ これはお互いの日常の積み重ねの結果だろうと思われます。私は異動してきた（東大から）ため、京大の特徴がよくわかりますが、学生はとても大切にされており、このような感想が出るのは、むしろ学生の側の思い上がりによるものだろうと推測します。

- ・ 日常的な常識ある態度をしてほしい。
- ・ これは言語明瞭、意味は不可解の典型、我々に聖人君子となれといっているのでしょうか。
- ・ 理解しがたく思われる。
- ・ 学生の甘えである。大学がサーヴィス産業化することには反対である。
- ・ このような要望が出ることは非常に問題があると思う。
- ・ 学生が何か誤解しているとは思えません。
- ・ 日常的な態度を反省してほしい。いずれにせよ、教官側も学生側も、理想を追いすぎて、無いものねだりしていると思う。
- ・ 本学学生として節度ある態度をとってほしい。
- ・ 学生に日常的な態度を問われる必要は認めない。
- ・ 意味不明、京都大学にはいろんな教官が居るのがよいと思う。
- ・ このような意見の学生は、よほど悪い教官の指導下にあるのか、本人が問題児であろう。
- ・ generation の gap がよい緊張感を生む
- ・ 学生こそ反省してほしい。一人前に挨拶くらいできるようになってから、一人前のことを言うべきだ。
- ・ 個人のキャラクターや教官としての歴史、背景などさまざまであることから、この点の規制をする必要はないと考える。
- ・ 自らの経験の少なさと未熟さを自覚せよ。
- ・ 何を反省せよというのでしょうか。我々は朝は9時から夜は9～10時半迄研究室で頑張っているのですが。

〈自分にはあてはまらない〉

- ・ 自身については特に反省すべき点があるようには感じておりません。
- ・ 私に関する限りこれは思われてないと思います。
- ・ 自分には心当たりがない
- ・ 自分は問題ないと思う。

- ・ これ以上エリを正して日常生活を送れというのは無理である。(自分なりには最大努力している)
- ・ 反省して行動している
- ・ 反省すべきものなし
- ・ 研究室あるいは院生とのつき合いを持つ我々としてはよく分からない。教官と学生との人数の比率の問題もあると思われる。
- ・それほど自分自身に問題があるとは思わない
- ・ 私に関してはこのようなことはない

〈その他〉

- ・ 何のことを言っているのか、具体的に分からない。
- ・ 具体的な事例が上げられてないので、学生の言わんとする所が分からない。
- ・ 軽音をまきちらしている無作法な学生にも同じことを望みたい。
- ・ どういうことかはっきりしない。どんな態度のことをさすのか分からない。
- ・ 個人差の大きいことなので、具体例が必要。
- ・ 趣旨が不明
- ・ 問題外
- ・ 意味不明
- ・ 意味不明。何に対する態度なのか。こんな意味不明の文章を記すること自体、センターとしての存在意義を疑う。
- ・ 意味がよく分からない。
- ・ 具体的に想像がつかない。身のまわりにそのような教官は見当たらない。
- ・ 「日常的な態度」とは何か、日本語の意味が不明です。
- ・ 何を言っているのか理解に苦しむ。
- ・ 理解できない。
- ・ これは教官の人格の問題だから、むづかしい。
- ・ 各教官の倫理感とか意識の問題
- ・ ？
- ・ 意味がわからない。

- ・ 「日常の態度」or「非日常的態度でいるべき」と言う意味？
- ・ 具体的にわかりません。
- ・ 何を意味しているか理解出来ない。
- ・ 意味が分からない。
- ・ 何を意味するのか、わかりません。
- ・ 意味不明です。
- ・ 何のことか？
- ・ 教育とはあまり関係ない
- ・ 意味不明？
- ・ 意図不明。
- ・ ？
- ・ 何をさしているのか意味不明（Ⅲ. と同様なこと？）
- ・ 意味不明。
- ・ ？
- ・ 意味がわからない
- ・ 日常的以外の態度とは何か？
- ・ わかりません。
- ・ 具体的に何を指しているのかわからない
- ・ ？
- ・ 具体的に？
- ・ 意味不明
- ・ 理解不能。
- ・ バクゼンとしていて答えようがない。
- ・ ？
- ・ 意味不明
- ・ ？
- ・ コメントのしようがありません
- ・ 意味が良くわかりません。
- ・ 具体的な内容が不明。
- ・ 意味不明
- ・ 何を意味するのか
- ・ 意味不明
- ・ 論外
- ・ 質問内容が理解できない
- ・ 意味がよく分からない。
- ・ 何がどう悪いかによります。

- ・ 要望の意味するところが明確でない。
- ・ 理解不能
- ・ 意味不明
- ・ 意味が判らない？
- ・ 具体的に。

「Ⅴ. 学生ともっと親密につきあってほしい」について

＜肯定的な意見＞

- ・ 尤もなことと思うが教員の現状を知った上での発言なのかどうか？
- ・ 小生には反省される。しかし、今の学生気質がよく分からない。アプローチの方法を摸さくしている現状である。
- ・ もっともな意見で反省しなければと思います
- ・ が、
- ・ もっともだと思う
- ・ 1～2回生なら当然だと思う
- ・ なるべくそのように努めたいと思います。
- ・ 学生ボランティアを毎年病棟でやってもらっています。1～2人かな。
- ・ 反省しております。忙しすぎて講義を忘れることすらあります。時間があるときは充分準備して学生全員と discussion できるように工夫しています。大人数の講義はよくない。
- ・ 教官の教育に対する意識向上も必要であるが、学生にも大学に高校までとは違って自ら学びとるという姿勢をつけさせることが必要、興味のある人は教官に積極的に働きかければいい。
- ・ 個人的には、これに答えようと思います。
- ・ 交通費を出してほしい
- ・ そのような時間をとりたいが、とれないのが実情である。ゆとりがほしい。
- ・ 正当な意見であり、個人的には工夫しているつもりです。
- ・ できる限りそうしたい。
- ・ そのようなゆとりを持ちたいが、お互いの理解が必要

- ・ 学生もシグナルを送る必要あり。
- ・ これも理想的にはもっと学生とつきあうべきだと思うが、Ⅱ. と同じく、時間的余裕の乏しいのが問題である。
- ・ こちらも親密につきあいたい。その為には、大学の事務機構、手続きの大巾な改善が必要と思うが、積極的に訪ねてくれれば、それなりに対応できる。クラスのコンパなども学生主導でやってくればよいと思う。(出席する)
- ・ 努力の必要を認めます。
- ・ 当然です
- ・ 妥当。ただし、適度の距離感と節度のうえで。
- ・ 自身、反省すべきふしもあるので、今後のイマシメとしたい。
- ・ 当然
- ・ 当然である。
- ・ 努力していきたい
- ・ 大学院中心に担当していますが、基本的には教育は研究なしにはできないと思っています。研究を通じて親密なつきあいができたらと思っています。
- ・ コウギ数や雑用を減らすなど、ゆとりをもった時間がほしい。学生のほうも、もっと、「おとな」になってほしいと思う。高校の先生のような教え方でなければ教えてもらったことと感ぜないようでは困る。
- ・ 対話型の教育を1、2回生からはじめるべきである。
- ・ 大いに賛成です。いつでも来て下さい。喜んでいろいろなおつきあいをしたいと思います。
- ・ 通常はその通り。

〈否定的な意見〉

- ・ 教官には個人的に接触するよう努めてほしい。(別に接触する必要もないが。)
- ・ 自分の指導学生とは、そうしているが、別に専門の指導をするわけでもない。一般の学生とはつきあにくい。ただ、講義のあとの質問に

は答えている。

- ・ 質問など、もっと積極的に、昼休みなどに来たら良い。
- ・ 教官と親密につき合いたいなどどうして思っているのか、理解不能、我々の学生時代は教官は敬して遠ざくべきものだったですがね。
- ・ 大学生になって先生と一緒に遊びたがるのはヘンではないでしょうか？
- ・ 教官側が働きかけても、京大生は必ずしもってこない。
- ・ 学生側にもコミュニケーションの努力が必要。教師对学生という枠組みにとらわれず、個人対個人という率直な関係を作る努力が必要。
- ・ 学問や学習を通じての親密さは必要であるが、それを超えての「つきあい」というのは、一般的には困難である。なお、教官研究室を気軽に訪問するのはよいけれども、予約なしに来訪したり、長時間を費消することに無神経であっては困る。できるだけ早目に切り上げる節度を望みたい。
- ・ 学生の甘えである。大学がサービス産業化することには反対である。
- ・ 教官が多忙な場合が多く、時間的に難しいことがある。
- ・ これは、もう少し時間を確保できるようにしないとなかなか答えにくい要求だと思います。
- ・ 教官との個人的な人間関係を深くしたいという要望は理解できるが、やはり、それ以前に、基礎的な学力をつけることが重要であると思う。ある程度の専門的知識の交流を通して、教官と学生との間の親密さが生まれると思う。
- ・ 学生から action すべき。
- ・ 学生の甘えも大きい。大人としてつきあえるように学生も自立すべきである。それにしても教官は忙しすぎ学生は勉強しなさすぎる。
- ・ そのような意見もありうると思うが、必要ない考える。学生には自立した大人の意識を希望する。

- ・ 甘えないで他人と距離を置いて生きる事を覚えましょう。
- ・ もう少し時間的・金銭的余裕があれば実行したいが、多忙のためできない。
- ・ 甘えるな。親密とはどういうことをいうのか？一緒にお茶を飲みたいというのだろうか。
- ・ これは難しい
- ・ 大半の学生は教官を避けようとしているように思える。
- ・ 言いたいことはわかりますが、与えられるのを待っているだけのような人もいます。要望は謙虚に受け止めますが、もっと積極性を持って欲しいという気持ちが逆にあります。
- ・ 教官ひとりあたりの学生数が減れば可能と思われる。いずれにせよ、教官側も学生側も、理想を追いすぎて、無いものねだりしていると思う。
- ・ 積極的に議論に参加してほしい。
- ・ 機会がない。
- ・ 人によるでしょうから、そうは思いません。
- ・ これは、高校生－先生の関係と大学生－教授の関係とは、異なるのでむづかしい。
- ・ 年齢と共に低学年の学生との「きより」が大きくなる。助手、助教授の若い人にまかせたい。
- ・ 学生から教官に Action すべきことである。
- ・ これは大学の役割ではない
- ・ 学生も距離をおいている部分があるのでは？E-mail などをもっと活用すればよいかもしれない。
- ・ 困難な点があると感じる
- ・ 最近、学生は本当に教官と親密につきあいたいと思っているのか疑問に思うことが、時々ある。
- ・ 同意できません。
- ・ ×
- ・ 講義を聞きにきているだけの学生を対象に、「親密に」はできまい。講義のあとに積極的に質問や意見を交換し、はじめて徐々に親密なつ

きあいになっていくのが当然ではないか。

- ・ これには少し学生の甘えが見えて、愉快ではない。学生からとび込んでこい、と言いたい。
- ・ 回答者の知る限り、これは学生側の問題だと思います。
- ・ 自ずと限度はあると思う
- ・ 質問するなりしてほしい。大学は幼稚園ではない。
- ・ 教官個人の考え方、環境による部分がある。学生側から積極的にアプローチがあれば、時間に余裕がある限り付き合う教官が大部分と思う。“求めよ、さらば与えられん”
- ・ 仲々、時間的余裕がないのが実状です。
- ・ 教官に時間的余裕が必要でしょう。(とくに、教官の評価を論文などの評価だけに限ると、このような活動はできにくくなる??このような観点からも、秀れた教育者がしっかり評価されるシステムを作る必要がある)
- ・ 親密につきあう事は良いことであるが、時間がない。学生がもう少し活発に発言してほしい。
- ・ 学生数が多いこと、ほかの業務が多いのでなかなか実現できないのではないかな。
- ・ 程度問題。友達にはあらず。
- ・ 「長幼の序」と言うことも大事であることを知った上で教官とつきあえ。
- ・ サービスを期待しているのなら応えられない。

＜自分にはあてはまらない＞

- ・ 私はつき合っている。
- ・ 礼儀を保ちながらも率直な意見交換をする伝統が研究室にあり、現在のままでよいように考えております。
- ・ 学生とは親密すぎるほどつき合っている。
- ・ 学部学生のコンパなどには年2回程度はつきあっている。しかしそれ以上は時間的制約もあってつきあえない。
- ・ この問題は、学生の考え方を我々が理解していないところに原因の一部がある。話し合いは

良いことであり、医学部ではチューター制の導入に踏み切った。

- ・ 本年度からチューター制をとることになり、教授・助教授全員（講師の一部）がそれぞれ6名の学生を受け持ち、親密な関係を築くことになっている。
- ・ そのように努めている。
- ・ そのように心がけている
- ・ 研究室に配属されると一番つき合いが長くなる。
- ・ 時間があれば積極的にしているが学生側に避ける気持ちがあるのでは。
- ・ 研究室に配属される4年生以上は、親密になっている。
- ・ している
- ・ 研究室あるいは院生とのつき合いを持つ我々としてはよく分からない。教官と学生との人数の比率の問題もあると思われる。
- ・ 日常生活とちがい学生とのつきあいは、研究、教育を通じて行っている
- ・ 来るものは拒まず・・・
- ・ これについては自信がある。
- ・ 研究室では十分につき合っている。それ以外では不可。
- ・ そのつもりだが。
- ・ 学生サークル2つの顧問を引き受け、週2回オフィス・アワーを設け、年1回ゼミ旅行に出かけ、年数回コンパにつきあっています（これ以上は無理です）
- ・ つきあっている！
- ・ 努力していますが、学生の方から来てくれないと不可能です（学生の会合、コンパには努めて出ています）
- ・ 納得できるし、そのように努めている。

＜その他＞

- ・ 立場による。
- ・ 研究面であれば時間を割いてもよい。

- ・ 親密さの内容にもよる。
- ・ 問題外
- ・ 親密につきあうというのは具体的にどのようなようにしたらよいのか？
- ・ 意味不明
- ・ 個人的なことなので人による
- ・ Ⅲ、Ⅴ、共通している意見の可能性はある。特に教授に対する要求のように思うが、何らかの方法でもう少し詳しくデータを探って考えるべき指摘のように思われる。
- ・ 学生との年齢差がひろがるにつれて、つきあいの形について考えさせられるようになってきている。親密(?)さの定ギを考えさせられる。
- ・ 親密につきあって→この意味が問題！学生と密なコミュニケーションを図ることは不可欠である。しかし、それは学生の「お友達」になることではない。むしろ学問というのはある種の「discipline」であることをどのようにわからせるか、が課題であろう。

全体について

＜肯定的な意見＞

- ・ 教官の向上心の欠除が何よりも問題で、その他のことは二義的に考えたら事の改善は進むと思います。上記の苦情があるのは、教官サイドに問題があると素直に認めるべきだと思います。
- ・ 学生の意見にももっともな点があり、教育上生かしていきたいと思うが、一方では、最近の学生の非常に依存的な態度が、こうした意見を生んでいるのではないかという感想を持つ。
- ・ 耳が痛い。もっともっと反省します。多分教育者として一所懸命やっても incentive がほとんどないこともひとつの原因では？
- ・ いずれも、一応もっともな要望だと思うけれども、具体的内容が（これだけでは）不明のため、コメントしようがない。教官として、これらの要望をそれぞれが受け止めるほか、ないであろう。

- ・ 京都大学は教育のあり方にもっと工夫すべきと思う。
- ・ 以上、五点の指摘は正当なものであり、真摯に受けとめたい。同時に教育は、学生と教官の間での契約として成立する面も見るべき。すなはち、学生もまた必要な授業出席や、授業外での勉学を行い一定の知識、能力を発達せしめることも学生は自覚すべきであろう。
- ・ すべて傾聴にあたいする。しかし京大にないのは学問をするための基本的な場所—学生が自由に思索でき調べられるすばらしいライブラリとコモン・ルームなど。それをつくらない限り精神論でおわる。
- ・ よい教官が少なくして申し分けない。
- ・ もっともな意見だと思う。大いに反省すべきだ。
- ・ 研究者としての毎日の生活の中に、教育者としての余裕が必要だと感じています。
- ・ 京大は大学院生を主に指導している。そのため学部学生には手がまわらない。このあたりに学部学生の不満があるのではなかろうか。
- ・ 自分なりの教育者としての理想像を持っており、それを現実と照らし合わせて、自責の念に駆られることもあります。多少とも理想に近づこうと努力しています。
- ・ 私もこのように要望したい。(同感である。)
- ・ 虚心坦懐に受け止め、対処すべきである。
- ・ 周辺の教官を見ていると、「もっともだ」と思う。
- ・ すべてもっともな意見である。大学人は素直に耳をかたむけるべきである。ただし、私の考え方は大学の教育者＝優れた研究者である。

↑

(希望)

これがなければ、大学教育と高等学校の教育と本質的な差はない。ただし、しばしば現実には、優れた研究者が必ずしもよい教育者でないことがあるが、これはやむをえない。優れた研

究者でないものが大学におけるよい教育者にはなれないということだ。

- ・ すべてもっともな要望と思いますが、
- ・ このようなことが事実として存在するなら、それは教官人事登用の誤りにすぎない。
- ・ いずれももっともな意見である。
- ・ 参考になる意見です。
- ・ 学生の意見は、個別的・具体的であった筈だと思います。しかもその多くは、妥当なものであった筈。問題は、そのような学生の意見を、個別的・具体的にかつ有効に教員側にフィードバックする仕組みが整備されていない点にあると考えています。
- ・ もっともと思う
- ・ 正しい意見だと思います。しかしながらほとんど出席して来ないのに授業の内容、態度がわかるはずがないと思います。毎年異なった授業を行っていますので前年度の授業の内容は参考になりません。なぜ学生が授業に出てこないのかをまず調査すべきです。また医学では授業より自分で参加できる実地の方がずっと効果が有ります。必要であればそこからまた基礎をやれば宜しい。
- ・ なるほど。そういう「人」(教官)も一部おろろろ。しかし一部を全般化せぬようにしてほしい。
- ・ 学生の言っていることは全て、もっともなことと考え努力したいと存じます。ただ学生の側にも問題があるのではないかと思う場合もあります。たとえば、教官も多忙な中を学生と相手しているのに自分の都合を(バイトなど)ふりまわして、教官の都合を無視するなど色々と経験があります。学生のほうにも一考をお願いしたい。
- ・ 耳がいたい!
- ・ 全くその通りだが、同じことが学生側にも言える。互いに歩み寄る接点を講義(カリキュラム)の中で見出したい。

- ・ 確かに日頃の教育にさく時間が少ないことが問題ですが、学会、診療、研究に多忙で仲々時間が作れない現状です。
- ・ 参考にいたしたいと存じます。このアンケートが役立ちますよう祈念いたします。
- ・ 実直的に学生と触れ会える時間が双方とも必要と考えている。教授するのではなく、学ばせるモチベーションが与えられればそれが最高の教育と考える。
- ・ もっともである。教官にその自覚が希薄だとすれば、教育自体が教官の評価につながっていないからだと思う。
- ・ すべて正しい納得できる 但し、余裕に乏しい。
- ・ 全てごもっとも。基礎的な知識を人並みに持った上で発言すること。
- ・ 全て妥当な指摘である。
- ・ 当然の意見と思う。今後このような批判をもとに改善していきたい。
- ・ 研究にかなり時間をさかれていて教育者として自覚が少し足りないのは一般的かと思われ、改善して行きたい。
- ・ 一般論として講義の人数を減らす。小学校でも25名位が適当と言われているが大学でも人数をしばり、学生一人一人と目と目を合わせながら反応を確認しながら講義を進めていくのが重要ではないか。
- ・ 教官はこれらの声に真剣に耳を傾けるべきである。また、このような声がどの程度、だれに対してであるのかを正確なデータとして提示してほしい。
- ・ いずれも個人の意見として正しい気がします。しかし、教育をする方では意欲や能力の点において非常に幅がある学生をどのように扱うか日常悩んでいます。この事情は最近特に目立っている。学生にもっと勉強と学習をして欲しいと言いたい。
- ・ おおむねもっともな要望と思う。
- ・ 学生がこのような要望を出しているのが、顕著に多い場合には、大変な問題である。「発言の責任」と言う意味で記名で、どの教授に何を要望したかを学生に書かせ、しかるべき委員会で検討した上で、学生の名前を伏せてその教授に要望書を出すぐらいのことを考えては如何でしょう。
- ・ このような意見は貴重な声として反省すべきでしょうね。
- ・ 学生の意見に傾聴すべきものもある。
- ・ いちいちもっともだとは思いますが、学生（私たちの対象は院生）がもっと積極的に教官にアプローチしてくれば、状況は改善すると思うが、むしろ学生が遠慮しすぎているのではないかと？ ひとつの理由に先生たちが忙しそうにしているからか？ しかし、先生たちがとにかく、忙しすぎる、研究（そのもの）と教育（正味の）以外に割かれる用務（会議、社会的用務、来客、会議準備、コピー他）が多すぎるのがもっとも大きな障害要因だと感じる。
- ・ とにかく雑用や学会活動が多く、もっとゆっくり学生と discussion したい。
- ・ 他の教官の講義を聞いた限りでは、もっともな意見だと思う。また、不必要な科目を従来の慣例で講義している場合があり、学生、教官両者にとって不利益であろうと思う。
- ・ もっともな要求。だが、学生にも「学生としての自覚」と「日常的な態度の反省」と「教師をうやまう態度」を望みたい。
- ・ いづれも、もっともな点が多いと思う。Ⅱ、Ⅴ、は時間的な制約とも関係して意のままにならない反省もある。Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、は個人の資質も含めて、改善すべき点は多くの人に多々あるように見受けるが、これは人材の選定の問題でもある。
- ・ まことにもっとも。個人的には自覚しているつもりです。自覚のない先生が多すぎるよネ。教育は人間と人間の出会いなのだから、人間と

ようつきあわん教官を選んで残したり入れたりしてるのに問題があるやろ。教官の人格のチェックかな。冗談冗談。しかしなんでこうも社会的禁治産者が多いのか・・・

- ・ IV. の意味は分かりかねるが他はもっともである。
- ・ 同感 教官は社会的バランス感覚のとれた者であることが重要。
- ・ 小生が学生時代の教官に対するイメージは、尊敬の対象であり、良い先輩であった。すなわち、講義というのは、ある学問を教官の個性という増幅器を通して学生に伝達するものと考えられるので、教官サイドも日常の言動から自らの立場を意識し、真剣に教育のことを考えていくべきであろう。
- ・ いずれも尤もな点がある。
- ・ 学生として当然の要望であり、教官は改善に努める必要がある。
- ・ 全てもっともなことだと思います。私はかつて1960年～61年スタンフォード大学で院生として勉強したことがありますので、日本の大学の教官の行動は、国際的に通用するものではないと考えています。先ず、人間的な存在としての資質に欠ける人物が多すぎると思います。
- ・ その通りだと思う
- ・ 上記の意見がでてもおかしくはないが、必ずしも全教官に対する意見でないことも確かなのでは？特に、IV. V. に関しては、何を言いたいのかわからない。
- ・ 全てもっともである
- ・ 「研究に偏重した教官」の意識改革が必要。ノーベル賞を目指すことは悪いことではないが、そうした役割をまた担うべき後進を育てることが、それに劣るとは考えられない。
- ・ 自分の講義についての客観的な見方ができればよいと思う。受講者が多いときと少ないときでは講義方法がまた変わってくると思う。とにかく教官は授業方法についての研修を受けてい

ないので、その方法について独善的になりがちである。したがって、改善の余地がある。

- ・ 全体的に講義の工夫が足らず教育面が研究面に比べ軽視される傾向にあるように感じる。これらの点については教官は反省すべきだと思う。しかし大学の講義は高校までのような授業と同じでいいかどうかは判断がむづかしい。高校までの授業と同じような内容を大学で期待すべきかどうかは疑問である
- ・ 学生の要望には耳をかたむけ、自己反省すべきである。
- ・ もっともな要望だが、個々の具体的なケースに対してでなければ答えようがない。
- ・ 教育と研究を分けるべき。もちろん、研究室配属の学生、院生には研究を通じて教育を行えるが、講義や学生実験は、それ専門の教官を設置し、我々が分担する必要がないようにして欲しい。又、それらの方々はたとえ論文数がなくても、教育実績を認め、昇進を可能にすべき。
- ・ 現在の日本の大学の現状としては、教官の研究活動（論文発表件数？）が重視され、教育が逆に軽視される雰囲気にあることが大きな原因だと思います。最近、教官は大学院所属となる情勢にあるのは、それを助長していると思います。
- ・ 学生からのコメントは或る程度理解できます。しかし京都大学の学生がこのような要望を出すという時代なのかと思うと悲しくなります。
- ・ 全学共通科目の担当です。私は教科書（自分で執筆）を全部こなしていますが、中には半分しかこなしていない人などいたり、教育レベルにはばらつきがあります。学生の反応を見ないで授業を行うと、いろいろ上記のような要望が出てくると思います。教育の工夫として、教師側と学生側で「底上げ」が必要な部分はあると思います。教育には教師の人柄が出るものです。
- ・ もっともなことだと思う
- ・ これまで、京都大学では研究業績のある教授が良い教育者であるという考え方があり、一面

は真理として認めるが、そうでない人が多数いるという実体に目を向ける必要がある。上記意見は、この考え方と大いに関係していると思われる。若い研究者が、自分の上司、先生の講義方式から学んで教えるだけでは、状況に改善は見られない。何らかの訓練期間が必要と考えられる。

- ・ こんな要望があるのはあたりまえのこと。こんな調査をしてみてもむだ！
- ・ もっともな意見であるが、真剣に学ぼうとする学生が少なくなっている（以前に比べて）のも事実である。
- ・ 当然重要なことで、常に教官が心する必要がある。
- ・ 学生の要望もわかるが、喰い入るような眼ざしを以って授業に臨む学生をどのようにして導入できるか？
- ・ 教官の一部にもいるのでしょうね。そのような教官は京大のみではなく他大学も経験されるとよいでしょう。
- ・ 日々、「教育」と「理系の研究」の板ばさみ状態で、どちらつかずとなっている。特に理系の実験系研究では、教育とは技術指導のことが多く、「研究成果」の“採算性”が悪くなる、つまり研究速度が低下しがちになる。
- ・ もっともである。努力したい。
- ・ 人事のやり方に問題。そのような人がかなり居る。
- ・ それぞれ心に痛い。
- ・ このような要望を出す学生は好ましいことで、問題は授業に出ない、勉強をしない学生であり、この対策を考えてほしい。
- ・ 私は、本当は研究をするために時間を使いたいし、教育にはほとんど興味ありません。私が授業をする目的は、私の研究に興味を抱いてくれる優秀大学院生をリクルートするためと割り切っているので上の希望のいくつかは私に当てはまるかもしれません。しかし、Ⅰ．やⅤ．の

意見に対しては、同意できません。

- ・ きわめて当然な要求である。
- ・ できるだけ要望にこたえるようにしたい。
- ・ 同じ大学の教官として切実に感じるが、「人間」として失格に値する教官を数多く見ているし、知っている学生から、ボイコットなり、評価をさせた方がよいだろう
- ・ 学生の要望は納得できる。質の高い講義を学生が理解しやすいよう工夫して実施したい。教育者としての自覚を持つことは必要不可欠であるし、努力したいと考えている。
- ・ まったくその通り。
- ・ 指摘はもっとも。日本の大学における教授法は情けないほど遅れている。施設（教室）も不十分である。
- ・ 学生の意見を聞くことは当然ですが、一つひとつ対応することではなく、若い世代を、歴史の下で（親の世代を含めて）理解するよう努めたいと考えています。
- ・ いずれの要望も軽視すべきではなく自分自身気をつけたい。
- ・ もっともな意見で耳をかたむける必要がある。
- ・ Quite Reasonable !
- ・ 学生の声にもっと耳を傾けるべきである
- ・ いずれももっともな意見だと思う。しかし、Ⅱ．は担当の教官同志の話し合いが重要であるが、その指揮をとる教官が忙しすぎる。したがって、教育担当の専任教員が少しは必要と思う。特に、一般基礎科目の場合は重要である。
- ・ 授業の最終日に講師としての自分の客観的評価を知るために学生にアンケートした。上記のⅠ．Ⅱ．に相当する意見が多くを占め、また、そういう要望を強く抱いている教官（いわば手ぬきをしていたり教育に熱心でない教官、学生にとっては悪い教官）ほど、こういう評価をする機会が少ないという学生側の不満が多々あった。
- ・ もっともな意見で大いに参考にすべきである

- ・ 大学の先生といえども、抑揚のない調子で“音”を出していたのでは、学生が興味をもって講義を聴くはずがない。極端な話、落語家に弟子入りしてでも、話術の向上に勤める必要がある。講義を雑用と考えている教官も居るが、これでは大学は面白くなって当然である。
- ・ 熱意をもって工夫すれば格段に優れた教育をすることができ、学生もそれに応えて飛躍的に向上してくれることは承知している。Ⅰ．～Ⅴ．の要望は当然のもので、対象となる教官は大いに反省し、態度を変えるべきである。
- ・ 私は旧高等学校の教師のように「教育」を中心とした活動ができれば「研究」ができなくても苦になりません。現実には殆ど学生と接することのない研究生活をやっています。制度的な改革によって、教育を重点とする教官を選択して（勿論待遇面で差別したりしないで）やらせるようにすれば、上記のような要望が満たしやすいだろうと思います。研究成果ばかりで評価するようでは危ない。
- ・ 学生に批判されることのないように学部教育を担当する先生方はは自省し、改善の努力をしてほしい。私は体育会の運動部長をしているが学生側から接触しようという意欲が見られないことはさびしいと感じている。
- ・ 学生の甘えもあるがプロの教育者としての自覚と情熱が問われていると思う。
- ・ 大学の研究者にはおかしいのも多いし、またおかしいのを飼っておく寛容さも大学には必要（もちろん研究者として優れていることは前提）であるが、教育に関しては特に学部学生に対しては教育者として適当でないものは担当からはす必要もあるのではないか。上記の学生の要望はすべてもっともだと思う。ただし大学などの研究者の道をめざす大学院生に対してはあまえないで自分で師を選ぶべきであるといいたい。
- ・ 全て正しい指摘であると考えています。
- ・ 学生の言うとうりだと思います。
- ・ 教育カリキュラム全体を具体的に、組織だって検討する必要があると考える。現状では、必要な科目名は考えられているが、それぞれの内容は、教官にまかされており、特に、全学共通科目では科目名が同じでも教育内容にばらつきがある。
- ・ 採用・昇進等の評価において教育実績をほとんど評価されていない現状では、教育（特に学部など）に、十分な時間があてられているかは疑問である。
- ・ 結局は人格の向上を常に教官自身が自覚して、かつ「学生は先生の背中を見て育つ」ということを十二分に認識すべきであると、小生は考えております。
- ・ 私自身が、学生にこの様に思われない様に、日々、注意する必要がある。教官の態度が原因で、学生が学問に興味を失うような事があってはならない。
- ・ 各人心当たりがあれば反省すべきであろう。但し一般論としてはあまり意味がない（あてはまる人がいればあてはまらない人もいる。）
- ・ 全部もっともだけれど、個々の事例に対応するしかない
- ・ 異議ない
- ・ 積極的に意見をとり入れるべきである。
- ・ 教育者としてのみならず、採用時に全く何の研修、ガイダンスも行われていないのは、少々おかしいのではないか？大学院重点化は学部学生に対する教育の比重低下に必然的につながるが。これは決定的に選択を誤ったとしかいいようがない。大学院教育は、研究の重点化を行えば十分。学部教育にこそ、本来の教育機能が発揮される余地もあり、改善すべき点が多いと思うのだが。
- ・ 当然にそのような教官は存在するだろうし、該当する教官は反省し、正すべきところは正すべきである。こうした批判を受ける教官がどの

程度の比率で存在するのか、についての情報があれば教えてもらいたい。

- ・ 学生の要望はもっともだと思うが、学生自身の勉学の態度を反省してもらいたい。
- ・ いずれももっともなところがあると感じる。今後の教育に生かしていきたい。
- ・ 京都大学には服装からして教官とは思えないような幼稚な教官が多々いることと思う。上記の指導は肝に銘ずべし。一方、学生も教官に負けず劣らず幼稚である。逆に幼稚な学生が教官に非難することには疑問を感じる。いずれにせよ相互の努力が必要であろう。米国在住の日本人教師は日本はエリート大学を作ったが真のエリート教育を行っていないと話していた。至言である。学生能力を高める様、教官、学生共に努力すべし。
- ・ もっともな意見
- ・ いづれも、なるほどだと思います。Ⅰ．～Ⅴ．のいづれとも違う手法で講義をしてきたつもりです。教授の忙しさの原因は、教育、研究以外のところに時間を費やされることが最大のもので、時間的余裕があればⅠ．～Ⅴ．の要望も満たされるようになると思います。大学の行政システム事務機構も含めてやり方を変えないと充実した教育を行うことは難しいと思います。
- ・ およそどのような教官かが想像できます。
- ・ もっともであるが、教育環境自体を改善していくことが重要。
- ・ どの項目も非常にショッキングなことばかりですが、どの様な状況で、これらの要望が形となって出ているのか、もう少し詳しい情報がほしい。
- ・ Ⅳ．の要望の意味するところが明確でない。Ⅰ．～Ⅴ．までの要望は各々納得できる面もあるが、教官から学生への要望が全くない、一方的なものである点は少し疑問である。
- ・ 要望に対する具対策を試みる。
- ・ 全くその通りである。

- ・ その通りだと思います。
- ・ 一部の教官に上記の事実があるように推測できるのは残念である。私自身、上記のような批判がないよう努力しようと思う。
- ・ このような要望がなされるような教官が存在することは残念である。
- ・ すべて正当な要望と考える
- ・ 個々の教官に対する評価や注文をフィードバックして生かすシステムを作るべき
- ・ もっともな面もあると思う。
- ・ 当然の考えとは思いますがしかしこのような答えをする教官に会った大学生がいるのが、不思議な気もする。

〈否定的な意見〉

- ・ この結果は、京大生の答えとはまったくもって信じがたい。まともなのはⅡぐらいで、Ⅳは言語明瞭、意味は不可解の典型、我々に聖人君子となれといっているのでしょうか。Ⅲは、もしそんなアホな教官がいれば、ほっとけばいいし、Ⅴは教官と親密につき合いたいなどどうして思うのか、理解不能、我々の学生時代は教官は敬して遠ざくべきものだったのですがね。我々の学生時代といえば、わが恩師の先生方は授業はしょっちゅう休講、学生に分からせようなどの気配りは皆無、工夫も何もなく、ボソボソと語られるだけでした。でもそんな講義から、私どもは師の学問の精神を感じ取ってきたし、全て自分で（先輩の助けを借りながらですけど）学んできました。師はきっかけを与えてくれるだけで、教えてくれるものではなかったし、我々もそれを当り前のこととしていました。文学部の学問はそんなものとの信念は、いまでも変わりませんし、教えようとすれば、文学部の学問はツブレルしかないと思っています。一言だけ言い訳すれば、私個人としては学生に興味をもってもらうよう工夫は怠っていないつもりではありますが。

- ・ 学生の意見にももっともな点があり、教育上生かしていきたいと思うが、一方では、最近の学生の非常に依存的な態度が、こうした意見を生んでいるのではないかという感想を持つ。
- ・ 教育に専念できる余裕があればいいのだが、今のところ十分な余裕がない。
- ・ 動機付けが第一と考える。内容がその場で分かるのは無理。
- ・ 多様なタイプの教官、授業があつてこそ学生にも選ぶ気運が生まれる。要望は結構だが、教育者の望ましいモデルをつくるなどのもつての他と思う。
- ・ 大学生自体教育されるものとの考えをすてるべきです。これから、学者として生きていくつもりなら、なおさらでしょう。
- ・ 学生の熱意が感じられない。あるいは、謙虚に授業を聞く態度が見られなければ、結果的に学生にⅠ．～Ⅴ．の印象をもたれることとなる。学生側の態度が第一義的に問題である。
- ・ 学生の受動的な態度しか感じられない。
- ・ 最近、権利ばかりを主張して、義務を果たす（権利を主張するからには、当然要求される責任や種々の義務）ことのない人が多すぎる。自身も大学入学時に上記のような印象をいくぶん感じたが、中学校や高校のような指導を大学に求めるのは筋ちがいである。大学での講義に満足できぬのなら、自身で本を読んで勉強したりすれば良い。成人に近い年令の学生は、自身の人格形成や将来への展望は、自ら切りひらくべきである。
- ・ この要望には、学問は自らが積極的に学ぼうとする態度で臨むべきであるという自覚が見られず、他人依存症、あるいは他人への責任転嫁が見られる。塾や予備校の考え方が蔓延しすぎた悪影響かもしれないが、少なくとも京大の学生は早期に他人依存症から脱却させるよう努力することが先決であると考ええる。最近のように、文部省の要請に従って大学院定員をむやみに増やすことは、学生全体のレベルの幅が広がり、教育・指導が非常に困難になってきている。本学が大衆化を目指すのか、そうでないかをはっきりさせる時期にきていると思う。
- ・ 上記のように、それぞれの項目について当方にも要望がある。現在の工学研究科では上位2割程度を対象として講義内容を考えざるを得ない。入学者の半数程度は能力・資質において問題があると考えている。
- ・ 学生の教育者に対する理想像が「金八先生」であるとすれば、それは大きな誤解である。
- ・ 家庭内で王様のように甘やかされて養った学生を厳しい社会に出る前に現実を見せてやらなければならない。口にいれてやる親鳥のまねをする時期ではない。
- ・ 予備校的な画一的な授業や、きめ細かい配慮のある授業ばかりを目ざすと、最終的にはやる気のある学生の到達レベルまで下げてしまう恐れがある。自学の精神を消さない対応をしたい。(特にⅠ．Ⅱ．について)
- ・ 全体として学生が高校の延長のような気分であるような気がしてならない。本来大学とは自ら学ぶところであり、教えてもらおうという気持ち強いとⅠ．やⅡ．のような意見となる。もっとも、Ⅲ．Ⅳ．は特定の教官に対する意見であろうが、教官として人間性に問題のある方も多いのは事実であろう。
- ・ 要するに、今の子供（実際は大人ですが子供みtainな精神構造）は他（外部）から何かをしてもらうことしか考えていない。自分から積極的に行動する（遊びのためではない）ように精神教育をすべきである。これは大学では遅く（大人なので）幼児からの教育に対して大学が注文するのが正しいと思います。
(この様な活動 Action をセンターが考えられるのは如何でしょう)
- ・ まず第一に学生側のやる気のなさが問題。ついで上記の問題という順序と思う。教官側の問

題もたしかにあり、反省しなければならないが、学生の甘え構造が主原因。

- ・ このような要望があるのなら、授業中にもっと質問があつてよい筈と思う。
- ・ 学生側も受け身になりすぎているきらいがある。分からない所は自ら探求し、それでも分からなければ質問するという能動性が欲しい。
- ・ 個別のケースとしては教官が改善すべき点があることも承知しているが、全体的印象としては学生の幼児性を残念に思う。
- ・ 学生の要望がどの程度なのか不明である。自分たちの学習態度と対応させて要望を出すべきであつて、一方的に、このようなことを言われても具体的に対応しにくい。
- ・ 京大学生として自覚をもつてほしい
- ・ 小員は研究に熱意をもつ学生とは全面的につきあうが、そうでない無気力な学生とはつきあう気は一切ない。特に20才を越した学生は人生に甘えてはならない。学生としての良心と自覚をもつべきは彼らである。
- ・ 高校のカリキュラムの問題で「生物」を履修したものとそうでないものが、混在したクラスに、応用遺伝子的な講義をしなければならず、教育者として容易に解決できないこともある。
- ・ 学生は問題意識をもって講義を受けること
- ・ 講義方法を工夫することは必要であると考えますが、学生側も講義内容に興味があるのか、ないかで講義を評価することが間違っていることに気付いてほしいと思います。何故なら更に専門的な勉強をするための基本的な勉強は、面白くないものが多く、これを学ばないで専門に進み、立ち往生している学生がかなり多いと思います。
- ・ “要望”の全て学校の生徒のそれである。学生の幼児化が著しい。過去数十年にわたる受験教育体制の整備、受験勉強の産業化による受験勉強一辺倒の弊害化が顕在化してきたのではないかと考えている。

- ・ 最近の学生は甘やかされすぎて育てられているがために、人に何かをしてもらって当然くらいに考えている。自分一人の力で、また時には人の良い所は盗んででも身につけようという姿勢がない。そんな甘ったれた学生に対して、なぜ大学の教官が親の代役や小学校の教師の役を担わねばならないのか？時間の無駄以外の何ものでもない。大学は小、中学校とは違う。それに、勉強、研究をやる気のない学生を大学においておいても大学自体が腐敗していくだけだ。全員が同じことを同じように教えるなどというのは小学校、中学校までで十分だ。やる気のない学生は「放校」にでもできるともっと良いか、とも思う。
- ・ 大学では上のような「悪い教官」(学生にとって)を排除することではなく、学生が「良い教官」を見つける努力をすることが重要である。こんな話を聞いたことがある。福井謙一先生の講義がむずかしく、おもしろくないといって学生が文句を言いに行った。福井先生は私は世界で最高水準の講義をしている、これがわからないのなら講義はしないと云われそれ以後休講になった。しばらくして学生があやまりに行き講義は再開されたが、内容は以前とまったく変わらなかった。しかし、学生は福井先生の信念に大変感銘を受けた。上のような(I. ~ V.)意見は、高等教育を受ける者にとってまことに表層的なもののように感じる。
- ・ 大学は自ら学ぶところ。教官が上から指示するところではない。
- ・ 全てきわめて個人的な見解と思われる。教官は神様ではない。したがって全学生に対して、愛情を持ったり、やさしくしたり親密につきあったりする心のゆとりも時間も金もない。優秀な学生あるいは優秀なクラスのみにやさしくするのは当然。
- ・ 学生が受動的になる傾向が非常に強くなる末が心配である。甘ったれていると言ってよい。

- ・ 学生の向上心、独立心の欠如も問題である。学生自身、大学を高校の延長と考え、何らかの指針を与えてもらいたいとの依存心が強すぎるのではないか？
- ・ 学生の熱意が全てである サボり過ぎである
- ・ 時代の流れでやむをえないのかもしれないが、学生が教官あるいは講義に対して受動的であるという印象をもつ。
- ・ 学生には、受験勉強のみを経験し、教えられる教育、手とり足とりの教育を「教育」と考えているものが多い。つまり自ら考え、選択し、勉強しようという態度のものが少ないのではないだろうか。学生は少々甘えているように見受けられる。まずは京大生、大学生としての自覚を持ち勉学し、行動してもらいたいと思う。彼らの甘えを払拭し自ら学ぶところが大学であることを認識させるべきだと思う。
- ・ 授業の改善、向上は必要であるが、しかし、学生の要求に余り迎合すべきではない。教官は教官の「信念」に基いて教授している。
- ・ 学生は教官に何を求めているのだろうか？中学や高校の先生のような指導だろうか？大学生は自ら勉強し、学んでいくものではないのだろうか？とりあえずコマをうめてとりあえず講義に出て、とりあえず単位は取っておくという受動的態度の学生が多い。
- ・ I. ～IV. は、今風の学生意識とは思いますが、“高等教育”であるならば、学生自身の高校までに植え込まれた（マスコミなどを通じて）意識を変えることが大学の教育であろう（本来的には）I. ～IV. に応えたとすれば、大学を高校の延長とすることになる。そのような意識に応えるには専任の教官が必要か？大学院生又、若い助手の中には、ある課題を与えても“もっとその気になるように説明して下さい”という者がいる。想像力、類推力の欠如というべきか。（かつては教養部、又その教官が学生の意識変革に重要な役割を果たしていたと思う。）

- ・ 日常学部学生とは他部局で授業1コマしているだけの接触しかないが、学生とのコミュニケーションは極めて希薄と感じている。教官、学生、制度面など原因は多いと思うが、これは本学だけの現象であろうか。オフィス・アワーを設けていても訪れる学生はゼロに近い。
- ・ 一部の教官ではI. ～V. に指摘されることが当たっているとは思いますが教官の多くではない（特に理学部）と感じている。

＜自分にはあてはまらない＞

- ・ 私に対してこのような要望があるとは思えません。他教官に対してこれらの要望が正当なものか私には判断しかねます。
- ・ 私自身は上記五点全て満たしていると思っている。
- ・ 抽象的なものではたと思い当たるということもありません。できるだけことはしたいと思えます。
- ・ このような意見があるからといって、一概に教官がどのようにすべきか論じることにはできない。個人的には、上のような意見がないようにしているつもりだが、もしそのような意見があればしかたない。
- ・ 私は本学の本研究科および本学部の lecture 以外に、主として医学部の学生たちと月一回の研究会（Corazon）と月一回の翻訳の会（Barker）とをもって居り何人かの学生と接触しています。彼らは一人として私個人が読んだのではなく自発的に参加した人達です。
- ・ 学生にも様々な者がいるように、教師にもいろいろな者がおり一般的に浅論することに大きな意味はない。少なくとも工夫した講義をしており学生を見下すことはしておらず、ゼミの学生とマンツーマンの意思疎通をしている
- ・ あまりこのような要望をもたれていることはないように思われる。（少なくとも私の授業については）

- ・ 私はⅠ．—Ⅴ．についてそれなりに（かなり・）努力しています。むしろ学生諸君の授業に対する気持ちに問題があるように思えます。もっと知的好奇心を高めてほしいと思います。そうならば私達もやり甲斐があります。
- ・ 当医学部ではチューター制度を今年度から始めており、講義以外の場所で、さらに教官と学生との交流が深まると思われるので、上記の一部については少しでも解消される方向に進むと期待している。
- ・ 課題を与えて討論形式になるような授業を増やしたいと考える。
- ・ 教育者としては、学生を啓蒙するように努力しているつもりである。その努力の評価がされれば、なおうれしい
- ・ 学生に個人差があり一律に答えられない 学生の個性を生かす試みをしている。
- ・ すべての項目について私自身にはあてはまらないと思っているが、それが問題かもしれない。
- ・ 研究室の配属学生とはうまく行っております。
- ・ 自分としてはそれなりに努力しているつもりである。残念ながら教官によっては調査に該当するような人がいることも事実であろう。
- ・ Ⅴ．を除いてはそのほとんどの要望に応える姿勢で臨んでいる。
- ・ これらについて日頃から、自威の念を持つようにしている。
- ・ 工学部では、4年生になって研究室に配属されれば、少人数教育、教官との交流が行われており、卒業までには問題は解決されている。
- ・ 私自身は、後に研究室に配属されてくる学生に、私の授業の印象を聞いて、改めたり、又、学生が「よかった」という先生の授業の方法を学生に聞いて参考にしています。いずれにせよ、授業は、自己の研究に優秀な学生を引き入れるためには勿論、それ以外の分野においても今後の人材を育てるために、もっと重要視されるべきだと思います。
- ・ 講義、実験、実習、研究指導を進めて行く上で、よりよくするため教官と学生は絶えず議論を交わして行くことが原則なので、上記の学生の要望は自然に達成されて行くだろう。もしそうでなかったら、両者の関係が良く行っていないか、両者それぞれの立場の理解不足と努力不足に起因するのではないかと考えられる。教官の採用に際しての人間性の考慮と言うことが大変重要な鍵をにぎっていると思う。
- ・ これらについては学部3回生以下の問題としては理解できる。学部3回生以下の教育には、テキストも単著で書いたし、教育校のカラースライドを利用してわかるように授業している。アンケートも時々している。
- ・ 一部には上記のような人もいると思う。農学部に関していえば、約1割の学生は非常に優秀であると思う。後の学生はその時の状況に左右されてまじめになったり、不まじめであったりだと思う。まじめな学生が多くなれば、真剣に講義に取り組まなければならないと思うが、私の場合、精一杯講義に打ち込んでいるつもりです。
- ・ 現在、大学が小学校の延長になりつつある。何がしたいというはっきりとした目的もなく、とにかく就職できればいいという人が多くなってきている。やる気のある人には、どんどん情報を提供し、方法を手をとって教えている。諸外国、特に研究の先進国では、自らのやりたいことを学生自らが考え、自由に選択し、いつでも変更できる。教師も学生もやりたくないことをやり続けるのは苦痛であろう。もっと学生自身が自分のやりたいことをよく考え、自由に選択するようにすべきだと思う。そうすれば教官、学生双方のレベルアップにつながると考えられる。
- ・ 学生の分属、大学院生の数ということで評価にさらされているので上記のことは常に反省させられており改善している

- ・ 学生の人が興味をもって出席してもらえような授業設計を心掛けている。出席する学生の人の能力に大きなバラツキがあり、中間的レベルにあわせている。能力の高い人や劣る人には不満が残る授業結果となってしまう、上のような要望も出てくることと思う。これらの要望に応えられるよう授業の改善に努力したい。
 - ・ 学部学生の講義を年1コマ担当しているが、教育の主体は大学院生、それも最近では博士課程の院生に移行している。したがって研究と教育が不可分の状況になっており、実験指導セミナー、講義などを通じて少数の学生ではあるが、接する機会が非常に多い。これは実験系の附置研という特殊な事情によるのかもわかりません。
 - ・ 学生と話をしたいのは教官として常に考えていることだが、研究と教育を両立させるために、研究室では実行している。すなわち、大学院等の少人数になってこちらも可能になる。少なくとも大人数入学と業務内容、平均的学生の指向目的を考えてほしい。
 - ・ いずれも個人と個人の個別の問題であり1くりにしてコメントするのは難しい。それぞれの項目については指摘の通りであり正論であると思う。自分としてはこうした苦情には該当していないと信じている。
- 〈その他〉
- ・ いずれも教官と学生のコミュニケーションが不十分であることに一つの原因があるように思われる。今後の改善の具体的方策が待たれる。
 - ・ I. 教育者→学生、II. 講義をして→講義を聞いて、III. 学生→教師、V. 学生→教師と入れ替えれば全く同じことがお互いに言える訳であってこのようなアンケートはナンセンスであろう。
 - ・ 授業形態により著しく異なると思います。
 - ・ 学生の意見からI～Vの意見を抽出した意図は何なのか？
 - ・ どの学部のどの学科の学生の要望なのでしょう？具体性のない要望には解答のしようがない。
 - ・ 何の「調査結果」によるのでしょうか？
 - ・ これは昔からの問題であり、個々の教官が努力して解決していくべき問題だ。ガイドラインを作るような性質のものではない。
 - ・ 人間の接触の機会を多くすることが必要
 - ・ 少しは勉強する気になってほしい
 - ・ 少人数教育の体制がとればすべて解決する！？
 - ・ 具体的な要望でないので、(どのような講義に対して出された要望なのかがわからないので)よくわかりません。
 - ・ I. II. III. IV. 大学人は人格異常者が多いのでいつの時代もこんなものでしょう。
 - ・ 大学の教育方法を抜本的に見直さない限りこのような要望はなくならないと思う
 - ・ II. ～V. 教官それぞれで具体的でないといとも答えようがない。いずれにせよ、I. ～V. の問題は、大学教育以前の問題であると思われる。
 - ・ 尤もな点もあるが、大学生の意見としては幼稚なところも多い。学生自身にも甘えがあって、それは時代の流れだから仕方がないが、教官がそれにおもねるのはよくないことも認識すべきである。
 - ・ 幼稚とはいいいませんが、あまりにも素朴な感じがします。
 - ・ 高校までのあり方を変えないかぎり上の様な要望はけしてなくなる。
 - ・ “学生の勝手な言い分に過ぎないが、現実にはこのような指摘のあてはまる教官も居る”というのが常識的な通考でしょうか。私は、教官が自分の関心問題について講義するのが大学での講義の在り方だと思っています。必要な知識に学生が独学すればよろしい。問題は、私の本学での7年間の学生としての体験で、関心も情

熱も感じられない内容で講義する教官があまりにも多かったことで、自分はそうならないように努力しています。私の父から聞かされた往年の学者の講義に近づこうと努めています。

- ・ 本学の医学部においては研究と診療があり十分に教育に力を入れる余裕がない。各々の分野を専門とする職がほしい
- ・ チューター制の導入を考えている
- ・ 要するに教育をやっても業績にならないし、雑用で忙しすぎるのです。教育だけ（80%位でも）に専念できたらこんなことは解決します。
- ・ 学問の骨組みとおもしろさを教えられたらと思う。
- ・ I. ~ V. それぞれの回答率によって判断が異なるが、教官によって受け取り方が異なるのは当然である。基本的に学生性悪説〔学生の自覚に期待すれば、（放っておけば）学生は期待しない方向に走る〕に立脚して、地味な努力を個別に行うしか、仕方がないと思う。
- ・ 一部の学生は不真面目であり、問題もある。
- ・ 授業への出席率も良く、成績も上位の学生が上記のような要望を持っているなら、教官も真剣に受けとめるべきであるが、実績をあげることなしに不満のみもらす学生の要望には対応する必要はない。
- ・ 1. 教官体質の旧態依然
2. 学生の幼児化（手トリ足トリしてほしい）
- ・ I. II. III. V. に関しては、正当な意見であり、個人的には工夫しているつもりです。IV. は何を意味するのか、わかりません。ただ、「学生の一部」がどのような集団であるかによって、教官の受けとめ方も変わってくるでしょう。
- ・ これらの希望については、学生の層 or category による。勉学を望んでいる学生、or 何かを求めている学生にとっては、教える側が、教えたいこと、自分が重要と感じていることをそのまま教えるのが一番良いのではないかと思います

れる。ただ、学生の多くは、学びたい、自ら何かを追及したいという意志が希薄なのではないか。そのような学生には、高校と同様の授業 or 強制的な教育しかないのではないと思われる。

- ・ I. II. は受験校、予備校の教官をイメージした学生の要望であろうし、V. は逆にゼミナール的な雰囲気を目指す学生のものであらうと思われるように学生の考えかたも多様化している〔または学年を追って成長している（?）〕ことがわかる。したがって「教育改善」と云っても多元的なものにならざるを得ず、またそのように取り組んでいく必要があると思う
- ・ 想像を絶する。理解できない。そのように言われる教官がいようとは。研究業績至上主義が招いた弊害ではないか？予備校の先生と比較されたのかもしれない。予備校の先生は教育のプロだから、かけ出しの若い先生には歯が立たないであろう。
- ・ 1、2回生の授業担当をしていないこと、多人数教室を担当していないので学生の不満を直接聞いていません。学部3、4回生の授業は小人数のため、上記の不満について知っていません。教授が高齢か若いかにしても学生と教官のスタンスは変わります。それはやむをえないことで、自然の状態で接するのが良いと思います。
- ・ I. II. III. IV. このような要望は調査結果（p.76）には出ていないが？とすると1人の要望でしょうか、1000人もの回答があれば1人や2人このような意見があっても不思議ではないと思う。
- ・ 学生からの feed back は重要です。
- ・ 教官個々人の問題で、意見を言うような問題ではない。
- ・ 履修届けを出したら、無断で試験に出席しないのではなく、単位が不必要なら連絡をとってほしい。
- ・ 上記はあまりにも断片的過ぎて、どのような

状況から生まれた意見なのか明確でない。

- ・ 学生の意見として聞きおく。種々の調査結果を数十頁の冊子にまとめて配布されても、すべてを詳細に読む教官は限られていると思われるので、上記のような結果の要旨を目にとまりやすい形態で公表してほしい。
 - ・ 出席者の何%か、一部の意見がいかに関全体を代表しているか統計マジックか否か、しっかり統計処理をセンターがあるのならせよ。
 - ・ “一部の教官に対して”と書き改めてもらいたい。
- p.s. アンケートを作成した人のある意図を感じます。
- ・ いずれも教官個人の問題
 - ・ 近年、授業の出席率が悪くなっているが、上記要望とは別の理由によるように思われる。
 - ・ 授業に関する学生の希望調査を毎年行い、その結果を担当教官に報告することが是非必要と思う。
 - ・ 学部4回生以降で、研究室に所属することがない学生については、教官が熱心に研究に従事して、世の中の期待にも応えていることを見せるのが、教育の重要部分だと思う。
 - ・ I. ~ V. の教官と学生を入れ替えても、すべてあてはまるようですね。
 - ・ 要は教官の人間性が問われているのですね。
 - ・ 講義の内容や方法以前の基本的な部分での要望があるように見受けられる。学生が感じている様な問題点が本当なら教官が大学における研究と教育の基本的な方針について自ら、点検する必要があるでしょう。ただし教育は個性と個性の対決でしかないので基本方針などといっても当り前のことでしかない様に思いますが。
 - ・ 現状では、研究室の会計処理や機器の管理等の雑務が多く、講義の準備にあてる余力はなく、教育の為の大学はいみを失っていると思われる。学部教育は京都大学以外に任せてもっと大学院化を進めるべきではないかと思えます。

- ・ 学生の講義に対する期待と、教官が講義を通して学生に教えたいことは、なかなか、一致することがない。いろいろな面（授業、クラブ、等）で学生と接することになっているが、やはり年々、年令の差を感じる。できるだけ若い世代の教官が研究教育以外に、学生と接する時間をもてるようにすべきである。
- ・ 統計の取り方を工夫して教官の年齢層別に集計して見るのはいかがか？（あるいは階層別）残酷かもしれないが、特に評判の悪い年代がはっきりすれば、教官側の問題点が見えやすくなるように思う。
- ・ 学生からの授業後の対応が少ないのが問題。学生のこういう意見は少なくとも教官に伝わる。
- ・ 教官側から見ると学生の中にあまりにも大きな差異がありすぎる。どのレベルで授業を進めていくかが問題である。通常のレベルに達していない学生を落第させると大半が落第することになる。結局レベルを下げることになる。上の意見がやるべきことをやっている学生の意見であることを望んでいる。
- ・ 教育よりも研究に重点がおかれていることは否定できないが、少子化と共にいかに学生を引きつけるかが重要な問題となっており、以前よりも格段に講義などに工夫する教官が増えたと思う。
- ・ 一講座に、複数の教授（多い方が良い）。1人あたりの学生数を（教授当たり）2～3人にする。ピラミッド型の講座をやめる。1, 1, 2の様な。ある程度の条件を満たすなら、教授を出来るだけ多くし、講座内での学生も固定しないこと。
- ・ 私の場合、講義はほとんどなく、大学院生に対する実験、研究の指導が全てである。常に5～7人の院生を指導している。我々大学院を教える教官の悩みの80%は、大学院生との人間関係である。
- ・ 教育に使用できる装置、機材がよくなってい

る現在、以前に比べると講義も工夫されていることは確かである。教官と学生の親密度も高くなってきていると考えられるが、情報量やするべき事が多く、時間の経過が早くなっていることから、教官と学生間にある種の希薄さが存在しているように感じられる。優しく熱心に学生の立場に立って教育してほしいということになると思う。

- ・ IIを除くI. ～V. に関して、教官、学生の双方が心を開いて話し合える懇談会のようなものがあれば良いのではないか。
- ・ 全般的にみて“もっと”とか“もう少し”という現実を一応肯定しながら充実感が得られないというのが現実なのであろう、自分の学生時代を顧みると、先生方の講義ぶりを思い出すことはできるのだが、一言で何かを言おうとするとなかなか難しい。これが講義の宿命だとすれば、功利的役割を期待するよりも、道標的役割を重視すべきであろう。しかし毎日毎時間道標を立てられても、また聞き流し状態となろう、これを避けるためには必要修得単位を減らし、成績評価を厳しくするのも一方法であろう。
- ・ I. ～V. 夫々具体的に示させて、face to faceでの議論を通じて相互信頼を確立する必要があるのでしょう。
- ・ いずれも一般論であり過ぎる。
- ・ (調査方法がまずいではありませんか)
- ・ 学生—教官間の断絶を感じます。レポートやメール等でもよいので意見交換のできる場を作る必要があると思います。
- ・ 教師に要望を出すよりダメ教師と思うなら相手にせずに自分で勉強すればよい。手取り足取りしてもらうのは京大生の恥と思うべきであろう。(30年前にそうであったように！)
- ・ 要望があれば、速やかに教官に伝えるべきである。
- ・ 総論としては答えにくい。いずれの要望についても、学生に対しても言えるのではないで

しょうか？

- ・ 学生は生徒ではない。教官は学生を一人の大人として認め、権威ぶって接しないことが学生の力が発揮されやすい出発点となる。また、教官自らが権威に挑む姿勢が自由の気風を作り、それが、学生にも影響する。自由の気風こそが教官にとっても学生にとっても大切である。教官はこのことをもっと自覚すべき。
- ・ 普段、学部学生と接する環境にないので、特に学生がどんな意識を持っているかについて思いをめぐらせたことはないが、上記I. ～V. のような要望を持つ学生が多数なら、京都大学もそう素晴らしい大学とは言えないかもしれません。ただ、私の学生時代はそう講義に出席しなかったもので、そのことからの類推ですが、もしも学生があまりに講義に期待しているようなら、これも京都大学の将来にとってあまりいい傾向ではないように思います。
- ・ マス教育(>30人)と少人数(10人程度)のものとは分けて考えたほうがよい

③ 本学の学生への注文・要望

学生の自主性の欠如、社会的関心の欠如、幼稚性、甘え、専門性への閉じ籠り、エリート意識の欠如、学生の礼儀のなさ、を指摘する教官が多かった。こうした問題への対応を、本学で対応できるものとするより、入試制度を中心とする日本の教育制度の問題として捉え、その改革を求める教官もいた。学生の問題を教官の問題として受け止めるべきとの意見も少なくなかった。

学生の現状への批判をもとにするもの

〈全般〉

- ・ ひとところに比べて素直になってきましたが自主性に乏しいように思えます。自分が何をやりたいのかはっきりとした意見を持てる学生がふえてほしいと思います。
- ・ 一部の優秀な学生を除いて、あまり本も読まず、勉強もせず、はっきりいってあまり内実がないにもかかわらず、結構、権利意識だけは強く、礼儀も何もない、という人が目立つ。
- ・ 全体的に、平均的で、かつての京大生たる感じがなくなっている。大学は、学生に合わせて改革する必要はない。本当に研究を続けたい者が来れば良いのであって、万人皆入学する必要はない。(ヨーロッパ、米のようなシステムがより良いと思う。) 現在のように、ほとんどの学生が卒業していくことは、不自然であり、もっと厳しくしていくと良いと思う。
- ・ 情報の洪水におぼれることなく、自分自身で研究や学生生活を設計し、追求する態度をやしなってほしいと思う。多くの学生が知識については高度化しているが、生活態度、行動パターンがきわめて幼稚化しているという事実を自覚してもらいたい。
- ・ 一 残念ながら「井の中の蛙」的な人が時々見られるので、広い視野で考えてほしい。
 - 一 教師との間に、より率直で気軽な関係を

作るように努力してほしい。教師に対して言いたいことがあったら、仲間うちで悪口を言う前に、疑問などをぶつけてほしい。

- ・ 指示待ち症候群粉碎！
- ・ 才能を浪費しないように、と思います。
- ・ エリートとしての自覚をもってほしい。
- ・ 真面目な学生が多いが、素直すぎるというか積極性に乏しいように思われる。もっと教師に対して自己主張をすべきである。
- ・ 経済卒の学生は、入学時点で明確な進路意識がなく、多くが「サラリーマン」就職をするが、今も進みつつある「就社」型雇用の矛盾をふまえ、いかなる職業につくか、プロフェッショナル志向を希望したい。
- ・ ものを知らなさすぎる。何事も体得してやろうという貪欲さをもって欲しい。
- ・ 良い意味でのプライドに欠ける。
- ・ 自由と自己責任の風潮を鼓舞する方がいいと考える。
- ・ “手を掛ける”には限度があるし、そのことの否定的な面もある。
- ・ もっと社会に関心をもって欲しい。
- ・ 子供っぽい甘えが強くなっているように思う。自立した大人の確立を希望する。
- ・ 以前に比べ、スマートさを重視しすぎるようになった気がする。もっと、泥くさい部分があってもよい。
- ・ 論理性がなくなってきたように思う。
- ・ 大学で学んだり研究したことを、学生なりに社会に還元する任務を自覚してほしい。専門にもとづく社会活動への参加などに積極的になってほしいし、自治活動もしっかりやってほしい。11月祭が模ギ店騒ぎだけにならないよう大学らしい文化の祭典に
- ・ 目的意識、意欲、が本質的に欠けている。
- ・ 高校までの教育レベルが低下していることと

それ故に意識が幼稚化し主体性を失っていることを自覚してほしい。

- ・ 創造性豊かな学生が少なくとも1%ぐらいはいてほしい。
- ・ 大学に入学するまでに精力をつかいはたしているものが多すぎる。
- ・ 現代文明の危機が迫っていることを認識してもらいたい。(本学の学生とは限らないが)
- ・ 1、志を持って
2、教官に対して横柄な態度を示すな
- ・ クラブも何もしていないで無為な時間を過ごしている人が多い様です。人とのコミュニケーションが下手すぎます。患者と対話出来ない。家庭での教育の問題ではないでしょうか。
- ・ 学生の方から、多忙な教官にアプローチしていく気持ちがあれば、もっとコミュニケーションも可能のはずです。
- ・ もっと気軽に教官をつかまえて、接するようにすればよい。
- ・ 自ら、自由に遊び、学ぶ気持ちを忘れずに。学生の積極性を引き出す努力はしているつもりですが、元気のない学生も多いように思います。
- ・ 比較的、秀才と思っていたが、(特に医学部) 常識がないのにはア然とする。それは、やはり医学部が専門学校化しつつあるからである。技術が高度になると学ぶ内容もふえるから仕方がないが、学生にはもっと世の中を知って欲しい
- ・ 一般によく言われる指示待ち人間をたくさん入学させて、今後この大学はどうなるのかきわめて不安である。
- ・ 独創的な発想を育むこと。マニュアルを求めないこと(問題解決において)
- ・ もっと主体性をもってほしい。
- ・ 既成の概念にとらわれないうで、originalityを指向してほしい。
- ・ 難しい入学試験を通過して入って来た学生とはとても思えない学生がかなりいる。
- ・ 権利/義務 責任/主張を理解すべきであろ

う。

- ・ 京大の自由な学風を自身の怠惰に対する免罪符として使っている傾向が強い。
- ・ 学生に対しては単に不満を口にするだけでなく、現状を改善するために教官のもとにもっとぶつかるべきだし、伝える努力を惜しまないで欲しい。
- ・ 礼を知る“しつけ”が大事であることを身に付けること。
- ・ 「自由」をはき違えている人が多い。
- ・ 1、自己中心的であり、無責任であります。
2、礼儀正しくない。これはここ10年くらいの傾向のように思います。
- ・ もっとやる気やガッツのある学生を望みます。
- ・ 落ちこぼれ学生が多い。
- ・ よくも京大に入ってきたと思う学生もいる。
- ・ —1/3ぐらいが大学の高等教育は向いていないのではないかと。
—社会的関心の欠如
—基本的教養の欠如
- ・ あいさつや、うけこたえといった単純なことさえあたり前に出来ない者が増えており、自覚をもってもらいたい。
- ・ 政治、経済など専門を問わず、世界の動向に敏感であり、意見を持ってほしい。
- ・ I. もっと学生としての自覚を持ってほしい
II. もう少し工夫して講義等を受けてほしい
III. 教官を白けた目で見るとような態度はやめてほしい
IV. 日常的な態度を反省してほしい
V. 教官にもっと甘えてほしい
- ・ 自身の権利を主張するのは非常にうまいが、その裏にある「義務」に対してはたいへんおろそかである。刹那的な善し悪しではなく、もっと長期的な展望をもったうえで、諸事にあたってほしい。上記に関することは、何も本学の学生だけに限らず、現在の日本社会全体の風潮であると思っている。

- ・ 学生をもっと大人として接することが大切で、学生も背伸びしても良いから大人として振るまわってほしい。日本や世界のリーディング大学の一つとして、将来の各分野のリーダーになる人達であるのに、そのような自覚が弱い。ヨーロッパ大学の学生達の態度は大人としての自覚、意見を持って行動している。
- ・ 大学は学問の場であることを自覚してほしい。
- ・ 小生の学生の頃に比べて”独り立ち”がやや遅れているように思う。
- ・ 授業に出るだけが重要ではなく、あらゆる機会を用いて自己を高めて欲しい。
- ・ 幼・細・浮 vs 成・太・頑
- ・ Motivation を高めること。Identity を求めること。
- ・ 教官とフランクに接触して欲しい。
- ・ 一部の学生は、卒業がかかっているのになんとか単位をくれといってくるが、そんなこと世の中では通用しないことを自覚してほしい。
- ・ 個性がなくなっていると思います。また集中力がなく発散型の学生が増えています。
- ・ 京都大学の「自由の気風」を「何もしない自由」とはき違えないで欲しい。
- ・ 入学時にはキラキラ輝いている学生たちが、工学部では卒業するころに羊の群れになってしまいがちです。独創と自由の精神を失わないでほしいです。
- ・ 極めて有能な学生は多い。勉学の嫌いな学生は大学へ来なくてよいから、有能な連中の足をひっぱることだけはやめていただきたい。日本の学生はとにかく「ヨウチ」である。
- ・ 意識や意欲が低い。皆同じような考えで多様性がない。
- ・ 目的意識をもって大学に進学してほしい。
- ・ 意識レベルとして、「幼い」学生がけっこう高い頻度で見られる。また卒論、修論等の「研究内容」について、ディスカッションを行ったりする場合、本人の思考内容等、「人格」とはまったく別の事であるにもかかわらず、内容について、批判的意見を受けたとき、幼児のように「ふくれて」しまう、場面がたまにみられる。要するに幼児化が（ちゃんとした学生は当然多い）、相当進んでいる。
- ・ 自分が何をしたいかを考える時間をもってほしい。大学を就職への通過点のように考えてほしくない。
- ・ 群れるな 我慢せよ 鶏口となるも牛後となるなかれ
- ・ 遠慮しないこと（困ったらもっと相談にくること）競争心をもつこと。
- ・ 学生も教官も全て違う人格をもっていることを基礎として学生は教官とつき合ってほしい。
- ・ 受け身の学生が多いように感じられる。自分の将来像を描くことのできない（教育が悪いのか？）学生が多い。
- ・ 勉強がたりない。卒業式の performance は恥ずかしい。人のことを思いやる気持ちがないこと、目立ちたがり（マスコミに対して）がわざわざいしている。
- ・ 国立大学の学生（税金を使っている）ことを自覚してほしい。
- ・ 目先の自分の利益（単位取得や就職）にとらわれずに、大きな視野をもって、大きな目標を定め、そのための努力をして欲しい。友達を作ること、青春を謳歌すること、先生と親しくしたいのなら自分から先生を訪ね門を叩くこと。
- ・ 京都大学は確かに自由な学風である。しかし、自由の中には全て自分の責任という極めて重い意味のあることを自覚したほうが良い。何もせずに時間が過ぎ、何も得られずに卒業したとしても、だれの責任でもない。教官も「自由」なのだ。ここ京都大学は。
- ・ もっと「自ら」にきびしくあれ、と言いたい。
- ・ 優秀で、意欲的な学生もいるが、意欲のない学生も増えており、それらの学生が、他の学生や、教官の意欲に悪影響を及ぼし、足を引っぱ

っている事も多い。

- ・ 情熱をもって授業にクラブにそして学問研究にトライしてほしい。(小生のかかわっている学生にはそうなってほしいということが理解してもらえるようにしています)
- ・ 学生からの接触がない。
- ・ 問題意識をもった学生がもっと増えてほしい。
- ・ 知識は優れているが、人間性において問題が多い。意欲のある人が減少している。
- ・ 油ぎった野心をもってほしい。ド根性と。
- ・ 礼儀に欠けている学生が増えてきている。
- ・ おとなしすぎる傾向がみられます。能動的に自分から何かにチャレンジしていく力を養ってほしいと考えています。
- ・ どうも夢がない様な感じがする。
- ・ 他の学生と同じ行動をすると安心していられるが、ひとりだけ他の行動をするのを躊躇する。“皆で渡れば怖くない”という面が多く見られる。身の安全を守り過ぎる。より自由闊達であること。
- ・ 流行に動きすぎだが、独自の考えを持った学生もいる。教官の視点は昔と同じで、社会の変化に対応できていない。打開するのは学生の自主的な主張が必要であろう。
- ・ 学問を志さぬ者は去れ。
- ・ 何事に対しても受け身であり過ぎる。積極的に行動してほしい。
- ・ もう少し勉強に時間をさいてもいいのではないか？アルバイトが多すぎないか？ほんとうの友人はいるのか？そして大学に進学した理由、目的は何だったのか振り返ったことはあるか？以上質問してみたい。
- ・ 特にありませんが、総じて、年々、個性の豊かな学生さんが減ってきているような気がします。
- ・ 人間としての基本的マナーに欠ける学生がいる。TPOを理解し、その状況に応じたマナーを身につけてほしい。

- ・ 与えられたものに満足せず、自分で工夫を。教官や部局にもっと注文をつけてもよい。高い授業料を払っているのだから。
- ・ 流行や風潮に流されず、自分固有の価値観をもつこと。日本人は国から個人まで全てのレベルでアイデンティを欠如していることを自覚すべし。

教育

- ・ 授業などあてにしないで自分で勉強し、自分の頭で考えてほしい。
- ・ 個人的に接すると優秀で真面目なものが多い。しかし、大教室の講義、全学共通科目では無気力・無作法な者が目立つ。専門の科目とそれ以外の科目のやる気が極端に異なっている。全く通過儀礼的に単位のみを取得する現状の改変が不可欠と思われる。全体的に能動的な講義への取り組みが低下している。学問の水準が高まったためにしかたがない面もあるが、俗に言われる受験勉強の弊害とも思われる。入学後のモラル、モラル双方の低下も同じ原因か？研究者志望者と就職希望者の隔差もしだいに大きくなりつつある。後者のモラルの向上方法を考える必要がある。
- ・ 与えられたものを単に勉強して課題をこなして行くというのではなく、自分から問題意識をもってテーマを見つけだし、問題を解決するという自主性が望まれる。
- ・ 不勉強で単位のとれない学生は講義に出て必死で基礎を勉強すべし。
- ・ 授業によく出席し、自分でも勉強し、講義で分からない点があったら質問をして欲しい。新学期には非常に多くの学生が出席するが2～3回の授業で約半分はいなくなる。そして試験のときには講義にでていない学生が多数受験する。全学共通科目は単位をそろえるためにだけ取っている学生が大半である。しかし専門の授業はこういうことはない。

- ・ 京大では、他大学に比べて受講やテストの受験等について最大限の自由が学生に与えられている。そのため、大部分の学生は授業に関する勉強はしないで、最小限の努力で単位をとることを考えている。少数の学生が自主的な勉強をしていることを否定するつもりはないが、「自由」「自主性」の名の下に、大多数の学生が勉学を放棄している状況は好ましくないと考える。
- ・ 大学入学後1～2回生の間にもっとしっかり勉強してほしいと思います。専門分野に限らぬ広い範囲の学問について、この時期に知識をつけておく努力が大切だと思うのですが、どうもそうでない学生が最近増えてきたと感じております。
- ・ 幅広い学習を求めたい。専門に閉じこもる傾向がある。
- ・ 学問研究に対する純粋な情熱に欠けている。
- ・ 流行のキーワードを用いて、知識量をほこることよりも、自ら思索する態度がもう少しあってもよいと思う。
- ・ 特に大学院レベルでは、全国的な規模での学会、会議にあまり参加せず、先輩・後輩関係の中で得た限られた知識を、学問の体系ととりちがえ、学内にこもりがちである。このままでは、過去の伝統の名のもとに、ひたすらタコソボに入っただけ、といった危険もある。
- ・ 学生たちが自主的に研究会をつくって、自ら学習してゆく工夫を、もっと熱意を持ってなすべきだと思う。
- ・ 古典をじっくり読んでほしい。
- ・ 総じて甘えており、自立心が無い。時代の故か？つき放し、切り捨てることによってのみ、まともな学生が育ってくるはず。学生は、自ら学ぶべきであって、手取り足通りの指導は期待してはならない。
- ・ 問28にも書いたことと関連するが、学生に受動的な態度や安易さが見うけられる。もっと積極性、独自性が欲しい。例えば、ゼミでのレジュメの書き方を質問に来るものがあるが、高校教育と大学教育の違いを学生は理解しているのだろうか？
- ・ 私はかなり永年、本学で教えているが、同時に他大学での教育経験も数多く持っている。その経験からすれば、率直に言って、本学の学生の教育が一番むずかしいように思う。その理由は、むずかしすぎれば、全体の20%ほどしかついてこず、逆に平易に教えれば、あまり勉強しない30%程度の学生しかついてこないで、上位（学習意欲という意味で）の学生は熱心にならない。すなわち、学生の勉強意欲のバラツキの大きさが悩みの種なのである。（残りの50%は全く学習意欲がない）この傾向は、友人同士の交流が、時代とともになくなってきたと思われるため、ますますはなはだしくなっている。ただし、これは経済学部固有の現象であると理解しているが・・・。（私は本学で総人、文、法、経、医、工、の各学部での教育経験があるので、それからの推測である。）したがって、やはり要望としては、下位の学生にもう少し意欲を持ってもらいたい、というものである。
- ・ 自ら学ぼうとする態度に欠ける。
- ・ 向学心が目に見える学生と、単に単位が欲しいだけの学生に二分されており、後者の方々には、意識の改革が必要だと思います。
- ・ 講義の受講の姿勢が非常に受動的に感じます。
- ・ レポートを書かせても他大学の学生に比べてきわめて質の低いものが多い。京大方式なるもののとりまちは多いが非常に多い。安易に学生を高く評価する雰囲気をつくすべきだ。
- ・ 授業に出なくてもよいから、主体的に勉強を！それがだめなら授業の活用を。
- ・ 学問に対してもっと自主的に積極的に取り組んでほしい。受け身の学生が増えてきているように感じる。
- ・ 私は理学部に属していますので理学部の学生に対する注文です。理学部は研究者を養成する

ところと私は考えていますがそのように考えると、自主的に勉強しようという学生の数がだんだん減ってきているようで、気になります。将来自分は何を研究したいか、そのためには現在何を勉強しなければならないかしっかり考えて努力して欲しいと思います。

- ・ 教官側からの質問や注文に、能動的、インタラクティブにレスポンスしていく積極性をもってほしい。授業の学期の終りころには、かなりインタラクティブになってくれるが。
- ・ 講義に来ていきなり寝るな。
- ・ 自己の頭でものごとを考えてほしい。
- ・ もっと勉強してほしい。図書館などを有効利用して。
- ・ 全体的に自分で考えることをしない傾向にある。how toばかりを覚える受験勉強の弊害か。
- ・ なるべく実習、体験を主体とした学生に興味のある教育を行いたい、その基礎的知識となると、講義形式の授業はどうしても必要となる。授業の出席率が悪いのは、教官にも責任があるが、学生のほうもあまえていところがある。医学部の場合、将来社会人となったときに、あまりに基礎的知識が欠けていると問題となる。出席をとるなどのある程度の強制的なものも必要ではないか。
- ・ クラブやバイトで勉強できないときには5年6年と留年して勉強するいさぎよさを持ってほしい。「4年で卒業」に固執するのは見苦しい。この美意識の上にこそ「課外活動」は華開くのだ。
- ・ おそらく偏差値のみで志望先を選んだ人が多いらしく、勉学の意欲のない学生が多い。
- ・ 学生がもっと学問に興味をもって質問や参加してほしい
- ・ 厳しい受験勉強を勝ち抜いてきただけあって、要領はよいが真の意味での学問に対する情熱が乏しい。今後京大で創造的な人材を育成するには受験制度そのものを見直す必要があるのでは

ないだろうか。

- ・ 特にないが、もう少し、積極的に講義を受ける態度が望まれる。
- ・ 1、積極的に教官にアプローチすること。
2、質問が少ない
3、まちがってもよいから自分の意見を述べる訓練が必要
4、自己の考えをすぐにまとめて発表する能力を養うこと
5、英語の学習をおこたらないこと
6、パソコン通信、文献検索は入学時徹底的にマスターすること
7、書物を読む 範囲、量が少ない。
8、1週間に1冊は専門以外の書物を読むこと。
- ・ 語学をもっと勉強させる。
- ・ 今の時間は2度と戻ってこないことを胆に命じて過ごして欲しい。授業をさぼっても、それを上回る有意義な時間を過ごしているという自信があればそれでよいが、そうでなければ授業に出て、積極的態で講義を受け、怠けている教官があれば、厳しい質問を浴びせるぐらいの熱意が欲しい。
- ・ 自覚自習の意欲が足りない学生が多い。現状の限られた講義時間では網羅的な講義はもとより不可能であり、どの分野にもすぐれた教科書が存在するので、そのような教科書をすみからすみまで読んで全体像を把握するように教えることにしている。(講義で学んだ範囲内の知識だけでその分野のことがすべてわかったようになるのは危険であるから)
- ・ 学問をすることの意味を理解していないのでは。
- ・ 学生の半分はよく勉強するが、残りの半分は大学生活をenjoyするのに重点をおいている。Enjoyするのはよいが、それだけではな・・・と思います。
- ・ 京都大学の学生は、自身の実力のわりに、プ

ライドが高すぎる。大学入学後に初めて味わった挫折感を自身の実力不足とは考えず、教官側のせいになっている点が多々ある。今の学生の要望を（社会的圧力に屈して）何でも大学が受け入れていたのでは、大学のレベルはどんどん低下するばかりである。そもそも大学は義務教育でも何でもないのであるから、自身で努力もせずにいる者は卒業できなくて当然である。

- ・ アメリカの学生のように学問に対するどん欲さがほしい。競争意識欠如。
- ・ 大変まじめに出席していて、出欠をとっていないにもかかわらず、よく講義を聞いていると思う。自分の所属する学部学科以外の講義にも（単に点がとりやすいというのではなく）興味をもってほしい。
- ・ 勉学に対する情熱を大事にして欲しい。また、京都大学で教育を受ける権利を得ているが、義務を果たすことも忘れないで欲しい。
- ・ 大学での教育が無意味ではないかと感じることが多い。自分の主張を明確にし、常に何かに向かっていく姿勢を持ってほしい。
- ・ 講義に出るのなら、理解するつもりで聞いて欲しい。聞かないなら講義に出ないで自分で勉強するか友人と麻雀でもしといた方がよい。
- ・ 外国語でも自分の意見を言えるようになることを目指して欲しい。そのためには、言うべきことをもつ必要がある。
- ・ 本学の学生に限らないと思うが、勉強よりも単位取得のみに関心がある学生が多いように思われる。
- ・ 4年一貫教育で学生諸君にゆとりがなくなってしまったのであろうか？過去問しか勉強しない態度が大へん気になっている。教官としては、過去問だけで単位を出すようなことは止めるべきである。
- ・ 少しは考える時間をもって欲しい。
- ・ 学問の場として自由を尊重するためには、学生が勉強する上での時間的・精力的拘束を義務

付けることがある程度必要と考えられます。このことを学生に認識させるために、単位修得に対して（試験合格レベルを）よりきびしくする。2年時終了時点で留年制を設ける。（カンニングの摘発などはどうでもよい）。

- ・ もっと積極的に授業に参加して意見を出すべきである。単位の足りないときだけ元気に単位を要求してくるのはよくない。
- ・ 単位のみをかき集めるようなことはするな
- ・ 全体的に意識・気力が不足している。何ごとにも知的好奇心を持って欲しい。勉強・研究は自分で自発的に楽しみをもってするものである。意識を変えてみる必要がある。
- ・ 単位や点数のためではなく学ぶことを望みたい。
- ・ 自主的・意欲的に学習する姿勢に劣しいので、なんとか学習することの楽しさに触れて欲しいと願っている。
- ・ やはり、「何となく」大学生活を送っているという姿勢が気になります。学問に貪欲なまでの執着性を抱いて欲しい。
- ・ 大学や大学院での学問研究においては与えられることは少なく、自ら気づいて築きあげて行くべきである。学生の自己啓発、学問の追及のための助力を教官が、求められた場合、現状で考えられる限りの最善を尽くすべきだと考える。学生は自分に甘いことが多すぎる（特に日本の学生、京大では日本の中でもとくにその傾向が著しいように思う）。過去の学問業績にすぎすぎ。
- ・ 自主ゼミなどもっと学生間での学習を
- ・ 大学が何をやる場所かという自覚がほしい。もともと興味を持つ気のない人達を相手に教えることは苦痛です。
- ・ 過去2年間全学部の学生を対象に講義を担当した。320名中単位をとったのが6割そのうち最優秀と判断したのが30名程度（これは小生の講義に真面目に対応して呉れた学生）約半分は

- 単位がとれれば良いという感じ。強烈な目的意識をもった学生が少ない。教える方も教えられる方も目的意識が薄いのではないのでしょうか。
- ・ 講義が面白くないと云って欠席する学生の多くは、勉強以外の活動のための言い訳に使っているのではないのでしょうか。講義の途中で質問を受け付けても、あまり質問しないので講義が終わってから、理解の度合いを知るために小レポートを書かせると、3分の1ほどは、ほとんど理解していないことが多いようです。教える側の努力も重要ですが、勉強する気のない学生の取扱についても考えていただきたい。
 - ・ もっともっと批判精神のある学生であって欲しい。学生も教官の教育資質評価の機会があってもよいのではないか。学生は本格的に教育教官を見抜いているような気がする。
 - ・ 自分の考えをはっきりということ。
 - ・ 大学は学校ではないことを認識すること。
 - ・ 専門外も、本を読んで欲しい。エリート意識が欲しい。
 - ・ マスプロ的な（予備校風な）講義に期待せず自分の時間を勉学に使ってほしい。
 - ・ 自主的に学ぶ態度が薄れているように思われる。その点に関係すると思われるが、難しい事項に直面するとすぐにそれを回避しようとする傾向が強い。
 - ・ 真面目に授業に出すぎでは？
 - ・ 自分で学ぶように
 - ・ 知的な好奇心をもって授業に参加すれば、大抵の講義は面白いと思うのだけれど。
 - ・ 授業後の反応は教官におつけよ。面白くないとか工夫がないとかわかりづらいとか communication があれば、教官は修正されていく。
 - ・ 大学院重点化をいうなら、学部生の定員を現在の半分以下に減らすことによって、学生の自覚を促す必要がある。偶然入学できた京大生であるにもかかわらず、学問への意欲が乏しい者が少なくない。
 - ・ 学習意欲を高めて、授業に出ずとも必要な基礎学力を身につけてほしい。
 - ・ ◎No. 13に関わる「意識」を、しっかりと持ってほしいといたくなるような学生も見受けられる。
 - ・ 学問の楽しさを本当に知っている学生の数が減っているのではないか。これは、もちろんカリキュラムとも関係する。必要単位数を減らし、自分のやりたい勉強・クラブ活動をし易くするのが重要ではないか。
 - ・ 講義に対する興味を失っている原因の半分は教官の授業態度、準備不足等にあるが、残り半分は学生の自覚にある。危機感がない。専門学校生のほうがはるかに目的意識がはっきりしていて厳しさをもっている。また、個人主義が先行していて、研究のヤマ場にもかかわらず自分の趣味のために平気で休む傾向が強い。しかもこちらに何の相談もなく突然いなくなることも多々ある。これはモラルの問題か？
 - ・ 本を読んで欲しい。特に自分の専門外の本を。理系の学生はどんどん小説を読みましょう。文系の学生は理数系の解説書を。
 - ・ 合衆国でポストドクをしていた際、テクニシャンの人が「自分は大学の授業でこの教科をとったので、これについてはよく知っている。」というのを聞いてショックを受けた。日本人の学生でこのように言い切れる人はどのくらいいるのだろうか？世界がボーダレスの状況になっていく時に、このような人たちを相手にして行くのだということを自覚してほしい。
 - ・ 卒業時の学力が低下していることが全国的に指摘されている。大学院で研究に従事できるよう十分な学力を身につけてきてほしいが現実には学習すべき内容が多くなり過ぎているためもある。大学院へ進んで更に勉強しようという意欲のある学生が育ってくれることを期待している。
 - ・ 講義中に質問をしてもほとんど反応がなく、

受動的に講義を聴く姿勢の学生が大半である。
もっと主体的に学問にとり組む姿勢がほしい。

- ・ 既成の概念を疑ってかかる姿勢が乏しい。何事も自ら納得いくまで考えてみる姿勢の学生が極めて少なくなっている。
- ・ 記憶には強いが
- ・ 前からその傾向はあったが、共通一次以降二流化して自ら選択するのではなく選択させられてレールに乗って1流でも3流でもないところに安住して勉強もしない。興味をもった学問を自分であれこれ調べたり、教官に質問にいたりして学問を身につけてほしい。まず第1に本を読まなさすぎる。
- ・ 問題意識を持つことが重要。授業はあまり熱心に出ないが、問題意識を持って、書物を読んでいる学生の方が、よい報告をしたり、レポートを書いたりする。
- ・ 学問に対する積極性に乏しい。語学力が不足し、気力が弱っているように見受けられます。外国人を連れて行って話をさせようという試みを一度だけなしましたが、無反応なので驚きました。

＊

- ・ いいかげんな授業、特に大人数での語学授業などについてはもっと真剣に怒るべきである。
- ・ 主体的能動的に学ぶといふ姿勢に缺ける者が多いやうに思われる。講義の際に質問一つ出ないといふのは異常である。
- ・ 独創的、自由な発想をとりもどしてほしい。書物を読んでほしい。文科系の学生には上の要望につきます。理科系、とりわけ工学系の諸君については、まったく判断つきかねます。
- ・ 言われたことしかしない学生が増えているように思える。自分で考え、物事にチャレンジする気持ちももっともって欲しいと思う。今も昔も学生の能力にそれ程、違いがあるようには思えないが、何が原因であるのだろうか？学生に興味をもたせるように教官がある程度、働きかけをしたほうが良いと考える。

- ・ 10%も出席しない学生に云う言葉はない。
- ・ 自主的に勉強する態度を身につける。
- ・ 昔に比べ現在の学生の方は授業に精勤するようになっている。ただし、これは授業に対する熱意というより単位確保に対する熱意によるように思われるのはさびしい。カリキュラムが非常にタイトなものとなっており、また研究室配属も成績優先で決まるなど、大学のシステム自体がせちがらいものとなってきている。学力の向上をはかるとともに、余裕をもって何かに燃える大学生活を送ってもらえる方策はないものだろうか。
- ・ 基礎学力を身に付けること。
- ・ 学生時代にもっと本を読んで欲しい。受験勉強だけで頭の中がカラッポな学生が多くなった。
- ・ 目的意識をもって主体的に学習・研究に取り組んで欲しい。
- ・ 受験教育の延長上に学問研究をとらえている学生が大部分である。以前からそのような学生はいたが少数であった。
- ・ 様々な学問分野に積極的に取り組むべし。
 - ※国語力のない学生が多い。
 - ※表現力に乏しい。
 - ※理系といえども語学力を重視すべきと思う。
 - ※一般教養に乏しい。
 - ※“たこつぼ”型の職人を育成すべきではない。
- ・ 全学共通科目を教えていて、講義が始まる前から机につっおして寝ている学生が多くいる。講義が面白くないとか言う以前の問題として、「学ぶ」という態度がなっていない。大学生という自覚もない。何の為に大学へ来ているのか不思議に思う。
- ・ 研究室に於いては、大学院の学生しか指導していないが、昔と比べると、やはり何の為に進学したのか？と疑いたくなる学生が多い。とりわけ京大からそのまま進学した学生にその傾向が強い。他大学からの進学者は概ねまじめであ

る。

- ・ 自分の浅い知識で全てを判断せず、経験豊かな先輩（教官）のアドバイスを十分に受け入れるようにして欲しい。
- ・ 自主的に「学ぶ」姿勢が薄れているのは昨今の世の中全体の風潮であるかもしれないが、手とり足とり大学生、大学院生を教えなくてはいけないというのは少し寂しい気がする。やはり学生の方の「学ぶ」ことへの動機がしっかりなされていないと「教育技術」の側面ばかり議論しても無駄なような気がする。大学にはいる前に自分は何になりたいか、何を勉強したいのかという命題についてしっかりと「悩んで」欲しい。
- ・ 教官にもそれなりに非はあろうが、本当にそれを問題にするのであれば学生の方ももっと積極的に教官に対して質問をしたり、議論をふっかけるべきである。それに応えずに、頭からそれを封じるような教官がいたら、それこそ問題にすべきであろう。むしろ良識ある教官はそれなりに反省し、教育法をさらに工夫するようになるであろう。要は教官の側にも学生の側にも、その気がなければ問題は改善されないであろう。
- ・ 大学院に進学する学生について、とにかく入学試験に合格すればよい、という気持ちでなく、大学院で研究活動を開始できる準備が必要であり、それが整ったら入試は問題ない、という認識を持っていただきたい。
- ・ 授業のマナーについて、他大学のように私語をする人はいないが、遅刻、途中退席は日常である。それを当然のように思っている学生が多いのに驚く。授業では出席をとってない。
- ・ 自らの希望や気持ちを表現することで積極的に何ごとにも取り組む態度の重要性を自覚してほしい。与えられることに慣れているためか、教官側がよほど努力をしないと「乗って」こないことが多くあると感じる。
- ・ もっと積極的に授業に参加してもらいたい。

- ・ 大学院生を相手にしていますが、やはり自己主張、自分の考え、疑問の持ち方など、外国人に比べてハッキリしないと思います。小、中、高等学校での教育、社会全体の習慣の違いもありますし、物事には良い面悪い面両方ありますが、積極性、自己の独自性というか自分の考え方、を持った学生になってほしいとつねづね考えています。
- ・ 本学の学生は平均的には優秀と思う。ただ、全国的な傾向かもしれないが、無駄を嫌うのが気にかかる。無駄かどうかもしらずに動かぬ学生諸君をみると空しくなる。
- ・ 講義中、うしろの方でべちゃくちゃしゃべっている学生をみると、京大生よお前もかと言いたい。レポートを書かせると橋にも棒にもかからない代物、なぜそんなに単位だけ欲しいのか理解しかねる。（以上、全学共通講義での印象から）
- ・ 京大の学生である事で満足してはいけない。人のやらない事、むずかしい領域に立ち向かっていく気概がほしい。
- ・ 試験（追、再試を含む）を必ず受けて欲しい。何度も追、再試をしてもらえんと思われてはこまります。
- ・ 大学院をM1からD3まで育て上げるために一緒に実験研究をやっています。30年近く自分としては全く同じ態度で、学生に接しています。年月が過ぎるにつれ、学生の基本的な研究意欲の持ち方が、自分とずれてきているのが実感出来ます。最近の学生程、早く結果を得ることを望み、失敗を次に生かそうとする態度が欠けています。これは、幼児時代からの生活態度、以後の教育のゆがみがあらわれているのだと思います。京都大学の学生にその傾向が強いのは悲しいことです。
- ・ 非常におとなしい。反応が少ない。与えられることに慣れすぎている感じがする。もっと自分から知識を求める意欲がほしい。

- ・ 以前に比べて、自主的に研究を深めていく態度に欠けるように思われる。
- ・ 色々問題ありとされる中で、“これは”と思わせる存在もあることを心強く思っている。一方、自由、自主性と逃避を混同している、あるいはすりかえようとしている者も少なくないように思う。授業一つをとっても、*の中には、苦く、むつかしいものもあるが、これなくして山に登れないことも理解すべきだろう。また一回の講義の中においても導入部そして中心となるべきもの、さ程重要でなくても全体を見る上で加えているものなど構造を意識しつつ授業を構成している。授業をするサイドからは遅れてきたときにはその意図は十分伝わらないだろうと思いつづけている。そういう学生が(28)のような意見を出している訳ではないと思うが。
- ・ 勉学への自主性に乏しく、学力も全般的に低下している。大変心配な状況である。京大はいくら“自由”だといっても、将来こういうことをやりたければこれだけの学科目は少なくとも(苦労してでも)勉強しておきなさいという core subject のきめこまかい履修パンフレットと相談窓口をつくる必要がある。

〈その他〉

- ・ 研究妨害となる騒音をまきちらさないで欲しい。
- ・ もう少しスットンキョウになってほしい。
- ・ 学生は教官に対して、もっと礼儀をわきまえるべきである。
- ・ 親しみやすく〇〇さんというのはよくもあり悪くもある。社会人では学生はないのだから、やはり〇〇先生という習慣をつけるべきだろう。社会的にもそのほうがスムーズだろう。
- ・ ただでも汚い校舎などに汚いはり紙などするな。タバコの吸い殻捨てるな。
- ・ 教官を、推セン状の自動販売機と思わないで下さい。
- ・ 自分の興味ある学部・学科へ入ること
- ・ 1、2年生の段階で、入学した専攻がきらい(例えば化学はきらい)と気づく人がたくさんいるようですが、そのときはまじめにとりくんで、転部なり退学なりしてほしいと思います。きらいなままでさらに大学院へまで進んでうつうつとしている学生が実に多い。(上記のとり組みを助けるしくみも考えるべきだと思います。)好きでやっている学生はよくやっていると思います。

学生へのアドバイス等

〈全般〉

- ・ 目先の損得にとらわれることなく長期的視野をもち当面の苦労には耐えること。
- ・ 学生には大学を卒業・就職までの腰かけと考えている者から学問で身を立てようとしている者まで様々ある。その考え方に優劣はないし、平等に接したいと思っているが、学習意欲の有る者や専門を共有する学生との対話に偏るのはやむを得ないと理解して欲しいものだ。
- ・ 入学時の初心を忘れず、がんばるべきとき(定期試験時のことではない)には大いにがんばって下さい。
- ・ 人と同じことをするのではなく、人のやらないことを開拓する気概を持つこと。
- ・ 社会問題にも関心を持ち互いに議論すること。
- ・ 若い中に出来るだけ無駄なこともやること。
- ・ 何かに打ち込んでがんばって下さい。
- ・ 受験勉強当時の物事に対する意欲を持続けて欲しい。
- ・ 自主独立の精神
- ・ 自由には責任が伴うこと、自立心を強めること
- ・ 自己の判断力を養うことを目的に学習し、また、日常生活を営んで欲しい。
- ・ 素晴らしい才能に恵まれた人達だと思います。既製の枠にとらわれず知的好奇心を開放してい

ってほしいと思います。

- ・ 「何が大切か」を自覚して行動して欲しい。
- ・ 以前と比較して平均化してきた印象を受ける。
- ・ 特になし！自分の思う通りにやれば良い。
- ・ 大学に対する積極的なアプローチを期待したい。
- ・ 自由を自覚し、大切にし、守り、生きること。
- ・ 今まさに進捗しつつある社会の変化―特にブランドの崩壊と実力主義の台頭―をしっかりと見すえ、今自分が将来の為になすべきことをよく考えてほしい。
- ・ 積極的に注文や要望を表明して欲しい。ただし、ある程度現実を見据えて、柔軟な姿勢で臨んで欲しい。
- ・ 学生間の実質的交流⇒将来につながる。
- ・ 1、2回生の間に1回は“同人雑誌”をつくることを勧める。また理系の学生は文系の教科、文系は理系の教科を学ぶことが重要と思う。
(総合大学の利点を大いに活用)
- ・ 学外実習のシステムを大いに活用し、OBとの交流を行う。
- ・ 総じて、しっかりした人が多いと感じています。自分が本当にやりたかったことを見失わず、学生生活を送ってほしい。
- ・ のびのびと大きく育て下さい。(人柄と積極性！)
- ・ 人生を前向きに、積極的に生きて欲しい。
- ・ 京大の学生は、教官がよくても悪くても、京大の学生であるという自覚が大切だと思います。
- ・ 自分で好奇心をもってとりくんでいく姿勢。
- ・ 3回生までに目的意識を持ち高める努力をしてほしい。
- ・ 教官も昔は学生だった。学生のなれの果てが教官だ、と考えてほしい。
- ・ 少なくとも30年前に比べて自由に伸び伸びとした雰囲気の中にある。うらやましいという気もするが、それでも青春は悩ましいものである。20才代にいかにか人生を決定

する最大のものであることを、遅くとも大学卒業までに自覚すべきだし、それを可能とする教育でなければならないだろう。

- ・ 自分自身を開拓する力をもってほしい。
- ・ 冒険心、情熱を旺盛にして、新しいものにンドンチャレンジして欲しい。
- ・ 人生を互いに語り合える複数の友人をもつこと。
- ・ 海外留学に対しての関心を高めてほしい。
- ・ 権威に向かっていてほしい。反骨精神を大学生生活の期間にしっかりとやしなってもらいたい。
- ・ 研究至上主義のあり方への批判的視座を。
- ・ 人生でこれほど恵まれた時代はないと思う。
早い時期に、
 - (1) 基本的なものの考え方を身につけておくこと。
 - (2) 人間の基本性格を分析し、社会通念の基準を選んでおくこと。
 - (3) 幅広く好奇心を持ち、視野を広げ客観的視点を持つ努力をすることで、世の流れの方向を考えておく。
 - (4) 専門分野において自己実現を図る。師と仰げる教官から frontier を教示してもらい、必要な要素分析法を学び、深化拡充を図り、自信を持って競争にも立ち向かう勇気を養う。

〈教育〉

- ・ 大学は自ら学ぶ場所である。耳学問（講義）も大切であるが、それ以上に、書物を読み考える事の方が大切である。
- ・ 非常に大きな可能性をもった学生諸君が大勢いるので、「大学教育」などに依存するような小さな人間にはならないように、と願う。
- ・ 創造性を拓く教育に共に協力していただきたい。
- ・ “真理の追求”、“学問の発展”などに意欲を持って欲しい。

- ・ 画一化、均一化することだけは望まない。種々の人間がいることによって、みんなが考えもしない良いこと（悪いこともあろうが）が生まれる。これを許容する度量を京都大学が持ち続けることが重要で、学生は自由にそれぞれの道を勉学すべきである。
- ・ 大学は、半ば学生を放任することによって、自主的かつ多様な勉強をする機会を与えるという一面もあります。学生諸君には、このことの意味を見失わず、有意義な学生生活を送ってほしい。
- ・ ◎大学教育や大学の生活は、今まで高校で習った、又、新聞、テレビ等で得た、知識や意識で一杯になった頭を一度“洗たく”して、再度自分自身と社会を見直す場である。そのことを心に銘じて、積極的に教官（専門外を含む）に接触して欲しい。
- ・ 高校までの教育で得た知識をもう一度捨てて、学問とは何かを知り、学問することを学ぶこと。
- ・ 大学での講義にそれほど期待せずに、しっかりといい本を読んでください。その上で、本学にいる教官にこれはというのがいれば、直接、門をたたくくらいの積極性をみせてほしい。
- ・ 時代の流れを読むための勉強をしてほしい。
- ・ 「京大の自由な学風」と称して教育・指導がおろそかになっていることもあるのではないかと自分も含めて反省している。学生諸君は「自由な学風」をとり違えることなく、教師をあてにせず勉勵努力して頂きたい。

学生の実状への肯定

- ・ 私は私が開講している全学開講科目に参加する（立席が多い）学生たちからも、また本学部の講義からもまた前節に言した学生たちからも本学の学生はまだ意欲を失って居らず将来を託すことが出来る有能な人たちが多いと思っています。
- ・ さすが京大生の理解力はすぐれている。この

ような学生を相手にすればよい状況はめぐまれていると思っている。

- ・ 1ヵ月に30分でもちょっとした時間がとれて会って話をするとても伸びる人がいると感じる。1を聞いて100を知る学生が多くいる。
- ・ 私の研究室には1、2年生のときから何人かの理系学部の学生が自発的に出入りし、私達の研究を手伝ってくれている。中には4年生になって私のところで卒論研究を継続し、学術雑誌、学会などで発表している者もいる。彼らを見ている限り、熱心で、やる気旺盛。さすが京大生という気がする。要するに教官は1、2回生の授業で、大学生活に対する自分の考え方を述べたり、研究の面白さを説き、学生が自発的に行動すれば目的を持った学生らしい知的な大学生活ができるということを理解させることである。
- ・ 私の専門分野では、英文の優れた教科書がいくつも出されています。それらを原書で読みこなすことができる学生が増えてきていると思います。
- ・ 大学院生としか接触はないが、彼らはよくやっていると思う。

学生への要望以外

- ・ 学生および教官の意識改革が必要であり、学生にだけ要望しても意味がないと思う。現在のそのような学生を入学させ卒業させているのはひとえに教官と大学の責任である。大学に入ることだけを目指してきた学生に、新しい目標を大学が作ってあげねばならないというのが現状であり、それに対して大学は余りに無自覚であると思う。
- ・ 「本学の学生」と一概に言えるほど本学の学生は一樣ではない。個別的視点を持つべきだろう。
- ・ 「本学の学生」全体について何かを言えるほどの理解がありません。結局、教育とは育児のようなものですね。どっちもむづかしい！

- ・ 特になし（学生に注文や要望を出しても意味がない。それで彼等が変わることもないはずである。）
- ・ 特にない。こんなもんかと思っている。
- ・ 教官に等しい学生である。教官の側の改善を心がけてゆくのが第一。ただし学生の特徴をみぬいて、柔軟に対応してゆけば、学生側が教官ののぞむ方向に変わってゆく現象が起こってくる。
- ・ 学生に対する注文はいくらでもあるが、それを言ったところでどうなるものでもないと考えている。特にやる気のない学生に対し、やる気を起こさせるなど至難のわざであろう。大学の教師がそこまでやらねばならないとは正直言って思えない。
- ・ 専門学校化してかわいそうだと思う。がんじがらめのカリキュラムに対して、学生から異議申し立てがないのは不思議だ。
- ・ 学生のやる気は充分あるが、教官数が少ないためにずさんな講義となっている根本的に本で済むものと実習、人対人を要するものを区別して教育する方針をたてたい
- ・ やはり入試の方法をかえなければだめ！学生の質は医学部に限ってもかなり悪い
- ・ 学生の数、特に大学院生が増え、レベルが下がってしまった。本来の京大生と呼べる学生でないものを相手にするわけだから、こちらも、私学につとめている気でいなければならない。
- ・ 問27～問29をまとめて 現在の学生は受験産業の中で与えられたものについてのみ考える習慣がついている。講義のみならず、プリントや板書の内容に至るまで質の高い者を選ぶ目を持っている。受験産業による受験勉強の進化に比して大学での教育のあり方は旧然としていて危機感を持たない。現在の学生にも最初はいくらの習慣をうまく利用することで自主性や学問に対する尊厳の念を学ばせることは可能であるし、

実行していくべきだと思う。

- ・ 学生数が多すぎると特に基礎学力の平均レベルが下がる。大学院の学部化→学問・研究を志向する学生の減少
- ・ 大学改革と称して、くだらない改組を行った結果、教官はやたらと多忙になり、学生は訳の分からない選択肢が増えて、混乱の度合だけが増えている。さらにポストの増設により、本来京大の教官としての業績も資質もないものが多数入りこんでしまっている。さらに大学院の拡充とかで、何の目的意識ももたないものが、多数京大の院生となっている。本学は崩れつつあるとしか思えない。

さらにこのことは長い目で見た場合、本学教官が出版するであろう論文の質の低下につながるのではないかと？現在の日本の教育は全く混乱していて危機的である。

- 1、全世界的な大競争時代に突入しているので、tough な competition に耐え得る（精神的、学問的）人材の養成が必要である。
 - 2、にもかかわらず、容器（ポスト）を大きくするのみで、これに対処しようとしている。もともと無能なものは無能である。
 - 3、他方、世の中はこの competition を否定する mood が余りにも強い。
 - 4、さらに問題なのは、基礎的学力に欠ける人間が、多数政府機関（研究所）に入りこんでしまっている。
 - 5、技術的な教育方法改善で、このような事態は改善できないと思う。
- ・ 幼稚な学生が増えている。入試制度を根本的に変えなければ教育はよくなる。定員の3倍ぐらい入学させて卒業を難しくして大学を勉強する場所にしなければならない。学生に何をいってももはや手おくれである。社会全体で教育をするシステムづくりが必要。
 - ・ 注文をつけてもはじまらない。そのような学生であることをうけ入れて、それをどのように

教育していくかが各教官に課せられた問題であるから。

- ・ 本学 specific にはなし。昔とは大部かわりましたが。
- ・ 単位をとって卒業し、条件の良いところへ就職していくためのステップとして大学を位置づけている学生が多くなってきたように思われる。また、自ら何かをするというのではなく、与えられたことをこなすという態度が顕著になってきた。これは、小さいときからの受験教育によると考えられるが、大学へ入学した際、目的意識をもたせるような工夫が必要であろう。
- ・ 学部教育はシステムの問題を抱えており、ほとんど機能していない。この点を根本的に改善した上で、無気力な学生に対して適切な助言を与え、退学勧告を含む措置を講ずるべきである。
- ・ 講義の仕方を工夫すると、学生の目は輝いてくる。仕方、というよりも内容。しかし、それを持続させるのは難しい。
- ・ 卒業研究がはじまったり、又修士論文の頃（M2）になると、確かに優秀性を発揮できる学生が多い。自己向上に目をむけさせるのが教官、教育からみた課題と思う。
- ・ 4 回生の中には、大学に入学したあと、(勉強に関して) 燃えつきてしまっていて、「何を勉強したいかわからない。何も勉強する意欲が出てこない」という学生がけっこういる。こういう学生のうち何割かは、1、2 回生のときに、教官がもう少し親密に指導すれば救えるかな、という気もする（過保護だという考え方もあるが）。ただ、教官側の負担増につながるので、実現はむずかしいかもしれない。
- ・ 学生の意見を聞くのも大いに結構であるが、例えば、講義にずっと出た上での意見なのか、どうかがよくわからないままに数字を sum up し、意見を羅列するような調査であればやらない方がましである。学生の意見と彼らの日常態度との相関を取るべし。真剣に臨んでいる教官

側が、いい加減な意見に振りまわされないように留意するべきである。

- ・ もう入学してしまった学生に注文とか要望は何もありません（力を尽くして教育するのみです）。最近の学生はあまり考えなくなったようですので、入学試験としては思考力を見るようなものを重視するとか、入学定員をある程度増やして真に勉強する学生が卒業できるように制度を改めて行くべきと思います。
- ・ 学生に対して注文、要望は山ほどありますが、彼らは聞きません。それほど初等、中等教育に問題があります。これは無駄というものです。
- ・ ◎是非センターは京大の大学教育のみならず、それまでの歪んだ蓄積についても調査研究してあれば、全国へ、政府に注文するような研究をして下さい。京大の問題としてワイ小化せずに、我国の将来について考えて下さい。
- ・ 優秀な人材が入学しているのですから、教官が熱意をもって教育すべきと思います。教官が注文をつけられるべきと思います。
- ・ 大学教育の空洞化—特に 1、2 回生の全学共通科目—の進行を止める方法は、学生の評価を導入する以外にないのでは？
- ・ 大学院重点化で学部教育はより専門化、細分化していく可能性がある。大学教育の 4 年間のイメージが弱くなっているため、学生の identity は危機にさらされている。→つまり大学「教育」の解体を進めている。
- ・ 理系としては、必須の基礎科目がある筈であり、それをカリキュラムの柔軟さのために、あいまいにすることはできない。単位の認定の基準も一般に甘いので、「学生の弱さ」に迎合する結果になっているのではないか？昔のように 2 回生で留年することがあってもよいと思う。
- ・ カリキュラムのメニューの多様化は必要なこととはいえ、自由度がなくなりつつあるのではないか。主体的に考え、思考し、行動することをもっと重視したい。（京大の東大化が危惧さ

れる。)

- ・ 質的（意識）な混在が、教育のしにくさにつながっている。
- ・ 学生よりも教官側に多くの問題があるのではないだろうか
- ・ ① 大学は就職探しの場所ではない。まず、就職運動は卒業後に行い（4～8月）、9月入社のための社会的風潮を作るよう、京大はオピニオンリーダーであって良い。他の国では（韓国を含め）そうしている。これは教育現場を乱さないために必須のこと。
- ・ ② 卒論分属の学生がそのまま講座の院生になることは止めて欲しい。学生にとっても教官にとってもこれをやると痛手となるが、長期的教育成果は大きい。
- ・ ③ まず、学生にも教官にも痛みと真剣さが要求される。私は専攻内事前教育体制を是非、今、やらないといけなと・・・あせる気持ちである。
↓
議論やアンケートの前に具体的な作業が必要になっている。
- ・ 学部・学科の選択を誤っていると思われるケースが増えているという印象を持っている。大学入試は模擬試験ではない、人生の重要な選択の一つであるという認識を持ち、もっと情報を集め、決断すべきである。この点については大学側ももっと情報発信すべきかもしれない。
- ・ 京大の学生はピンからキリまでであると云われています。キリをまともに育てる？切り捨てる？困難なことです。何か統一的な見解を示してほしいと思います。
- ・ 農学部では改組により、まともな教育ができなくなっているコース・分野がある。再改組が必要。
- ・ 学生自身に言ってもどうにもならない。今の学生の性格の大半は親の責任であるといえよう。また、今の学生が親になった時に、マトモな子

供を育てられるか、といったら、これまた甚だ心もとない。かといって、そんな一般常識や倫理や社会観、または世界観などは20歳にもなった「子供」に「大学で」教えてもどうなるものでもない。つまり、小、中学校の責任がきちんと果たされていないから、こうなる。すべては文部省の責任か、今にもっともっとひどい状態になるであろう。

- ・ 大人になる迄の時間が長くなっている。受験時、入・卒業に親がついてくる変な世の中になってるのでそろそろ京大にもPTAを作ったかどうか。
- ・ 優秀な学生と劣等生の差が大きすぎる。劣等生は排除すべきである。
- ・ トップテンにする連中は放っておいて問題がない。続く1/3の学生も（これだけ沢山の授業が用意されているのだから、そのどれかにあたって、それに啓発されて伸び得る）問題はないと思います。残りは仕方ないかも知れない。殊に理学部など必修科目が指定されていないところが多いと、学生は単位のとり易い「全学共通講義」というので単位を揃える傾向があり、問題となり得るかもしれない。
- ・ ◎彼等の情熱をがっちり受けとめられる教育、改革制度を早急に確保すべき。
- ・ 種々の奨学金を取得しながら（例えば学術振興会の特別研究員）、アルバイトもする学生が増えています。住宅事情の悪化が原因か、それとも交際費に消えるのかわかりません。宇治地区にも、学生寮ができないでしょうか。西欧のように研究に没頭する学生が増える様な気がします。
- ・ 特になし。個人差が大きくなりつつある（まともな者と凡そ本学学生として不適格な者）は感じられる。しかしこれも20歳になってとやかく言うべきこととそれ以前に家庭を含めた少年期の結果でいかんともしがたい部分があり、大学だけでは解決できないと考えている。

- ・ 良くも悪くも、現在の学生は、現実の社会の雰囲気を反映したものです。その現在は、我々が、築き上げて来たものです。この中で、何を次の世代に伝えるかを考えなければならないと思います。特に、私は、少数意見に対する受け止め方を考えたいと思っています。
- ・ 優秀ではあるが、学問をやりたいという熱い情熱に燃えた学生に出会うことが少ない。情熱を高いレベルにまで引き上げることは現状の大学の授業だけでは不可能である。このような学生は、全教科にまんべんなく良い得点が取れない（？）こともあり、小、中学校時代の早い時期に受験競争から脱落しているのかもしれない。そうだとすると問題の根は深いものがある。

④ 本調査への意見

厳しい意見、暖かい励ましの言葉等たくさんいただいた。

調査の手法については、文科系学生と理科系学生の違い、学部1-2回生と学部3-4回生及び大学院学生の違いを本調査が考慮していないことに対しての指摘を多くいただいた。

この中でも多くの教官が指摘されているとおり、この調査を調査だけに終わらせてはならないことは明らかであり、何らかの形で実践に生かしていく方向を考えたい。

本調査の具体的手法へのアドバイス

- ・ 結果の集計を楽しみにして居ります。問11~14については学生によって異なる面があり、研究者志望とそれ以外で異なったり、個人による相違もあり単純に回答できません。
- ・ 「学生」というカテゴリーには問題がある。具体的には総合人間学部の場合、学部学生と、全学共通科目の他学部の学生とがいる。明らかに専門を学ぶ学生と、そうでない学生との間には学習意欲の差がめだつ。
- ・ 問い7で、全学共通科目の区分がないのはどうしてですか？一般教育はどうなったのですか？
- ・ 1、回答にあたって、授業の進め方について色々考えさせられましたが、4月当初に行うことにしたのは授業改善への無言の圧力を含むものと受け取りました。気分はよくありません。
- ・ 2、アンケート用紙ですから、もっと粗悪なものを使用して欲しい。
- ・ 調査から画一的結論を出さぬようお願いしたい。
- ・ 答えていてあんまり面白くなかったのは、こちらの問題意識不足なのでしょうか？おやと思わせる設問も時には出して下さい。
- ・ 目的がはっきり分らない。意識を調べるのが目的としても、それは何の解決にもならない。制度疲労をおこした組織の中で、できることは限られている。たとえば28の学生の意見についても、ただこういう意見があったと紹介しているだけで、こういう制度疲労の部分を理解していないための無理解の存在など、考慮に入っていない。学生に対するものでも教員に対するものでも、調査する際には、こういう制度上の問題点や学生、教員の現状を、先に調査して、その上で意識調査をすべきだと思う。
- ・ 小、中学校や高校とは違い、大学では専門分野によって教育現場の問題点は大きく異なるのではないかな？アンケート調査のような形で、その個別の問題点を一般化してよいのか？
- ・ 回答しにくい質問が多く、充分質問が練れているとは思えない。京大の教育の現状に関するもっと直接的な意見の陳述を引き出すアンケートがなされるべきだと考える。
- ・ 各設問が何を目標として設定されているのか、アンケートのデータはどのように処理される予定であるのか、可能な限り説明した文書を添えて調査票を届けていただくと幸いです。
- ・ 問い20が回答しにくい。(いずれも重要)
- ・ 調査結果が楽しみです。
- ・ 質問項目をより精練され、教官の本音がよりよくくみとれる調査を今後も発展させていくよう期待します。
- ・ 学部学生と、大学院生とでは、おのずから教官の対応は異なってくる。回答にあたって、いずれを念頭におけばよいのか、迷った項目が少なくなかった。貴センターの活躍を心より期待している。教官の意識の向上が重要だと思われるが、その意味において、本調査はある程度有効だと思われる。調査項目は、もっと具体的で、シビアなものを多くとり入れてもよかったよう

に思われる。

- ・ アンケート結果をインパクトのあるように活用していただきたい。
- ・ この種の調査は文科系、理科系をとりまぜて行われるケースが多いように思われる。しかし、学問分野によって研究、教育形態も異なるので、別個に調査、分析する必要がある。
- ・ 回答しにくい設問が多かった。その理由は、
1、ある学件を設定しなければ回答できない。
2、言葉（例「理解」）の意味内容が不明確なケースがあった等です。
- ・ 項目が多すぎる。
- ・ 設問7「コマ」の定義があいまい。半年コウギは1コマ、通年コウギは2コマと計算した。セミナーも同様に算入した。
- ・ ねらいがわかりません。
- ・ 学部学生と院生の教育について分けて質問して欲しい。もし、調査が学部学生を対象としているのであれば、院生についても考えて欲しい。
- ・ 主旨がよくわからない。
- ・ 今後も、詳細な分析をお願いします。
- ・ 問27、28を見て頂きたい。こんなアンケートを統計処理して何を見るのであろうか。
- ・ 目的がよくわからない。
- ・ 本学教官の実態にあまり則していない調査のように感じる。
- ・ 「過去のすぐれた本学卒業生が、どのような教育を受けたか」等の視点がほしい。
- ・ 本学には優れた多様な資質をもった学生がいるとの視点が、12の質問には感じられない。
- ・ このアンケートが、「本学における教育の在り方を少しでも良いものにしていくため」役に立つ理由を説明して、報告をまとめていただきたいと思います。
- ・ 意図がよくわからない。
- ・ 赤字でコメントしたとおり、質問が十分に練られていない。回答者はいわゆる無記名アンケートを好まない。回答には責任を持つべきな

ので記名する。

- ・ 何を調査したいのか、その意図と目的をもっとしっかり書くべきではないでしょうか。記入を終わっても「一体何を調査したかったのか」という点はわかりませんでした。最近この種のアンケートが良く回ってきますが、それぞれ皆様お忙しいのですから、最低限調査の目的をしっかりと書くことが（そして質問も明確にする事が）礼儀でもあると思います。
- ・ 特に意見はありません。
- ・ 小さいことですが、質問Ⅰの4～6は区分ではなく、ずばり数字で回答の方が正確ではないかと存じます。区分そのものに何かしらの概念（思い込み）が入っているようですから。
- ・ 質問Ⅱ8は難しい。一休さんが「父と母とどちらが大事」と質問されたような感じ。答えようがない。場面場面で変わりますし。
- ・ アンケートによって集計された数字を統計処理され、発表されるときは、個々の意見が殺されぬよう願います。例えば「教官の半数以上は学生の基礎学力が落ちていると思っている」という結果がでた場合でも発表しないで下さい。
- ・ 集計結果をぜひ知りたい。
- ・ このような調査は大層好ましいと思います。マトメて報告をするだけに止まらず、何かのアクションに結びついてほしいと願います。
- ・ 選択肢にぴったりのものがない問いがあった。
- ・ アンケートをみて、何か画一的な technology を作ろうとしているように思える。分野も多様だし学生も多様であるし、勿論教官も。いろいろな授業や教育の目的があるのだから、教養程度、学部程度、院程度などと区別し、また創造性育成、専門知識の付与など分けること！
school と呼ばれる領域は practical な方法が良いのは当然ですが。
school；法、医、工、経、教、(?) など。
- ・ 学生とは学部か大学院か、わかるように質問をつくるべきだった。

- ・ 各研究科によって非常に状況が異なると思います。特に臨床にたずさわっているものにとって24時間患者さんに拘束されています。それに対する評価がわかる調査を今後していただきたい。このままでは身体が壊れます。授業ではなくて研究室での指導に大部分の時間がさかれます。
- ・ 学部学生と大学院学生では大きく異なるのでこの調査に答えにくい。
- ・ ホームページへ回答を出すようにすれば紙も労力も節約できるであろう。
- ・ Q. 7でコマの意味（定義）が不明
- ・ 学部によって内容が極めて異なるし特に医学部は診察が入るので総括的な質問には答えにくい。少し工夫されたい。
- ・ 問7、週何コマということでしょうか？医学部では講義の日付が決まっているので1人あたりの講義数は少ないです。
- ・ “教育”と“研究”さらに、種々の“雑用”など、それぞれ大切なことではあるので、職務の中の教育と他の業務との関連も十分考慮に入れた活動を望む。
- ・ 調査結果の feed back をしてほしい。
- ・ ① 何らかの形で各教官に調査結果を知らせること
② どのような対応が望まれているか、これをふまえて案を作成
- ・ 学部を画一的に扱うのはギモン。
- ・ 仕事のほとんどが、大学病院の業務と医局の仕事です。我々の現状は、このアンケートの意図する内容とあまりにかけはなれているので、十分に答えられませんでした。
- ・ 医学部の臨床系教官にとって、学生実習などについてやす時間が多く、また、研究、教育だけではなく診療に関する仕事に多くの時間をさいており、質問7、8など、他学部と異なる。
- ・ 前にも述べたが、医学部臨床系教官に関する項目も入れ、我々の3本～4本をどのように組み合わせるかも検討して欲しい（教育、研究、診察+社会的活動）学生の教育と苦しんでいる患者とどちらを優先するかとなると患者を優先せざるを得ない。
- ・ 研究と教育についての考え方を示して欲しい。ただのアンケートは全く無意味。
- ・ 結果を集計して公開してほしい。
- ・ #8の問いで「研究」と「教育」を分けているが、化学の研究と教育とは不可分であると考えています。即ち、教官が先頭に立って、「研究」を行い、学生と共に新発見をするのが、京都大学における最高の「教育」である。学生は研究を行う中で、自ら勉学し、飛躍的に実力をつけます。
- ・ 総長特別経費を具体的にどの様に使おうとするのか、説明の全くないアンケートは回答者に困惑を随分与えることを考えて欲しい。
- ・ 本調査については不明ですが、統計的に判断して不必要に「全員から」アンケートをとることは、意味がないかも知れない。多忙な人はアンケートに答えないでしょうから。もっと的を絞り、指名制で時間をかけて、意見を徴集してもよいでしょう。
- ・ おおむねよく構成されていたと思います。
- ・ 設問14や28は、研究室配属された学生と、それ以前の“一般的”学生のいずれを念頭におくかで大差があり、あまり意味をなさないように感じる。
- ・ 助手には何故配布しないのですか？講義は担当されてなくても実習・実験・研究指導を通じて学生を教育している方は多い筈です。
- ・ この種の調査は非常に多く行われている様に思いますが、報告書を作ったら終わりという形になっているようにも思えます。具体的な利用法を考えて下さい。
- ・ 調査結果を期待しております。
- ・ 小生の勉強不足故、質問の中で、知らないこと（FDや公開授業）があり、回答が的確にで

きない部分があった。もう少し、種々の試みの紹介をして頂きたい。

- ・ 良い試みと思いますが、選択肢の設定内容にやや疑問が残ります。「選べない」or「選びにくい」設定が多く感じられました。
- ・ 大学のカリキュラムには、講義と演習があり、進め方に講義形式とゼミ形式があります。講義だけに限定されて質問票ができていますようですが、一考の余地ありと思います。
- ・ とりまとめ方法を工夫しなければ、効果は少ないと思う。
- ・ この調査は、「意図的に教育方法を一つの方向に持って行こう」としているように感じられる。University ですから、色んな先生がおられて、色んな考え方があってよいのではないのでしょうか。それが、京大の良さであるように思います。
- ・ 問22の設問にありました「京大卒業生の意識調査」などの調査報告書は、助教授講師層まで配布されているのでしょうか？回答者はこのような報告書を見ていませんが、もし、このような報告書が教授層にだけ配布されていたのであれば、このアンケートを作られた方自身の意識をまず改革しなければならないのではないのでしょうか？
- ・ アンケートより地道な実践が必要なのでは？アンケートをするのは報告書を書くため／実践に活かすため？
- ・ 設問を工夫下さい。対立軸を明確にすると良いと思います。
- ・ 電子メールか www でも回答できればよい。
- ・ アンケート調査は「自分たちが調査されている」という意識で取りくんでほしい。本調査は何が目的なのか全く判然としない。
- ・ 選択肢が比較的フェアに出来ていて、一方的に誘導するような姿勢がないところを高く評価する。ただし、問い14は少々答えにくかった。
- ・ 教官の意識を調査するだけで、教育改善につ

ながるのでしょうか。教育に対するセンターのお考えとか展望などをご披露いただければ有り難いと存じます。

- ・ どこに重点が置かれているのかははっきりしない。これまでの調査結果に加えて、教官が教育現場で感じる問題点を広く集め、本学での教育に関わる問題点の本質を明らかにすべきではないのか。
- ・ 調査の目的がよく分からない。
- ・ ぜひこのような調査をご継続下さい。
- ・ 学生を大別すると
 - 1、主として1、2年次（低学年）学生：全学共通科目受講時期
 - 2、主として3、4年次（高学年）学生：専門科目受講時期
 - 3、4年および大学院学生：卒論・修論・博論、研究室分属後それぞれの段階において、学習の内容とともに学生の意欲、教官の接し方がかなり異なるように思える。本調査はどの段階の学生を対象とするかによって回答も異なる。たとえば「設問10」については上記3の学生。
- ・ よい調査だと思います。自由に書かせていただきました。
- ・ センターの Activity と Materials が示されていないので、問題意識が持てないように思う。（調査結果の止揚が困難と思われる。）
- ・ 少人数教育（ポケゼミ）のフォローアップ調査など具体的な、焦点を絞った調査も必要と思う。
- ・ アンケートは数字となるが、見る人間の器量でどうにでも理解できる。前の学生への調査結果の理解は大いに間違っていると思います。この調査もそうならないように、調査されたい。
- ・ こうした調査は、先の卒業生、4回生の調査と併せて意義深いと思う。
- ・ 集計結果を教えていただくとともに、結果について話し合える場をセットしていただきたい。

調査御苦勞様です。

- ・ 設問がねられていない。
- ・ この調査も意義は大きいと考えるが、文部省を中心に進められている自己点検自己評価では「教育」についてほとんど触れられていないことを思うとむなしい。ただ、講義やセミナーで行うのが教育ではないと、とくに実験科学系の小員は思う。On the job trainingこそが必要であり、本調査にはそのあたりが理解されていないので不満である。
- ・ good timing
- ・ アンケートをまとめて、一応の傾向や要望が分かったら、いろいろ条件上の不利もあると思うが、現状の中で、実行あるのみだと思う。まず実績を作って、次なる環境の改善を目標とすべきであろう。どの大学も、その大学のおかれた環境の中で、最高の学問をめざすべきであろう。当然一足飛びには行かないので、一つずつ階段を追って行かねばならぬことは当然である。その大学なり、その研究室なり、その教室なりが現在どの段階にあるか、しっかり分析、認識することが大切である。それから目標を定めて再出発すべきであろう。
- ・ 問27で述べたように、調査の主旨があいまいである。現在小生は4回生5人、修士以上10人ぐらいをかかえている。学部3回生への講義は重要であるが、生活の重点は、修士以上の学生の意欲をかきたてて、創造的な研究へと誘導することである。学部3回生以前に対する教育の問題は重要であるが、日常としては、修士学生以降に重点が行く。そのような教官へのアンケートとしては、この調査は不十分であると思う。
- ・ ① 3、4の問いは不要だと思う。教育と関係のない事。もしデータ処理の対象にされたら、それは discrimination です。
- ② 11、12の問いの回答は、院生と学部学生との場合で大幅に異なるので書けませんで

した。

- ・ 是非集計結果を見てみたい。
- ・ 単なる教育教授法の向上を目指すのならあまり意味は深まらない。小手先のテクニックのみ改良、分析しても無意味である。教育は、教官個人の人格と相手（学生）の人格のふれ合いであるから。そこで提案
 - 1、これまでの教官のあり方についての分析
 - 2、現在の教官のあり様（よう）の分析
 - 3、望ましい教官、教育者像の確立とその指針づくりを評価また事務方の意見も聴取すべきである。事務方の教育者（教官）に対する視座は、かなり当を得ていて、鋭いものがある。
- ・ アンケートは、とてもよいことだと思う。
- ・ 学生の意識は年々少し、ある時は大きく変わる。調査したことが、将来の学生に完全にあてはまるか？継続して学生・教官への意見を調査していただきたい。
- ・ 第13問の解答が非常にしにくい設問になっています。
- ・ 教育の意味が、古い定義でなされている。
- ・ 技術論にすぎるきらいがある。日本の大学の構造的欠かんと関連させた議論が必要ではないか。そうでないとみんななんとかしたいと思いつつ多忙でいっこうによくない。
- ・ 大学院重点化、大学改革は教育の改革であると思います。しかし、教官の意識は総じて、学部教育が楽になることのように思っておられる気がします。これは大変危険で京都大学の崩壊につながりかねないと思います。よく、学生に研究に打ちこんだ姿を見せればおのずと立派な教育となるという考えもありますが（自分も一時そのように思っていた）、それでは学生は教官を超えることは出来ないと思うようになりました。教官は学問においても人格においても、自分より優れた人物を育てることを目標として教育研究を行わなければならないと強く思うよ

うになりました（年を取ったせいかもしれません）。そのためには、学部での徹底的な基礎教育が必要と考えます。このような観点からの調査をしていただければと思いました。

- ・ 全学的に大学院重点化が進み、研究重視の体勢ができた。もちろん学部での教育（講義や実験・実習）等を軽視してはならないが、私達の学問分野では、研究室に4回生が配属になり、大学院へ進み、実験研究に従事することにより、学問的・知識・技術の修得さらに人間形成が格段に進む。この調査で対象としている教育が具体性に乏しいように感じる。少なくとも全学共通科目、学部専門科目、大学院での教育などに分けて調査すべきであり、また各専門分野によって回答が異なってくる場合があると思うのでそういった配慮もするべきではないか。
- ・ 1、どれ位の回答率がありますか？
2、京都大学の教官としての授業にかかわる労働負担部分のある程度の平等化にこのような調査が何かプラスになってほしいと思います。
3、今京都大学の教育を考える上で、全学共通教育における二重登録の容認という悪しき伝統の廃止が大変重要であります。この問題に全く触れていないのは問題ではないでしょうか。制度、システムの問題の解決が教育全体の問題にとって不可欠です。
- ・ 意味不明
- ・ 文書（調査報告書）による結果報告の他に、パネル・ディスカッションなど、多くの教官の参加できる場での口頭の発表も考えてはどうでしょうか。
- ・ ？
- ・ この調査が具体的に何をめざしたものなのか必ずしも明らかではないように思える。もちろん、「自覚を促す」意義はあるような気はするが・・・
- ・ こういう調査を通じてセンターが実施した調

査やセンター自身の存在を知らしめることになるので、こうしたアンケートは定期的に行った方がよい。またその際にセンターの活動内容を記したパンフレットのようなものがあるともっとよい。

- ・ やるべき調査だと思います。しかし、分析とその結果の普及までを視野に入れた場合、スタッフや資金はキット充分ではないでしょう。大学教育が「何もしないことが教育」という、今となってはかなりヒドイ教育が根強く残っている現状を変えるために、この調査が第1歩となることを願っています。
- ・ 貴センターの活動について勉強不足のために十分にお答えできないところがありました。勝手なお願いですが、この調査票とともに少し説明書のようなものを添えていただけたら、もうすこしよく分かったかと思いました。しかし、予算も少なく、人手も限られ、実際には大変でしょうが。ご苦勞様です。
- ・ 研究所の教員は学部教育に直接関与していないのでかなり事情が異なる。
- ・ 理科系では実験実習が非常に重要である。最近ではコンピューターでやれば学生もなんとなくわかったつもりになるが、これは一つの手段で、実物ではない。本当に自然現象が理解できるための教育のあり方は小学校から大学まで今非常に重要になってきている。理科系の教育の実態にせまる調査が欠けていると思われる。第一線の理系の研究者にも協力を求めてはどうか。
- ・ 結果をお知らせ下さい。
- ・ 質問事項がパターン化しており、これらを見ただけでアンケート集計結果の概略が想像できるやうに思はれる。教育の問題は教授と学生の関係だけではなく、教育研究環境、設備、補助要員の問題など機構制度的な問題の中で考へるべき点が多いと思ふ。教授法といったものだけに矮小化してしまふのは大いに問題ではなからうか。

- ・ この調査の質問内容は私共が日常教育に関し
て行っていることとおおよそかけ離れており
ます。学部によっては教育内容に大差があり、
医学部関係特に臨床系ではここに出てきている
質問に答えることは困難です。このような十把
ひとからげのようなアンケートは意味があるの
でしょうか？
 - ・ 新任のため、本学における授業の経験がほと
んどないため、解答できない箇所が多くありま
した点、御配慮下さい。
 - ・ 研究所の教官に対するアンケート（内容がか
なり異なるので）を実施して欲しい。
 - ・ 研究所に所属していて、学部学生との接触が
少ないため回答しにくい所があった。
 - ・ 調査の集計結果を公表していただきたい。
 - ・ 私は研究所に所属し大学院のみに関わって
いるせいかも知れませんが、学部と大学院を一
緒にした設問にかなり答えるのに苦勞を感じま
した。
 - ・ この調査結果は、学生の指導や教授法にど
のように反映されるのだろうか？
 - ・ 教室での学生と研究室で個別につき合う学
生とは自ずと差が生じることになります。学部
間で教官と学生との関係に相違があるでしょう
から、文科系と理科系とを種別した上での調査
も必要でしょう。
 - ・ アンケート調査の焦点が今いちつかめな
かった。回答困難な点は特になかった。
 - ・ センターの活動を open にするために、こ
のような調査を行ってほしい。
 - ・ 結果は、是非、home page などで公開し
て下さい。
 - ・ アンケート結果を是非知らして下さい。
 - ・ 大学教育に関する調査・分析も行って欲
しい。
 - ・ 調査することの意図とか意味がよくわか
りません。
 - ・ 最近めだってきた学生気質の異変は、30
年以上の長い時間をかけた日本社会の変化に
対応し
- た、悪い方向への結果の一つだと考えています。
この調査は、教師側のものですが、学生に対
する調査で、学生たちの心の内面を少しでも理
解出来るものを作って頂けないでしょうか
- ・ 例えばⅡ―8の質問項目のように、理想と
する活動のあり方をきかれても、現実が、そう
なっていないことが多く、回答側として前提
そのものについて考えさせられるため、後の
回答をする時にちぐはぐなものを感じて答え
にくかった。
 - ・ 実名を記入して調査しても良いのではない
か
 - ・ 状況設定のない一般論に直結するタイプの
選択肢設定のきらいがある。
 - ・ 提出がおくれ、申し訳なし。ラジカルな
意見なので、無視されてよし。「高等教育・
・・・センター」の調査として、改善の方策
などこれだけしか選択肢を思いつかないのか、
とさびしかった。
 - ・ 教官全体の意識を探るには、
 - (a) 自らを客観視出来ているかの座標軸
について質問してみる。
 - (b) 自分が学生の頃と比べどれだけ今の
学生に役立ち得るか。
 - (c) 文化、教養、常識と自己の専門分野
についてどれだけの意見を確立しているか。
 - (d) 自己主張と人の意見を聞く耳のバ
ランスについてどう考えているか。
 - (e) 前述 (29) のポイントにつき質問
してみる、など
- 本調査の有効性等への疑問**
- ・ 書き出しの一文がひどい。最初から協
力するのが当然と思っているのだろう。「カ
チン」と来たが、だまっているのは良く
ないと思い、解答をした。前に書いたよ
うにこのような調査に厳しい目をむけて
いる者もいることを自覚されたい。
 - ・ センターのお立場としてはこのような
調査を

なさる義務がおりなことは重々承知いたしておりますが、文学研究科の教員としては、正直申し上げてあまり意味のあることとは思いません。○をつける項目がなく、どう回答するか苦しんだというのが本当のところだと思います。できればこのような調査は今回限りにしていただければと願っています。

- ・ 書かれている目的が抽象的で何がわかりどう改善できるのかよく理解できません。報告書で教えて下さい。
- ・ アンケート方式では、実態の認識に限界があるろう。
- ・ あまり有意義なアンケートとは思えない。
- ・ このような調査の意義を理解できない。
- ・ このような調査はあまり役に立たないのではないか。時間とお金のムダ
- ・ このような意味の乏しいアンケート調査が多く、我々の時間を使っている。一つ一つはわずかでも全体では大きな負担となる。教育に大切なものは我々の余裕（時間的、精神的）であることをもっと認識してほしい。
- ・ 最近この類の調査がいくつかありますが、このアンケートで何かわかるのでしょうか？
- ・ 最近京大ではどこでも教育、々と大騒ぎですが、このような調査から、改善できる成果が得られるのでしょうか？いつでもむなしい気持ちで回答しています。
- ・ あまりアンケートにたよりすぎるのはよくない。もっと実際の場で活動せよ。
- ・ このようなアンケートが、改革に役立っているのか疑問。
- ・ 調査ばかりして、どう生かせるのか？疑問に思うことが多い。本調査もそうならないよう望む。本調査の目的があまりわからない。もっと根本的に（設備、待遇など）が改善された方が、よくなるのでは？

大学の教育改革について

- ・ ご苦労様です。しかし京都大学はいつからこんなに教育熱心な大学になってしまったのでしょうか。私はかつての放任主義の方が結果的には「教育」にもよいと思います。
- ・ 研究と教育は別と考える見方もなりたちますが、大学が教育機関でもある以上研究が進めば教育が改善され、教育にうち込めば、研究が進展するという相互作用の関係にもってゆくべきと考えます。この手の調査は時々、行いフィードバックして頂きたいと思います。
- ・ 興味深い調査ですが、多分京大の教師はあまりにも教育熱心でないことがはっきりしてしまうのでは？
- ・ 個人的には、教育者である以前に、法、医などは専門家であり、実務家でもある。研究指導には力を尽くす用意はあるが、目的意識と向上心のない者にまで手を差し述べる気はない。その種の者は、本人のためにも、なるべく早く、引導を渡してやるべきであり、貴センターが、「全員を救いあげる」ことを目標とされているなら、それは誤りと思う。また、研究者に過剰な教育負担を課するような提言は、学術研究を阻害しかねない。ご配慮願いたい。
- ・ 現在の教官の荒廃の根因は、大学の卒業がいつも簡単にできることにある。この根本的疲弊をあらためずして、いたずらに授業方法について議論するのは、学生に迎合する危険がある。さらに、教官側の姿勢をただすという意味でも教官の資格審査の導入を検討すべきである。
- ・ 大学院重点化、留学生増加、社会人の受け入れ、多様な入試方法、などの状況により、教育をめぐる環境が悪化していることにも着目すべきである。個々の教官の意欲や努力のみに依存するような教育の充実策は、研究業績評価が厳しくなる中で困難になっている点も同様である。教官をとりまく状況全体に注意を払ってほしい。
- ・ 現在、私はこれまでの教育方法に自信をなく

しかけている。したがって、この種の調査結果を含め、大学教育の改善へ向けての積極的な取り組みに、大いに期待しており、自分も学びたいと思っている。

- ・ 御苦労様です。よい京大生が育つよう、excellent staff にみがきがかかるようにおねがいします。
- ・ 自分の教育態度を見直すきっかけとなった。ぜひ調査結果を各教官に知らせて欲しい。
- ・ 大学院重点化により、大学院生に対する教育に費やす時間やエネルギーが増えました。従って、「教育」と「研究」の区別があいまいになってきています。
- ・ Too much Information spoils students.
⇒ 学部学生に対しては、自分の直接の専門分野についての講義は行わないこと。詳細に入りすぎるから。
- ・ Too much care spoils students.
⇒ 学生が喜ぶ講義が、良いかどうかは疑問がある。卒業の要件をきびしくして、学生の自覚を待つべきである。
- ・ 我々の学部、特に臨床学は、まず診療という部分でほとんどの時間が費やされ、教育、研究に使える時間は正直なところ極めて少ない。にもかかわらず、我々に対する待遇はというと、単なる教職の俸給しか出ていない。他学部や医学部基礎系の教官とは、明らかに時間の使い方がちがっており、教官の待遇も向上させなければ、誰も大学に残って研究、教育を行おうと志すものがいなくなってしまう可能性がある。この問題は大学レベルではなく、文部省レベルの話になると思うが、切実な問題であることを特記したい。
- ・ 大学とは何か、京都大学と何かについて一定のまとめがない現状では大変難しいことだと思います。小生のように（１）研究科の教授（２）学部学生の教授（３）病院の医師では“三兎を追わず”も良いところですよ。小生の感

想ではアメリカの大学の悪いところだけがどんどん京大にも流入している感じです。

- ・ 大学教育は、教官、学生の双方に責任のあるものであり、教官側の努力だけで、改善できるものではない。入試制度の改善をも視点に入れた改革をめざすべきである。
- ・ こと医学部に関しては、各教官には臨床に膨大なウェイトがかかっている実態を考慮せねば医学部教育は成り立たない。患者を一生懸命診察することと、教育を励むことは二律背反的要素があることを肝に銘じて頂きたい。
- ・ 臨床系講座では学部学生との接触はきわめて少ない。実際上の教育は、臨床教育については（卒後）研修医が中心で、これが臨床系教育の現在の根幹に位置している。臨床系講座の中でも、眼科や耳科といった、さらに専門化された講座では、内科や外科といった大項目の講座と異なり、国家試験ともあまり関係がなく、学生は当然ながら、こうした講座には興味を示さない。我々のような専門家の教育は、学生よりも、むしろ、卒後研修医の教育に重点を置き、特殊科を選考する意欲のある志望者（＝研修医）を対象にすべきである。つまり、臨床系講座の教育は、単に、学生のみを対象とするのではなく、卒業研修者も含めて、もっと広い視野から、技術的な教育体制を作る必要がある。
- ・ 教育改革といっても結局、教育の負担が大きくなるだけである。京大は専門学校になってはいけない。実習以外は教科書、参考書を示し、学生に自習させて、講義はほんの少しというのが私の考えである。京大生なら充分やっているとと思う。
- ・ 大学教育の改善は入試方法の改善を抜きには考へられないというのが私の最近の結論です。選抜方法に何か妙案はありませんか？多くの勉学への意欲を持った若者が、受験技術習得優等生（灘などの一部私学が独占）の後塵を拝し、本学への入学を阻まれていると思えてならない。

これは私だけの思い違いか・・・

- ・ 「教育」の重要性は論を待たない。
- ・ 講義は不要と思う。(制度上しぶしぶやっているが) 学生の自学自習が一番重要であり、教官の講義に依存すべきではない。「講義」は歴史的な遺物と思う。そのような立場で大学の教育を考え直してみるべきである。
- ・ 学部のみならず大学院教育の問題にもいち早く取り組んでほしい。
- ・ このような調査結果を初等教育～高等教育に携わる人々に伝え、幅広く解決することが勧要。大学だけでいくら考えてももっとも根本的なことは何一つ解決されず“how to”ものしか変化しない。
- ・ 概して、最近の学生（とくに研究室に配属されてくる学生）を見てみると、そのやる気のなさにガク然としてしまう。理科系の学生でありながら、自分で興味をもった分野の関連図書（物理、化学、数学等）を読んだ（より正確には読もうとした）経験のある者などまずいない。講義には出席しても、自分で理解しようという気持ちがない。最近、学生による教官の講義評価を導入する動きもあるようだが、筑波大などでそれを経験している教官らの意見は極めて否定的だ。彼らは学生側の要望をとり入れざるをえず、その結果、講義内容の削減（理解に時間を要する重要な概念のいくつかを削除する）を行うと、大変評判が良くなったそうだ。これは長い目で見ると、かなりマイナスになると思う。大学側はもっとキ然とした態度で望み、学生に対し、「これだけのことを必ずマスターせよ」と宣言し、実際、それを実行に移すべきである。マスコミに代表される無責任な（人気取りの）意見に耳を貸すべきではない。
- ・ 大学院重点化になっても何も変化していない。以前のままの講座制が存在している。教授の方々は将来の京大についてもっと考えるべきである。
- ・ 大学の全教官が1年間活動をやめて日本の教育の将来を考えるぐらいのことをしないと何もかわらない。
- ・ 教育の改善がどうか改悪にならぬよう御尽力下さい。
- ・ 論文点数至上主義によって京大が崩壊するのをせめて死に水とってくれると良いと思います。
- ・ 大学は教官と学生のみでなく、今や最も偉く、教官も学生もだまる事務官（事務部）（または執行部といってもよい）の存在を忘れて大学教育の改善はありえない。人員削減、経理事務の適正化とか何とかでお役所仕事の雑用が増えたり、学業成績（単位）の電算化で履修届の本来の意味がわからなくなったり、教官のコンセンサスもないまま急に講義を押しつけたり（ポケットゼミ）、1クラス200人を越える専門教育をせざるを得ない（工学部大学科制）ような教育行政がまかり通るようでは教育改善はむづかしい。したがって、これらの方面（事務部）に対してもアンケート etc.の調査をお願いしたい。
- ・ 私は、元来、高等教育支援センター（略）が必要な理由がよく判らない。もし、本センターが、教育の技術的側面の改善を目指して、教授法を一般教官に指導しようとするのなら、本当にそんなことが必要であり、役に立つだろうかと深い疑問をもたざるを得ない。教室に設けてあるスピーカ、視聴覚ソーチ、または一時アメリカに於いてはやったが、結局はその無効性によって消え去ったティーチングマシンなど、技術的ソーチを導入して、教育内容が向上するわけがないと思うのです。高等教育は、もっぱら、指導教官の卓越した学問的素養・能力とそれを青年たちに伝え導きたいという善良な熱意によって支えられるものではないでしょうか？
- ・ 私どもの所で進めている、3人の教官が同じ日に同席し、順番で講義する（連講）は、なかなか効果が上がっているように思われます。最初の3回は、Introduction、次の9回は各論、最

後の1回は、総合討論で、関係教官（3人以上）だけでなく、学生も交えて討論する。ときに、教官同士が激論を闘わすこともあります。

- ・ 教育方法の改善の必要性を理解しますが、もっと根本の所で大学、職員—学生の協力関係を変える必要がある。京都大学に課せられている21世紀の課題は

- 1、国際競争力をつけること
- 2、国際協力をもっと盛んにすること。

この課題に向かって教官、学生が進めば、京都大学は根本的に良い方向に発展するはずです。

- ・ 講義中に学生が全く質問をしないことをいつも残念に思っています。しかし研究室のゼミでは1（教官）：1（学生）あるいは1：2ぐらいでやっているの結構活発な議論を行っています。従っていまのところは、ゼミが大学の教育の中心かと思っています。講義についてはできるだけ理解させたいと思って、今教科書を執筆中です。
- ・ このような調査をしなければならない現状の大学教育は大変だと思う。
- ・ 教育の方法にこれまで多くの教官が目を向けなかったのはまちがい。しかし一気に転換をはかるのもむづかしいので、例えば written English しか知らない人に hearing をおしえるように、ビデオ等をつかい、ゆっくり、じっくりその教官の考え方を変えてもらう必要あり。
- ・ 京大の授業法じたいに問題点があるのは確かで、改善の余地はおおいにあると思う。しかし、多くの教官は、問題点があるのを意識しつつも、時間的な余裕がない、という理由で改善の実行ができない場合も多い。例えば、「声が小さい、字が小さすぎて読みにくい」というのは、改善のために時間がかからないので、すぐ実行可能であり、また実行すべきであるが、「授業でちょっとした実験をしてみせる」というのは、やはりそれなりに準備期間が必要で、すぐには

実行できない。後者のような時間がかかる改善をするには、やはり、教員の評価制度、および、教員の委員会等での仕事（いわゆる雑用）の問題が解決しないとだめだろう。ともかく、研究だけでは昇任が決まる、という現在の制度では、多くの教官は、きっちりと講義はするが、学生により興味を持たせるような時間のかかる工夫をすることには消極的にならざるを得ない。また、雑用に追われて、ほとんど自室にいないような教官に、「学生と親密なつながり」を期待する方がむりだろう。高等教育教授システムについて、改善の方法や問題点の指摘をしていただくことは大変ありがたいし、参考にしていきたいと思うが、ある程度以上の改善はどうしても時間をとられるので、上記のような制度的問題についての改善なしには実行が難しく、無力感を感じる。

- ・ 最近アメリカの大学に招かれて学生へ特別講義を行った同僚の話によると、その大学では10回くらい提出を求められるレポートを1回でも出さないと、単位を取る意志の無いものと見なされるとのことで、学生は非常に真面目に勉強しているとのことである。アメリカの大学が多数のノーベル賞受賞者を出すのは、学生も教員に対しても教育および研究成果の評価が正当に行われているからである。比叡山での討論で明らかになったように、現状では学生の勉学の評価に問題がある。1000人もの登録があり、授業には全く出席せず、試験が出来なくても単位を出す教官がいることが大きな問題である。これを放っておいて、枝葉末節のことをやっても無意味である。一般に教育に熱心な教官は、評価にも厳しい。それで学生は遊んでいても単位が取れるいわゆる「楽勝科目」を選ぶ。結果として、悪貨は良貨を駆逐するという法則に従って、単位を乱発する教官に学生が集まり、良心的な教官は教える意欲を無くす。これを無くすためには先に書いたように、まずは教科ごとに学生

の登録者数、受講者数、受験者数、単位取得者数を公表することである。実状を内密にし、遊んでいて単位が取れるような正当な評価を行わないシステムが維持できるようなのでは、いくらアンケートを行っても大学は良くならない。

- ・ もちろん、教官側が改めなければならない姿勢も大いにあるが、教育という面での評価システムがない我が国において難しい面もある。
- ・ 教育＝講義というスタンスで行われているか。本専攻においては、そして少なくとも工学部の多くの専攻 or 学科においては講義よりも卒業研究等が重要な教育になっていると思う。自らのプロジェクトを自分の考えで責任をもって遂行するという経験を通じて、勉強のし方を学ぶという意味において、卒業研究等は、多分学生にとってはじめての経験であろう。そして、はじめての本当の勉強と思われる。講義のような座学は高校までの受験勉強同様、目的意識が希薄なまま聞いているというのが実態ではなかろうか。
- ・ 大学に入学したら卒業できるシステムを見直し、外に見える形で評価し、1～2年の単位でふるいにかけていくシステムを作り、学生、教官共に教育にもっと真剣にとり組めるようにすべきである。
- ・ 基本的には日本の教育・研究システムの根幹から変えないと良くはならない。
- ・ 京大の教官に授業の方法等の支援は必要ないと思う。むしろ授業をサポートする研究・教育のサポートスタッフの充実と予算のアップと使用の弾力化が必要であると思う。時間がない、人がいない、金がない、ある金も自由に使わせてもらえないでは、なんもできないと思う。これが、京大の現実だと思うと、民営化も必要かと思う。
- ・ 学士会会報で1年程前にかなり詳しい報告がされているのを読んだ。非常に意義のあることだと思います。(センターの活動は)しかし、

一昨年30年ぶりに教養部へ行って講義をやるようになった。30年前も教室の机の並び方、黒板、スクリーン全く何も変わってなかった。教育設備に対して何の関心もない無責任な体制に憤りを感じた。アメリカ、イギリスの大学をいくらか見て回る機会があった。各教室にはオーバーヘッド、スライド映写機は揃っている。スクリーンも2幕黒板の左右についている。日本ではこの分野の人たちは何をしていたのかと思うたくなる。今後は、インターネットの接続口、液晶プロジェクター（安くなっている）最低限早い機会にすべての講義室に備えるべきである。

- ・ 今、官庁や企業の重要な位置の人々（多くは有名大学の卒業生）が常識では考えられない事件に関わっています。また環境に関連した行政などを担当する位置の人にも、環境問題の重要性の本質を回避した言動が多いようです。大学における教育は、専門教育だけではなく、専門教育を通じた人間教育こそ大事であり、大学教官も講義を面白くするよりも、この点に努力すべきであると考えます。
- ・ 前向きな姿勢を評価します。私は、とくに研究を目指す修士以上の学生の教育に関係しています。従って、講義もさることながら、現在ホットな研究テーマを通じて、「研究者」の教育を行っています。授業で教えることは、私達、「研究」を重視する教官にとっては、もう「過去」の知見であり、教えるにしても、面白くも何ともない。自身の貢献した研究成果を含め、最新の成果を学生（修士以上）に教え、また、そのような最前線の研究を修士以上の学生にテーマとして与え、そのテーマを通じて刻苦勉励し、学問する醍醐味を教えて行きたい。きわめて、「研究」に重点を置いているが、単なる「受け売り」の「教育」でない、生きた教育がここにもあると思う。勿論、「教育中心」のやり方は学部以下で、重要であることは充分認識しています。

- ・ いくら授業内容を工夫しても、学生の側に「受容体」(単なるやる気でなく)ができないと効果はあがらない。「受容体」は多人数の授業ではつukれないのでは?もっと少人数でセミナー形式でおこなった方が効果的だと思う。
- ・ 私の場合は助教授で、授業がほとんどない。あるいは、持たせてもらえない。もっぱら実験室での1:1のつきあいである。現在*人(含留学生)の4回生、院生の面倒をみている。このようなsystemだと人間同士のつきあいになり、性が合わなければ1年でやめるし、信頼関係が来るとD3まで6年間の付き合いになる。最近、半年も経たないうちに「私には向いていない」とやめる学生が毎年1人はいる。その判断基準がよく理解できないことが多い。実験系は3Kなので、こらえ性のない若人にはムリなのかもしれない。でも何年かにひとりはあるような学生にあたることもあり、さすが京大だと思う。
- ・ 教官本人が自分の研究にほれ込んでいないなら、その講義なんてとてもつまらんだろうと思います。
- ・ 教官に、もっと教育に対して熱心になってほしいと思うなら、「本来事ム側で処理されるべき雑用を、教官にやらせるな!」と言いたい。我々は名こそ文部教官だが、日々の仕事の中で時間当たり最も大きな労力を作っているのが事ム的な雑用である。なぜ、研究や教育と本質的に無関係な雑用がああまであるか?本業に回す時間がなくなるではないか。{このアンケートにしても(夜中とはいえ)かなり時間をとられたが・・・}小手先の「授業研究会」などよりもっと根本的な問題があるのではないか。
- ・ 教育は技術ではなく、心だと思います。
- ・ 個々の教官も(勿論教育研究の先生方も)悩みながら一所懸命やっているのに、重点化みたいなことでマスプロ教育やレベルダウン(大学院の定数増)みたいなことが一方ではどんどん進んでいて残念です。金や大学院生の数が増加するにつれて、教官の意識が研究中心になる(特に評価に関して)ので、集団としては、個々の教官の意識から離れた行動をするようになると思います。意識調査の結果を上位の組織と比べて、(教育技術より先に)変革していくようなことができないでしょうか。
- ・ 前記(29)の記入に関連、全学共通講義というのが大変問題と思っています。
- ・ システム開発センターでは、教官の事務官化の問題、若い教官の無気力化、学生の夢のなさ、などなど1大学の問題ではない様に思えるが、対応できるのですかね?
- ・ 期待に胸をふくらませてくる新入生に対して、汚い、クサイトイレの建物に収容して、やれ教育制度がどうの研究制度がどうのはその後の話!
- ・ 極めて多数の教官が欧米での留学研究を経験しているにも拘わらず、大きな声の出ないのが不可思議。
- ・ 大学教育の改善は必要であると思いますが、共通試験、過度な受験勉強が学生をゆがめ「つまらない」学生を多くしている。この点に迄踏み込まなければ大学教育の本当の改善は望めないのではなからうか。
- ・ 御苦劳様です。いかに、雑務を少なく、若い教官を増やせるかを考えて下さい。
- ・ 大学での話しかなあと思えるところがある。
- ・ 教育はかなりな程度「技術」であり、専門的なトレーニングを要すると思う。(但し、京都大学がそれに大きな比重をかけるのは誤った選択だろう。)[調査]より[訓練]の方が遙かに実があがるのではないか?
- ・ 大学の教育については、いままで授業の方法を勉強する機会がなかった。センターの活動を期待しています。
- ・ 教育という以前に、教官自身が、努力する姿勢、厳しさを見せることが重要。

- ・ 教授システムは必要で重要だと考えます。各位のそしてセンターのご活躍を期待します。それにしても、やはり、小、中、高の教育は大いに改善されるべきと考えます。その原因である大学入試についても合わせて考えなければ、ならないと思います。
- ・ キャンパスが狭い!! あらゆる障害の原因になっている。
- ・ 学生の質が変化しているのは、大学入試制度（センター試験が出来てからヒドイ）を改める必要がある。センター試験は、60点以上あれば、良いこととするとか、あまり評価しない。昔のように大学独自の試験を重すべき。そうすればユニークな学生が集まると思う。また受験科目に片よりがある。（受かり易い科目しか取らない。）最近特に重要になった生物学は、ほとんどの学生が勉強せずに入学してくる。問題である。
- ・ カリキュラムや単位認定等に関する事務管理をもっと柔軟なものにすべきでしょう。
- ・ 本学の学生のレベルは相対的には高いので、教官の側に熱意があれば応える学生がかなりある。小、中、高では「教育技術」という concept があったが、進学率50%に近づこうとしている現在、大学でもこうした努力が必要であろう。意欲的な学生を対象とする場合には導入部で興味をひき、重要概念の詳細な説明、適切な教科書の紹介などで十分であるが、「意欲をもたせる」ことは困難？
- ・ 1、2 回生に対する教育が大変ひどいことになっており、メディアによる効率化のみならず、根本的な教官の考え方、教育へのとりくみ方、教育への寄与の評価などについてとりくんで学内世論をつくってほしい。

その他

- ・ ご苦労さまでした。
- ・ なかなか忙しくてこういう類のものに100%

- commit することが難しいですが、ご協力するにやぶさかではありません。ご苦労さまです。
- ・ 貴センターの存在と活動の一端を知ることができました。
- ・ このアンケートの質問の回答を見て頂くと分かりますが、全く貴センターに関して無知でありました。
- ・ 自由で人間的交流を増やし患者と接し人間をみがくこと。自己解決型のプログラムの多数開発（これの裏本は極秘とする）。結果通知望む。
- ・ 重要なことですが、大変むつかしいお仕事ありがとうございます。
- ・ 御苦労様です。
- ・ 高等教育教授システム開発センターの存在を知りました。
- ・ 学生や授業に対する私自身の意識を目覚めさせてくれました。ありがとうございました。
- ・ ご苦労さまです。
- ・ こういうアンケート自体、初めてなので、大変有意義だと思われます。名講義といわれるものの類を、ビデオのような視覚メディアで参考にできると、良いと思いますし、大学での教授法の開発も、大変、重要だと思います。それから、公開実験授業は、どこで行われているのでしょうか。
- ・ ごくろうさまです。
- ・ 大学の教官の意識調査として興味深いと思います。
- ・ ご苦労さまです。
- ・ 調査を有効に使っていただき、教育が改善される方向に進むことを祈ります。
- ・ このようなアンケートをよこさないでほしいというのが本音。それほど忙しい。
- ・ 大変有意義である。
- ・ ご健闘を祈ります。
- ・ この調査がプラスの成果を生むことを期待する。
- ・ ご苦労様です。

- ・ 頑張ってください。
- ・ 大変よい。
- ・ すみません。貴センターを知りませんでした。

昔は、学生が問題意識を持って教官に食らいつくものでしたが、（それが京大の学風と言われたと思うのです）最近の社会は、教官の指導をじっと待つ、しかし、問題処理能力は秀れている学生を増やしているのではないのでしょうか。このような調査は、少なくとも改善への1 step として意義あるものと思います。